

第二百二條 町村税ハ左ノ者ヨリ成立スルコトヲ得。

一 國税中直税ノ割賦地租ノ割賦ニシテ若シ百分ノ十ヲ超過スルトキハ縣廳ノ許可ヲ受クル者トス。

二 特別ノ町村直税收入税、營業税、地租、家屋税資本上所得税等又ハ特別ノ町村間税特別ノ町村直税及間税ニシテ新ニ設置セラレ又ハ増加セラレ又ハ其ノ原則ニ於テ變更セラルベキトキハ縣廳ノ許可ヲ受クベシ。

第二百三條 町村目的ノ爲メ殊ニ又公安ヲ維持シ及町村事業ヲ執行スルニハ町村會ノ決議ヲ以テ町城管民(第三十七條)ニ其夫役ヲ負擔セシムルコトヲ得。

町村夫役トシテ學術、美術又ハ工業上ノ勞力ヲ請求スルコトヲ得ズ。

町村夫役ハ平均二十六歳乃至六十歳ノ町城管民中男子ニ分配スル者トス、若シ其事務ニシテ全體ノ共同事業ヲ要セザル場合ニ於テハ順次ニ之ヲ負擔セシムベシ。但町村夫役ノ平均分配ニシテ町城管民種々ノ勞役ニ不權衡アルトキハ町村申合規則ヲ以テ該町村事務ノ分配ヲ町村税又ハ他ノ標準ニ據テ議決スルコトヲ得。

夫役ハ貨幣ヲ以テ計算スベシ。

夫役ハ義務者ノ探擇ニ因テ本人又ハ適當ナル代理人ヲ以テ之ヲ爲シ又ハ計算ニ因テ町村會計ニ

納ムルコトヲ得。但火災ノ消防及救助勞力、水害等危急ノ場合ノ夫役ハ請求ニ依テ本人之ヲ爲サザルヲ得ズ。

第二百四條 町村夫役ニシテ本人ノ除免ハ皇族及第 條ニ記載ノ軍人ヲ除クノ外官吏僧侶公立學校教員及町村廳員ニシテ土地所有又ハ常立營業ニ因テ義務ナキ者ニ限り之ヲ受クルコトヲ得。

第二百五條 公然ノ事業又ハ公然ノ使用ニ確定セラレタル土地ハ總テ町村負擔ヲ免カル、者トス。

第二百六條 町村税、町村夫役及其町村夫役ニ代ル貨幣額ニ關スル徵收簿ハ町村長之ヲ製シ所轄區長ノ認可ヲ受クベシ。町村長ハ一週間内其認可ヲ受ケタル徵收簿ヲ各民ノ縱覽ニ供スベシ。但其前ニ其地習慣ノ方法ヲ以テ縱覽ノ時ヲ町城管民ニ公告スル者トス。

第二百七條 何人タリトモ町村税又ハ町村夫役ノ賦課ニ付キ不當ト信ズルトキハ徵收表公告後最初ノ六週間以内ニ其出訴ヲ町村長ニ提出スベシ。但此期日ヲ經過スルトキハ負擔ノ減少又ハ免除其他其曆年度ノ拂戻ニ關スル請求權ハ消滅スル者トス。若シ期日經過前ニ出訴シテ理由アリト認メラレタルトキハ曆年度ノ爲メニ減少又ハ全ク免除ヲ爲スモ既ニ經過シタル年ハ之ヲ拂戻ササル者トス。

第二百八條 町村長ハ町村税及町村夫役ニ對スル出訴ヲ裁決ス但町村長ノ裁判ニ對シ不服ナルトキハ郡總代ノ裁決ニ對シテ不服ナルトキハ縣廳ニ控訴スルハ此限ニアラズ。

第二百九條 町村税ニ對スル出訴ハ猶豫スルノ効力ヲ有セズ、成規通りニ賦課シ及公告シタル町村税ハ國税ニ均ク強制法ヲ以テ之ヲ督促スルコトヲ得。

第二百十條 町村長ハ所轄區長ト共同シテ各年度ノ始ニ各町村ノ豫算表ヲ起草シ町村會ノ決議ヲ以テ之ヲ確定シ郡長ニ提出シ該費額ヲ以テ町村經濟ヲ立ツル者トス。

起草シタル豫算表ハ町村會々議前ニ町村會ヨリ指定スル場所ニ於テ十四日間之ヲ町村各住民ノ閱覽ニ供スベシ。

第二百十一條 豫算外ノ經費ハ町村會ノ承諾ノ外ニ又郡長ノ許可ヲ受クベシ。

第二百十二條 町村長ハ豫算又ハ特別ナル町村決議ヲ以テ定メタル收入及支出ニ付テ之ヲ指揮シ所轄區長ノ助成ヲ以テ會計ヲ監督スベシ。

第二百十三條 町村ノ諸村ノ諸貨幣ヲ收入シ及之ヲ保護シテ町村ノ諸支出費ヲ掌ル所ノ町村收稅者ハ町村長ヨリ命令書ナクシテ支拂ヲナスコトヲ得ズ。

第二百十四條 町村收稅者ハ一ノ帳簿ニ町村ノ諸收入及諸支出ヲ登記シ該帳簿ニ因テ其何時何處ヨリ拂入レタル總テノ貨幣ヲ受領セシカ又ハ何時何人ニ如何ナル目的ノ爲メニ拂出シタル諸支

出ナルカヲ明瞭ニスベシ。

第二百十五條 收支決算ハ其決算年度經過ノ後三ヶ月以内ニ町村收稅者之ヲ調整シ、其附屬書類ト與ニ之ヲ町村長ニ提出スベシ。町村長ハ所轄區長ト與ニ其決算ヲ査閱シ之ニ備考ヲ附シテ其検査確定及認允ノ爲メニ之ヲ町村會ニ提出スベシ。

決算ノ確定後之ヲ十四日間町村民ノ閱覽ニ備置クベシ。

確定決議ノ寫ハ直チニ郡長ニ送致スベシ。

第十五章

所轄區事件殊ニ所轄區財政ニ關スル 所轄區長及所轄區收稅者ノ權利義務 及事務

第二百十六條 町村事件ニ關スル所轄區長、町村長及町村收稅者ノ權利義務及事務ニ係ル前章（第七十七條乃至第二百五條）ノ規定ハ所轄區事件ニ關スル所轄區長、及所轄區收稅者ノ權利義務及事務ニ適用スル者トス。特ニ町村ノ財政中町村ノ豫算合計其他負債ニ關スル個條ハ所轄區ノ財政ニ適用スベシ。

第二百十七條 所轄區ノ要スル費用ニシテ若シ所轄區財産ヲ有セザルトキハ所轄區會ノ決議ニ因テ定メラレタル金額ヲ所轄區ヲ爲ス所ノ各町村ニ分擔方法ヲ以テ徵收スル者トス。所轄區會要求スル金額一半ノ分擔ハ最近人口調査ニ係ル各町村ノ人口ニ據テ各町村ニ施行シ他ノ一半ハ各町村ニ納ムル所ノ直接國稅ニ因テ各町村ニ分擔セシムル者トス。所轄區中ノ各町村ハ所轄區ニ於テ要スル貨幣(所轄區費)ノ分配方法ニ付テ調和スルノ義務ヲ有ス、既ニ施行シタル分配ニ準ジ、所轄區中各町村ヨリ納ムル所ノ所轄區費額ハ又其關係町村ニ於テ町村稅ヲ賦課シタル方法ヲ以テ町村管民ニ分擔セシムル者トス。

第二百十八條 各町村ハ其納ムル所ノ所轄區費額ノ通知後六週間以内ニ於テ其賦課セラレタル所轄區費ニ付テ所轄區長ハ出訴スルコトヲ得、此出訴ニ付テハ第二百七條乃至第二百十條ニ記載シタル規定ヲ適用スル者トス。

第二百十九條 町村ニシテ一ノ所轄區ヲ爲ス者ノ費用ハ他ノ町村需用ニ均シク之ヲ徵收スル者トス。

第十六章 町村(町及村)所轄區及其管理ニ係ル

監督

第二百十條 町村及所轄區ノ監督ニシテ本法細則ヲ以テ特別ニ確定セザル者ハ第一階段ハ郡長ニ於テ第二階段ハ縣廳ニ於テ之ヲ施行スル者トス。但所轄區長ハ町村政ノ監督ニ付キ郡長ノ機關タルベシ。

郡長若シ特別ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ町村及所轄區會ニ於テ參決權ヲ有セズシテ首坐ヲ務メ該會議ノ招集ヲ整理スル者トス。

此等ノ町村會ニハ所轄區長ヲ招集スル者トス。

第二百十一條 監督廳ハ特ニ左ノ權利義務アル者トス。

- 一 各所轄區及町村ノ管理ハ諸法律及特ニ本法ヲ以テ組成セラレ又ハ施行セラル、コトニ付テノ證明ヲ得ベキコト。
- 二 管理ハ常ニ定メラレタル順序ヲ逐テ諸般ノ妨害ヲ除クニ注意スルコト。
- 三 町村及其機關ノ權限ヲ超過セザルコトニ注目スベキコト。
- 四 所轄區及町村ノ義務ヲ盡クスコトヲ保ツベキコト。
- 五 町村及所轄區財産ノ基本ヲ保護シテ町村及所轄區ニ不當ナル負債ヲ以テ負擔ヲ爲サシメズ又ハ常ニ計畫ニ從テ負債ノ辨償ヲ爲スベキコト。
- 六 本法ヲ以テ監督廳ニ委任シタル場合ニ於テ之ヲ決スルコト。

第二百二十二條 監督官廳ハ其監督權ヲ施行スル爲メニ各時町村及所轄區及町村機關ノ事務ニ付説明及證明ヲ請求シ書類ノ送致特ニ又豫算表ノ送致其他決算ヲ請求シ、又必要ナル場合ニ於テハ直チニ説明殊ニ又町村及所轄區收稅者ノ會計簿記及事務ノ検査ヲ爲シ又町村及所轄區政ヲシテ其義務ヲ盡クスコトヲ保持スルノ權アル者トス。

第二百二十三條 所轄區會及町村會、決議ニシテ若シ其權限ヲ超ヘ成法又ハ條理ニ背戾シ又ハ町村ノ利益ニ妨害アル切迫ノ場合ト認ムルトキハ監督官廳ハ所轄區長又ハ町村長ニ命ジテ本法第八十條及第九十八條ニ準ジ一時其施行ヲ停止セシムルノ權利義務アル者トス。所轄區長又ハ町村長ノ停止處分ハ猶豫スベキ效力ヲ有セズ。

停止處分ニ對シテ町村會又ハ所轄區會ハ郡總代ニ郡總代ノ決議ニ對シテハ縣廳ニ出訴スルコトヲ得、縣廳ノ裁決ニ對シテハ東京ニ設置スベキ高等行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得、其設置ナキ間ハ法制局ニ控訴スベシ、但控訴及停止處分ニ對スル出訴又ハ控訴ニ對スル判決ニ係ル期日ハ三週間トス。

第二百二十四條 町村又ハ所轄區ニ於テ成法上町村又ハ所轄區ノ義務タル負擔ヲ其定額豫算ニ編入セズ、又ハ臨時ニ承諾スルコトヲ怠リ又ハ敢テ之ヲ肯ゼザルトキハ、郡長ハ職權ニ因リ其理由ヲ説明シテ之ヲ定額豫算ニ編入セシメズ、又ハ臨時費用ノ確定ヲ命ズルコトヲ得、郡長ノ處

分ニ對シテ不服ナルトキハ所轄區又ハ町村ニ處分通知後四週間以内ニ縣廳ノ裁決ニ對シテ不服ナルトキハ同期日內ニ東京ニ設置スベキ高等行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得、但高等行政裁判所ノ設置ナキ間ハ法制局ニ出訴スベシ。

第二百二十五條 本法ヲ以テ他ノ規則ヲ設ケザルトキハ町村又ハ所轄區廳ノ決議ニ對シテハ郡長ノ決議ニ對シテハ縣廳ニ出訴スルコトヲ得、但本法ニ記載シタル縣廳ノ裁決ニ對スル場合ヲ除クノ外如何ナルトキニ於テ法制局又ハ東京ニ設置スベキ高等行政裁判所ニ出訴ヲ爲シ得ルヤハ特ニ法律ヲ以テ之ヲ定ムル者トス。

出訴ハ若シ一ニノ場合ニ於テ特ニ法律上ノ規則ヲ以テ他ノ期日ヲ定メザルトキハ總^{アレインスタンシエン}段^階ニ於テ決議ノ送致又ハ通知後六週間以内ニ於テ之ヲ行フ者トス。

第二百二十六條 所轄區會及町村會ハ内閣ノ上奏ニ依リ勅令ヲ以テ解散スルコトヲ得、但町村會ハ總テ參決權ヲ有スル町村民ヨリ成立セザル場合ニ限ル者トス。右ノ場合ニ於テハ解散令ノ日ヨリ六個月以内ニ新選舉ヲ行フベシ。該新選舉ニシテ所轄區會解散ノ場合ニ於テハ單ニ其選舉セラレタル議員ヲ以テ之ニ充ル者トス。

町村及所轄區會新選議員ノ執務セザル間ハ内務大臣ヨリ委員ヲ命ジテ其事務ヲ管理セシムル者トス。

第二百二十七條 郡長ハ所轄區長町村長村及助役其他所轄區及町村吏員及小使ニ付テノ懲戒權ヲ有ス、其上階ニ在リテハ縣知事若クハ縣廳及內務大臣之ヲ有ス。此懲戒廳ハ説諭及譴責ヲ以テ處分スル者トス。郡長ハ前條記載ノ吏員ニ三圓迄ノ罰俸ヲ內務大臣及縣知事ハ二十圓迄ノ罰金ヲ科スルコトヲ得、但有給官吏ハ其月俸一個月分ヲ超過シテ之ヲ科スルコトヲ得ズ。終身又ハ定期及無定期ヲ以テ登用セラレタル町村及所轄區吏員ノ免職ハ協議的ノ會議及決議ヲ以テ縣廳之ヲ決ス其裁決ニ對シテハ東京ニ設置スベキ高等行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得、其設置ナキ間ハ法制局ニ出訴スベシ。

町村又ハ所轄區ニ對スル職務上ノ權利義務ハ免職ト共ニ消滅スル者トス。

各懲戒處分ヲ執行スル前ニハ關係者ノ申立ヲ聽取ス可シ。

懲戒處分ニ對スル出訴期限ハ三週間内トス。

其他懲戒律ノ發布セラル、迄ハ現行ノ懲戒令ハ有効ナル者トス。

終 結 規 則

第二百二十八條 本法ハ明治二十年一月一日ヨリ施行セラル、者トス。

第二百二十九條 本法施行ニ必要ナル規則ハ內務大臣之ヲ布告スベシ。

自 治 論

モ ス セ 氏 演 述

伊 東 巳 代 治 筆 記

(十二月十四日午前十時半)

今日ハ自治體ノ事ニ付テ叙述スベシ。抑自治體ニ二種アリ、地方分權ト自治トハ同ジ様ナレドモ種類二箇ニ分ル。先ヅ分權ニ付テ述ブベシ。抑國家ニ二類ノ見解アリ、第一ヲ機械的ノ國家ト云フ。是レ一方ニ國權ステイラゲワルト、一方ニ人民アルノミニシテ、此二者相對立シテ其間別ニ介立セル團結アルコトナシ。其中間ニ介立スルモノハ國家ト人民トノ間ニ僅ニ行政機關ノ存スルノミ。之ヲ機械的ノ國家ト云フ。是レ君主獨裁ノ政治又ハ佛國民政主義ノ國家ナリ。之ニ反對スル説ハ獨逸人種(英人モ然リ)ノ見解スル所ノ國家ナリ。其見解ニ依レバ國家ト人民トノ間ニ一個ノ權利ヲ有シテ存スル所ノ機關ナカラザルベカラズト云フニ在リ。

機械的ノ國家ノ有様ハ「フレデリツキ」大王ノ時ニ在リ。大王ハ一世ノ名君ナルヲ以テ、國家

ノ機械ヲ能ク運轉シテ其秩序ヲ立タリ。日本ニ於テモ亦タ巧手ノ機械師ヲシテ能ク其機關ヲ運轉セシメバ大ニ整頓シテ政機圓滑ナルコトヲ得ベシト雖モ、一朝其運轉ヲ誤ルトキハ其秩序モ亦紊ル、ニ至ルベシ。然ルニ若シ國家ト人民トノ間郡縣ノ自治體ヲ設置スルニアルモ、猶ホ機械ハ運轉シテ更ニ禍亂ヲ招クノ虞ナカルベシ。如何トナレバ其間別ニ一個ノ機關ノ存スレバナリ。凡ソ國家トシテハ其版圖ヲ分割セザルハナシ、町村郡縣ナルモノ即是レナリ。此郡縣ノ事務ニ二種アリ、第一ハ唯ダ國家ノ機械トナリテ國家ノ意思ヲ施行スルコト、是レ即チ行政的ノ機關ナリ。第二ノ機關ハ一種獨立ノ權利ヲ有シタル政治上ノ團結體ナリ。之ヲ自治體ト云フ。自治體ハ權利ノ主格ナリ。權利ノ主格即チ無形人トシテハ私法上ニ於テハ契約ヲ結ビ、財産ヲ所有シ、一定ノ行爲ヲ施スコトヲ得、又公法上ニ於テハ一方ニハ人民ニ對シ規則ヲ發シ、政府ニ對シテハ獨立シテ其意思ヲ表出スルコトヲ得ルナリ。此無形人ニシテ一定ノ行爲ヲ施シ、且意思ヲ懷キ之ガ施行ニ便ナラシムル爲ニ別段ノ機關ナカラザルベカラズ。此機關ハ自治體ヨリ公選サレテ成ルモノアリ。又ハ其自治體ノ機關ヨリ命ゼラル、モノアリ。而シテ政府ノ認可ヲ要スルハ勿論ナリトス。蓋シ此機關ハ假令ヒ政府ノ認可ヲ受クベキモノナルニセヨ、其機關ハ自治體ノ機關ニシテ政府ノ機關ニ非ラズ。此自治體ハ土地ノ區劃ニ依テ限定セラル、モノナリ。是レ國家ト大ニ異ナル所ナリ。或ハ其土地ノ區劃ニ依テ之ヲ町村ト云ヒ、或ハ之ヲ縣ト云フ、此自治體ノ事務トハ第一經濟

上ノ事務即チ自治體ノ利益ニ關スル事務ナリ。此經濟的ノ事務ハ抑モ町村ノ根本ノ目的ニ出ルモノナリ。之ニ反シ郡及縣ハ當初國家ノ設置ニ係リ後ニ及ンデ始メテ自治體トナリタルモノナリ。今姑ク郡縣ノ事ニ就テ述ベンニ、今日ノ國家ハ國家ハ屬スル事務ヲ舉テ悉ク之ヲ自ら施行セズシテ之ヲ縣郡町村ニ分割シテ施サシムルナリ。内務ノ事項并ニ財政ノ事項尤モ多キニ居ル。之ニ反シ外務ノ事項兵事ノ大部分ハ國家獨リ之ヲ擔任スルナリ。唯ダ兵事ノ一小部分即チ兵事ニ關スル義務ノ分配(例ヘバ野營演習ニ關スル事項ノ部分)ノ如キ之ヲ自治體ニ放任スルナリ。故ニ國家ノ自ら擔任スベキ事務及自治體ニ分割スベキ事務ノ境界ハ劃一二之ヲ限定スルコト能ハズ。唯ダ其國ノ開化ノ度ト沿革トニ依ルモノナリ。凡ソ近世ノ國家ヲ視ルニ一トシテ其職務ヲ分掌セシメザルモノナシ。唯ダ其境界程度ニ多少ノ異同アルノミ。倘シ國家ノ事務ヲシテ専ラ平和主義即チ國內ヲ安寧ニシ、列國ニ對シ平和ヲ保持スルノ一事ニ止マラシメバ、國家ハ獨リ自ら凡百大小ノ國務ヲ舉テ悉ク之ヲ施行スルコト能フベシト雖モ、近世ノ國家ハ人民ヲ獎勵シテ益々開明ノ域ニ誘導スベシト云フ主義ヲ採ルモノナリ。此主義ニ基テ國事ニ任ズルニ當ツテハ、政務湊合シテ干滿萬緒最モ紛綜ヲ極ムルガ故ニ、細大ノ事務ヲ舉テ悉ク自ラ之ヲ行フ事能ハズ、是レ其幾分ヲ割テ自治體ニ放任スル所以ナリ。而シテ今日ノ勢益々此方向ニ傾キタリ。今日日本ノ如ク中央政府ニ於テ獨リ自ら凡百ノ國務ヲ行ハントスル時ハ、其固有ノ職掌ヲ捨テテ却ツテ瑣細ナル事務ニ汲

汲スルニ至ルナラン。抑モ國家固有ノ職務トハ何ゾ。一般ニ國家ヲ統一スル事務國家并ニ法律ヲ改良スルノ事務即チ中央政府ノ事務即チ是ナリ。若シ中央政府ニシテ瑣事ニ染手シテ干涉其度ニ過グルコトアラバ、恐ラクハ爲ニ全ク其本分ヲ失フニ至ラン。說者或ハ之ニ反對シテ云ニ、中央政府ニ於テモ亦大臣獨リ其國務ヲ掌ルニ非ラズ、有司吏胥其數少カラズ、職ヲ分チ其事ニ任ゼシムルニ於テ復タ何ヲカ患ヒンヤト、然レドモ此有司吏胥トハ大臣ノ願使ニ便ナルノミニシテ責任ヲ負フハ獨リ大臣ニ限ル、此責任タルヤ甚ダ洪大ニシテ一人ノ能ク負フベキニ非ラズ。故ニ其瑣細ニ涉ル事務ヲ自治體ニ分任スル時ハ、大臣ハ其大體ニ關スル責任ヲ能ク果スコトヲ得ベキナリ。是レ分權ノ大ニ中央集權ニ優ル所ナリ。若シ其小事ハ之ヲ自治體ニ分任スルトキハ大臣ハ營ニ其責任ヲ免ルルノミナラズ其小事ニ就テハ自治體ノ能ク措辨シ得ル所ノモノナルヲ以テ、人民ニ取リテモ亦裨益スル所少カラズ。蓋シ自治體ニシテ能ク其事務ヲ措辨シ得ル所以ノモノハ、自治體ハ其地ノ事情ニ通曉シ、人民ノ需用ヲ知悉シ、且又之ヲ施行スルノ費用ヲ支出スルニ便ナレバナリ。如何トナレバ凡ソ人間ノ常トシテ其一身ノ事ニ關スルトキニハ深思熟慮致々トシテ其利益ヲ謀ルト雖モ、事苟モ他人ニ關スルニ至テハ恬トシテ之ヲ緩慢ニ付スルヲ顧ミザルモノナリ。今自治體ハ直接ニ自己ノ利害ニ關スル事ヲ行フモノナレバ、其意ヲ用ル事一層深密ナル亦知ルベキノミ。

以上述べタル事項ハ行政上ノ分權ナリ。決シテ立法上ノ分權ニ非ズ能ク此點ヲ區別シテ置カザレバ議論中ニ錯雜ヲ來スノ虞アリ。立法上ノ事務即チ一般ノ規則ヲ發スル事ハ素ヨリ國家ニ屬シテ分割スベキニ非ラズ。故ニ各町村郡縣ニ於テ各自巴力門（Barryment）ノ如キモノヲ設備スルト思フハ大ナル誤解ナリ。抑モ自治體ハ法律ヲ施行シ、且其範圍内ニ於テ人民ノ需用ヲ充サシムルノ事務ヲ執ルモノナリ。英國ハ分權ノ最モ開ケタル國ナレバ立法ト行政トノ點ニ付テハ其區別ヲ守リテ、法律ハ必ズ國家ヨリ之ヲ發セリ。唯ダ法律ヲ施行スルノ事務即チ行政ニ至テハ各自自治體ニ分チ與ヘタリ。又進ンデ之ヲ論ズレバ、假令ヒ國家ヲ自治體ニ分ツトモ、自治體ハ國家ノ一部分ナリ。故ニ國家ニ於テハ之ヲ統一スル事必要ナリ。故ニ國家若シ自治體ニ事務ヲ多ク分チ與フルトキハ、隨テ之ヲ統一スル事務ナカラザルベカラズ。國家ノ分割セル自治ノ權ヲシテ僅ニ自治體ノ經濟上ノ事務ニ止マラシムルトキハ、之ヲ統一監督スルコトハ甚ダ嚴ナルヲ要セズト雖モ、多ク事務ヲ與フレバ隨テ多ク統一監督ヲ要スベシ。又國家ノ統一監督ニ三種類アリ。第一自治體ノ法律ノ範圍ヲ超越セザルコト、第二自治體ノ法律ニ從フテ盡スベキ義務ヲ強制スルコト、第三ニハ若シ自治體ノ利益ト國家ノ利益ト相撞着スルトキハ一般ノ利益即チ國家ノ利益ハ特別ノ利益即チ自治體ノ利益ニ打勝ツコトニ注意セザルベカラザル事即チ是ナリ。

以上ハ分權ノ事ヲ述ベタリ。今ヨリ自治體ノ事ニ移ルベシ。以上ハ國家ノ行政事務ト自治體ノ

行政事務ヲ論ゼリ。今ヨリ進ンデ官吏又ハ非官吏ノ事務ニ付テ論ゼン。官吏ハ終世其身ヲ公事ニ委ヌルモノニシテ、他ノ職業ヲ營ムコト能ハザル者ナルガ故ニ、之ニ衣食料ヲ給セザルベカラズ。非官吏ト雖モ全ク給料ヲ受ケザルニ非ラズ、又時トシテ之ヲ受クルコトアリ、然レドモ自治體ノ一種特別ナル所以ハ非官吏ガ給料ヲ受ケズシテ事務ヲ行フニ在リ、之ヲ名譽官ト云フ。名譽官ニ二種アリ、國家ノ名譽官ト自治體ノ名譽官ト即是ナリ。通常名譽官ハ自治體ノ事務ヲ執ルヲ例トス。故ニ名譽官ヲ以テ直ニ自治體ノ官吏ト視ルモ可ナリトス。然レドモ自治體ニ於テモ亦有給官吏ヲ以テ事務ヲ行ハシムル事アリ、若シ茲ニ疑問ヲ起シテ官吏又ハ非官吏ヲシテ行政ヲ措辨セシムルニ於テ、其孰レガ便ナルヤト云ハンニ、一般ニ其便否ヲ判斷スルコト能ハズ、凡ソ國家トシテ畢生身ヲ職務ニ委ヌル所ノ官吏ヲ缺クコト能ハズ、故ニ國家ハ學術技藝ヲ要スル事務ニ付テハ必ズ別ニ職員ヲ置テ之ヲ施行セシムルヲ例トス。若シ之ナラズ官吏ハ社會ノ利益ノ上ニ駕シ、社會ノ利益ノ爲ニ屈セラレズ、公ヲ秉リ平ヲ持スル一點ニ至テハ素ヨリ非官吏ノ比ニアラズ。然レドモ官吏ノミニ行政事務ヲ掌ラシムルニモ亦害アリ。唯ダ純然タル官吏ノミヲ以テ行政事務ヲ行ハシムル所ノ國家ニ於テハ、官吏ハ殆ンド一種ノ種族ヲ成シ、人民トノ交通ヲ杜絶スル形狀ヲ呈シ、茫乎トシテ人民ノ需要如何ヲ知悉スルコト能ハズ。然レドモ猶ホ官吏ハ揚々トシテ官署ニ昇降シ、傲然綠色ノ机邊ニ端坐シ、實際人民ノ利害ニ至リテハ却ツテ人民ヨリモ能ク通曉スルト自

ラ固信シ、甚シキニ至テハ官吏ハ民間ノ細事ニ干渉シ、以テ自己ノ意見ヲ實行セントスルノ弊ヲ生ズルナリ。此弊タルヤ君主獨裁ノ國ニ於テ行ハル、ノミナラズ、又立憲政體ノ國ニ於テモ亦行ハレテ、其弊害タル却ツテ君主獨裁ノ國ヨリ甚シキコトアリ、如何トナレバ立憲政體ノ國ニ於テハ黨派相ヒ軋轢スルガ故ニ官吏ハ其一黨派ニ與シテ黨派ノ利益ヲ人民ニ對シテ實行セントスルノ弊アレバナリ。是ヲ以テ自治體ノ編制ハ憲法ヲ確定スル前ニ於テ早ク完備スベキ必要缺クベカラザルノ急務ナリ。而シテ自治體ヲ立テ、後チ憲法ニ及ボスト云フ事ノ必要ヲ實際ニ顯シタルハ英米ノ功最モ其多キニ居ルト云ハザルベカラズ。

今ヨリ進ンデ自治體ト分權トノ利益ニ涉リ叙述スベシ。其利益ニ二種アリ、第一ハ一般ノ國家ニ顯ハル、所ノ利益是ナリ。第一ノ場合ニ於テハ凡ソ國家開明ニ進ムニ隨ヒ社會ノ利益ハ競争ノ形勢ヲ生ズルニ及ビ、自治體ハ其團結中ノ人民共同シテ利害ノ關係ヲ有スルモノナルガ故ニ、一般競争スル所ノ利益ヲ平均スルモノナリ。自治體ハ人民各自ノ相散ジテ有スル所ノカト思想トヲ集合スルモノナリ。自治體ハ人民ト政府トノ間ニ生ズル圭角ヲ圓滑ニスルモノナリ。又自治體ハ愛國心ヲ喚發スルモノナリ。如何トナレバ人民ハ國家ノ何タルヲ辨ゼズ、唯租稅ヲ納ルノミヲ以テ初メテ國家アルヲ知ルモノ多ク、自治體ハ之ニ反シ直接ニ人民ニ關係スルモノナルヲ以テ、此自治體ニ團結シテ始メテ共同ノ心ヲ起シ、意ニ國家アルヲ知ルニ至レバナリ。今此ノ如ク自治ノ利

益ヲ列舉シタルハ是レ余ガ一己ノ持説ニアラズ、一千八百七年フラヘル、フオン、スタインノ普國々王ニ提出シタル有名ナル意見書ニ載セテ詳ナリ。猶ホ自治體ノ利益ヲ舉ゲンニ、立憲政體ノ國ニ於テハ人民ニ最モ高尙ナル國事ニ參與スルノ權ヲ與ヘタリ。此權利ヲ利用セシムルニハ先ヅ共同體即チ自治體トハ如何ナルモノナルヤヲ知ラシメザルベカラズ。立憲政體ノ國ニ於テハ人民ニ租稅及歲出ノ事ヲ議スルノ權ヲ與ヘタリ。斯ノ人民ニシテ苟モ共同體ノ事務ニ通ゼズンバ、復タ何クンゾ能ク其事ヲ議スルコトヲ得ンヤ。素ヨリ此ノ如キ國家ノ要務ヲ議セシムルニ於テモ、亦佛國ニ於ケルガ如ク唯ダ議論ノミニ奔リテ實務如何ヲ顧ミザルニ至テハ自治體ノ利益モ洵トニ其効驗少ナシ。之ヲ要スルニ人民ヲシテ共ニ國事ニ參與セシムルノ方向ヲ探ルベキハ今日ノ急務ナリ。自治體ノ事タル「グラフオランベルクフ」(前内務卿)ノ述ベシ如ク、普國ニ於テ一般ノ兵役ヲ課シ以テ今日ノ強大ヲ致セシ如ク、自治體ニ於テモ亦一般ノ義務ヲ民事ニ課シタルモノナリ。凡ソ國家ニ於テ人民ニ密接スル事柄即チ實際ノ事物ニ注意セザル時ハ、宛モ佛國ニ於ケル如ク唯ダ高尙ノ理論ノミニ奔馳シテ實際人民ノ痛痒ヲ顧慮セザルノ極端ニ陥ルベシ。今日日本ノ現況ヲ察スルニ稍相似タル所アリ。日本人民ハ憲法ノ如キ大體ノ事ニノミ注目シテ、道路學校橋梁等ノ己レノ利害ニ直接スル事項ニ注意セザルモノノ如シ。今日日本ニ國會ヲ設立スルモ其議員ナルモノハ抑モ如何ナル人民ヨリ舉ゲラルベキ歟。若シ此等ノ議員ニシテ行政ノ何タルヲ辨ゼズ、徒ニ高尙

ノ議論ニノミ奔馳スルコトアラバ、其弊タル舉テ云フベカラザルニ至ラン。余ノ考フル所ニ依リ之ヲ視レバ、分權及自治ノ事ヲ定メズシテ直ニ國會ヲ設置セバ宛モ南亞米利加ノ如キ形況ニ陥ラシノミ。南亞米利加今日ノ形況ハ庶民政治ト權力者政治ト相交代スルモノト評スベキナリ。然リ而テ此自治體ナルモノハ凡ソ各般ノ事物ニ於ケル如ク、獨リ利益ノミヲ有スルモノニアラズ、自治體ハ或ル部分ニ於テハ事務ノ行キ届カザル事アリ、又自治體ハ國家ニ於テ不同ノ有様即チ區々ノ體裁ヲ爲スコトアリ、然レドモ此弊害タル以上述べタル利益ニ比スレバ洵トニ微々タルモノナリ。又其弊害タルヤ普國ニ於ケルガ如ク名譽官吏ト國家官吏トヲ以テ自治體ノ政務ヲ執ラシムルニ於テハ、其弊害ハ自然ニ消滅スルニ至ルベシ。素ヨリ自治體ヲ組織スルニハ先ヅ人民ニ於テ其元素ノ整備スルヲ要ス、人民ハ一定ノ學識ヲ有セザルベカラズ。又人民ハ義務ニ任ズルノ心ヲ有セザルベカラズ。今一ツハ一般ノ利益ノ爲ニ各自讓與拋棄スベキコトヲ心掛ケザルベカラズ、又人民中資財ヲ有スルモノナラザルベカラズ。若シ己レノ職業ノミニ從事シテ名譽官ノ事務ヲ執ルニ暇ナキモノハ措テ之ヲ取ラザルノ外ナシ。故ニ自治體ハ決シテ民政主義ノ性質ヲ帶ブルモノニアラズ、却テ貴族政治ノ主義ヲ包含スルモノナリ。是レ決シテ門閥ヲ稱スルノ謂ニ非ラズ、専ラ學識并財産ヲ重ズルニ起ルヲ以テノミ。今又自治體ヲ組織センニハ是等ノ性質ヲ有スト假定シテ之ヲ施サルベカラズ。普國ハ一千八百零七年ノ比、奈翁ノ爲メニ殆ド其版圖ノ半ヲ割ラレ、

人民ハ貧窮ニ陥リ歴史上未曾有ノ窮厄ヲ極メタルノ時ナリシト雖モ、我「フライヘル、フオン、スタイン」ハ人民ニ信用ヲ措テ意見書ヲ提出シタリ、而テ此自治體ニ依リ市街ハ益々盛ンニ人民ハ愈々富ムニ至レリ、是レ「スタイン」ノ計畫精明目的悉當シタルノ偉功ニ出ルモノニシテ、普國今日ノ繁盛ハ其元自治體ニ起因スルモノト云フベシ。畢竟スルニ自治體ヲ描成セント欲セバ苟モ怯臆ニ失シテ躊躇スベカラズ。斷ジテ之ヲ行ヘバ自治體ノ事務漸ク舉リ、人モ亦益々養成スルコトヲ得ベキナリ。余ノ自ラ信ジ且見聞スル所ニ據レバ、日本ニ於テ此自治體ニ必要ナル元素ナキニ非ズ、維新前ニ在リテハ既ニ自治體ノ萌芽一タビ發生シタルモノノ如シ。然ルニ一朝變亂ノ爲ニ既發ノ萌芽ヲ枯凋スルニ至リタルハ憾ムベキノ限ナリ。今之ヲ培養成長セシメント國家ヲ將來ニ維持スルノ政略中關要最モ重キモノナリ。若之ノミナラズ、日本ニ於テハ嘗ニ自治體ニ於テ缺クベカラザル元素ノ存スルノミナラズ、好ンデ自治體ニ屬スル所ノ義務ヲ負フモノ、存スルアリ、素ヨリ自治體ヲ施スニハ豫ジメ人民ヲシテ自治體トハ何物タルコトヲ知ラシメ、且之ニ對シ相當ノ位置ヲ與ヘザルベカラズ。今日日本ニ於テハ自治體ヲ施設セルト施設セザル等ノ事ニ付徒ニ論議討索スルノ時ニアラズ、今日ハ既ニ憲法ヲ立テ議院ヲ開ク時ニ迫リ、假令ヒ此時ニ於テ遲速ノ議論アルモ今ヤ既ニ其時運ニ達セリ。故ニ自治體ノ構成ハ必ズ今日ニ於テ之ヲ斷行實施セザルベカラズ。若シ日本ニ於テ一定ノ程度ニ於テ自治體ヲ組織セズ、直ニ憲法ヲ充ツル如キアラバ日本

ハ恰モ自及スルモノト云フベキノミ。

以上ハ大體ヲ述ベタリ。幸ヒ諸君ノ臨席ヲ煩シ叨リニ聰聽ヲ汚ス。痛悚ノ至リニ堪ヘザルナリ。請フ諒焉。

府縣制修正ニ對スル意見

府縣制草案ニ對スル内務省ノ修正ヲ審査シ、府縣制全體ノ組織ニ對シ如何ナル變更ヲ來スカ、其包含スル所ノ主義及其實際ニ照シ作用如何ヲ熟慮シ、茲ニ意見ヲ具申スルコト左ノ如シ。

抑モ府縣制原案ノ主義タルヤ、從來ノ府縣ヲ以テ自治ノ區域トナシ、府縣ノ公共事務ハ總テ府縣人民ノ自治ニ任カスニ在リ、今原案ニ付是等ノ要點ヲ摘發スレバ左ノ數ヶ條ニ在リ。

第一條 此法律ハ府縣ニ施行スルモノトス。

第二條 府縣ハ國ノ行政區畫トシ竝ニ法人ノ資格ヲ有シ、府縣ノ公共事務ハ官ノ監督ヲ受ケテ自ラ之ヲ處理スルモノトス。

第三條 府縣ハ其區域内ニ在ル郡市及島嶼ヲ總轄スルモノトス。

府縣ハ從來ノ區域ヲ存シテ變更セズ、但將來其變更ヲ要スルコトアルトキハ此法律ニ準據スベシ。

第四條 府縣ノ廢置分合及府縣境界ノ變更ヲ要スルトキハ關係アル府縣會ノ意見ヲ聞キ勅令ヲ以テ之ヲ定ム。

以上ノ數ヶ條ヲ玩味スルトキハ原案ノ主意ハ從來ノ府縣ヲ自治體ニ變更シ、公共ノ事務ハ總テ人民ノ代理者ニ委任スルノ精神顯然タリ。今内務省ノ修正ヲ見ルニ第一條第二條第三條ハ總テ之ヲ削除シ、更ニ第一條ヲ新定シテ曰ク、

第一條 此法律ハ府縣公共事務ニ關スル事項ヲ規定スルモノトス。

府縣ハ從前ノ如ク國ノ行政區畫トシ國ノ行政及官制ニ關スル事項ハ此法律ニ依リ變更セザルモノトス。

此修正案ニ顯ハレタル字句ヲ原案ノ三ヶ條ニ比較スルニ、一目シテ其差異ヲ見ルベシ。修正ニ依レバ府縣ハ主トシテ國ノ行政區畫トナシ、而シテ府縣ノ公共事務ハ之ニ附隨スルノ觀アリ。原案ニ在ル自治ノ主意ハ自ら消散シテ專ラ行政ヲ根軸トスルモノナレバ、此法案ニ取り大體上ノ大變更ナルガ如シ。今更ニ一步ヲ進メテ修正説ハ本邦ノ程度ニ適スルヤ否ヲ講究スルニ、恰モ最初原案ニ對シタル反對説ヲ抱持シタルモノニシテ、今日ノ時勢ニ於テハ尤モ適當ノ修正ト謂フベシ。唯文辭上少ク疑義ヲ懷カザルヲ得ザルモノアリ。即第一條ニ府縣公共事務トアルハ意義漠然ニ似タリ。此法案ノ全體ニ因テ公共事務ノ何タルヲ察知スルヲ得ベシト雖モ、法案中此文辭ニ對シ、別ニ註釋ヲ掲ゲザルヲ以テ或ハ世人ノ惑ヲ惹起スルヤ知ルベカラズ。已ニ市制町村制ニ於テ公共事務ノ字句ヲ使用シタルヲ以テ、府縣ノ公共事務モ之ト同様ニ看做ストキハ將來此法制ノ實行ニ

意外ノ障碍ヲ見ルモ計ルベカラズ。現今府縣會ノ職務タル、府縣公共ノ事件ヲ議スルニ相違ナシト雖モ、固ヨリ自治ノ主意ニアラザルヤ明ナリ。今修正案ニ公共事務トアルハ市制町村制ノ主意ニ紛ハシキヲ以テ、爰ニ註釋ヲ加フルカ或ハ他ノ單純ナル文言ニ改ムルコト必要ナルベシ。

第四條ニ付元老院ノ修正ニ原案ニ府縣會ノ意見ヲ聞キトアルヲ削除シタリ。察スルニ府縣會ノ職權ヲ減殺スルノ精神ニ出デ、府縣ノ廢置分合等ハ全ク官權ニ屬スルモノニシテ、府縣人民ノ敢テ喙ヲ容レシムベカラズトノ主意ナルベシ。其關係ヲ思考スルニ府縣自治ノ傾向ヲ矯正スルノ旨趣ヲ見ルベキナリ。

附シテ曰、原案第五十六條末段ニ府縣會ノ議決ニ依リ府縣ノ公共事務ト定メタル事件ノ費用ハ總テ府縣ノ負擔トスルノ明文アリ、是ニ由ルトキハ公共事務ノ何タルハ府縣會之ヲ定メ、又ハ府縣内ノ事ニシテ府縣會ノ議決ヲ以テ府縣ノ公共事務ト定ムルコトヲ得ベキモノ、如シ。然ルトキハ其事務ノ範圍愈弘キヲ以テ府縣知事ノ權限ト相抵觸スルコトナキモ、或ハ行政ノ作用ヲ妨グルノ場合ナキヲ保セザルナリ。

原案第八條ニ「府縣ノ公共事務ニシテ此法律ニ明文ナク、又ハ特例ヲ設クルコトヲ許セル事項ハ府縣ニ於テ特ニ條例ヲ以テ之ヲ規定スルコトヲ得」トアルヲ「府縣ハ此法律ニ於テ特例ヲ設ケ又ハ條例ヲ以テ特ニ規定スルコトヲ許セル事項ニ付テハ此法律ノ規定ニ

依リ條例ヲ設クルコトヲ得」ト修正セリ。

修正ノ主意ハ條例ノ範圍ヲ明確ニシ、此法律ニ明文ナキ事件ニ對シテハ條例ヲ設クルコトヲ得ザラシムルニアリ。府縣事務ノ實行上ニ照ラストキハ穩便ノ改正ト謂フベシ。然ルニ此法律ノ全體ヲ通觀スルニ、特例ヲ設ケ又ハ特ニ條例ヲ以テ規定スルコトヲ許セル事項ヲ搜索スルニ、僅ニ兩三條ニ過ギズ。第二項ニ「府縣ハ其府縣有財産及營造物ノ管理ニ關シ規則ヲ設クルコトヲ得」トアリ、従前ノ府縣知事ノ職權ヲ以テ發布シタル府縣令ノ一部分ヲ分割シテ條例規則ト變換スルコトアルベシ。其事件重大ニシテ件數モ亦僅少ナラズ、而シテ原案第廿七條ニ府縣會ノ開期ハ三十日以内トアリ、此僅々タル日數内ニ條例規則ヲ議了スルハ實際困難ノ事ナルベク、且又原案第九十二條ニ「府縣條例ニ關スル府縣會ノ議決ハ勅裁ヲ受ルコト」トナシタルヲ以テ、事務手續ノ頻繁ヲ來スヲ免レズ、是レ蓋シ府縣條例ハ府縣制ノ一部分トモ稱スベキモノナルヲ以テ、勅裁ヲ受クルコト、爲シタルモ、若シ夫レ府縣ハ純粹ノ行政區畫ニシテ府縣會ハ諮問ノ府トスルノ原則ヲ採ルトキハ、府縣條例ヲ以テ議會ノ議決ニ委スガ如キハ首尾一致セザルノ修正ト謂ハザルヲ得ザルナリ。

原案第二十條第八項ノ修正ニ「法律勅令ニ定ムルモノヲ除クノ外、府縣有財産及營造物管理ノ爲メ必要ナル吏員ヲ設クルトキハ其員數、給料、任期、及退隱料ヲ定メ、又必要アルトキハ府縣

吏員ノ身元保證金ヲ定ムルコトトセリ。此項ニ屬スルモノハ府縣廳舎、郡區役所、學校、病院、各種ノ土木工事等ナルベシ。現今其管理ハ府縣廳ノ官吏之ヲ行ヘリ。將來ト雖モ其事務ハ法律勅令ニ依リ府縣知事ノ行政職務ニ屬スルヲ以テ、知事ノ命ヲ受ケ府縣廳ノ吏員之ヲ執行スルニ因リ、此個條ヲ以テ設クル所ノ府縣吏員ハ單ニ財產ト營造物ノ管理ニ止マルモノトセバ、徒ニ兩様ノ役員ヲ設ケ經濟上得失相償ハザルノ結果ヲ見ルヲ恐ル、ナリ。然レドモ此法案ノ前後ヲ考案スルニ管理トスルハ、單ニ物品ヲ保管スルノ意ニアラズシテ之ニ附帶スル事務ヲ處理スルニ在ルハ明ナリ。

修正第二十四條 府縣知事其他府縣參事會員及知事ノ代理者若クハ補助ヲ委任セラレタル官吏ハ府縣會ノ會議ニ列席スルコトヲ得。

前項列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ發言請求ノ順序ニ拘ラズ何時ニテモ之ヲ許スベキモノトス。

此個條ハ行政官ニ便宜ヲ與フルノ精神ニ出デタル適當ノ法文ト云フベシ。唯文字上少シク變更ヲ希望スルハ知事ノ代理者若クハ補助ヲ委任セラレタル官吏及府縣參事會員ト改メ度キ事是レナリ。

第四十三條第一項ノ修正、府縣有財產及營造物ヲ管理スル事。

監獄ハ府縣營造物ト爲スノ限ニアラズ。

之ヲ原案ニ對スルニ大體ニ於テ格段ノ變更ニアラズ、本案第一章總則ニ於テ大體ノ主義ヲ定メ、府縣ヲ以テ國ノ行政區畫トナシ、國ノ行政及官制ニ關スル事項ハ此法律ヲ以テ變更セザルコト、定メタルニ對スルトキハ、實際ニ照ラシ事務ノ區別ヲ爲スニ困シムベシ。從前國ノ行政事務ハ法律勅令ヲ以テ其性質範圍ヲ定メ現今府縣知事ノ職務ハ總テ國ノ行政ニ係ルモノト謂ハザルヲ得ズ。今此法案ニ依テ一方ニ於テハ府縣有財產及營造物ヲ管理スルノ權ヲ參事會ニ與ヘ、又一方ニ於テハ國ノ行政等ノ文辭ヲ以テ政府ノ行政ノ定限トスルハ即府縣ニ自治ヲ許スノ根源ニシテ、曠々裏ニ自ラ之ヲ處理スルノ權ヲ與ヘ、自治制ノ實ヲ讓與スルノ感アルヲ免レズ。若シ夫レ事實ニ於テ自治ヲ許スノ精神ナリトセバ、第一章總則ノ三ヶ條ヲ修正スルノ必要ヲ見ズ、却テ明白ニ原案ノ儘ヲ存シテ可ナラン。茲ニ至ツテ大ニ感覺スル所アリ、或ハ第一條ヨリ第四條マデノ修正ハ其結果ハ僅ニ自治ノ文言ヲ去リ、然シテ之ニ換ユルニ國ノ行政ト公共事務トノ相對ノ言葉ヲ用ヒ、公共事務トハ乃チ府縣ノ行政ヲ指稱シ、國ノ行政トハ其以上ヲ指スモノニシテ乃チ其大體ニ於テハ原案ト別ニ主義上ノ差異アルコトナシトノ見解ヲ生ズルコトアラザルコト是ナリ。

尙其他參事會ノ職務權限ニ關スル各項ヲ見ルニ、文字ノ改正ヲ加ヘタルモ亦前項刪除シタルモノアルモ、實際ノ權限ニ至リテハ原案ノ主義ヲ脫セズ。第二項ヲ削除シタルモ全ク第一項ノ修正

アルニ原因スルモノナレバ別ニ主意ノ變更アルニアラザルナリ。

第三項ノ修正ハ府縣參事會ノ擔任ニ屬スル事務ノ爲メ必要ナル府縣吏員ヲ推薦スルコト、但府縣會ノ推薦ニ屬スルモノハ此限ニアラズトアリ。原案ニ由ルトキハ參事會ハ府縣有給吏員ヲ選任スルノ規定ナリ、之ヲ斯ク改メタルハ其權限ヲ狹メ事務取扱ノ便宜上ニ於テハ一段ヲ進メタルモノト謂フベシ。其他別ニ原案ニ對シ重大ノ變更アルコトナシ、顧フニ參事會ナルモノハ一ノ團結體ニシテ自治制アツテ始メテ其用ヲ爲スモノニシテ、若シ法案ノ基礎トスル所自治ニアラザルトキハ參事會ヲ活用スルノ區域モ狹隘ナラザルベカラズ。今般內務省ノ修正ヲ實行シ全體ノ組織ニ照ラストキハ、主義上ノ變更アルコトナクシテ多ハ文字ヲ改正シ字句ヲ正シタルニ過ギザルノ感ハ益堅固ニシテ、最初總則數ヶ條ノ修正ヲ一目シテ感發シタルモノト大ニ齟齬スルトコロアルヲ覺ユルナリ。修正ノ主意ニシテ原按ノ主義ヲ確守シ、府縣ノ行政法ヲ改メテ自治制ト爲スノ點ニアリテ、今般ノ修正ノ如キハ只僅ニ甲ノ文字ヲ以テ乙ノ字句ニ換ヘ、又ハ聊知事ノ職務執行上便益ヲ與フルノ目的ニ止ルモノトシ、內閣モ亦之ヲ採用スルノ議ニ出レバ他ニ陳辯スルノ必要ナシト雖モ、若シ今般ノ修正ハ大體ノ主義ヲ枉ゲ府縣知事ノ行政職務ヲ從前ノ如ク繼續シ、傍ラ府縣會ノ權限ニ少シク讓與ヲ與ヘ、府縣ノ事務ニ參與スルノ區域ヲ廣メ、既ニ發布シタル所ノ市制町村制ニ相應スルノ用意ヲ爲ス等ノ點ニアレバ、此修正ハ其目的ヲ滿タサルノミナラズ、却テ事實ニ於テ原案ト均シキモノト謂ハザルヲ得ザルナリ。

第四十六條ノ修正ハ參事會ノ職權ニ屬スル事件中常務ニ係ルモノ、知事ヲシテ專決處分セシムルコトヲ許スモノニシテ、重大ノ變更ニアラズ、執務上ノ便宜ヲ計リタルニ過ギザルナリ。同條末項ニ知事ハ府縣ノ有給吏員ヲ選任スルコトトシタルハ府縣會及ビ參事會ノ選任權ヲ改メテ推薦トシタルニ依ル、何レモ府縣知事ノ執務上聊便益ヲ與ヘタルニ過ギザルナリ。

其他二三ノ修正アリト雖モ皆前述ノ修正ニ附隨スルモノニシテ主義ニ關係ヲ生ズルニ在ラザルナリ。

以上陳述シタルハ內務省ノ修正ニ對シテ意見ヲ具申シタルモノニシテ、府縣ノ全體ニ付キ考案ヲ下シタルニアラズ。蓋府縣制ノ如キハ憲法ニ次グノ大法律ニシテ、其一地方ノ行政ノ手續ト人民ノ便利トニ關スル最モ重大ナルヲ以テ周密遠大ノ思慮ヲ盡シ、今日ノ現況民度ヲ參照スルニアラザレバ容易ニ確定スベカラズト信ズルナリ。

自治制度ニ對スル意見

前顯高明ノ下問ニ答フルノ序ニ於テ、目下ノ問題タル自治制度ノ事ニ付聊愚見ヲ述ルノ許可ヲ與ヘラレンコトヲ請フ。

自治法案ハ其施行果シテ其町村ノ度ニ適スル者ナラシメバ完全精美ノ良法ニシテ、又將來ニ人民ノ爲ニ利益アル好結果ヲ得ルハ疑ナカルベキナリ。

唯ダ疑點ノ存スル所ハ我國ノ村落ハ寥々タル寒村十ノ七八ニ居リ、十六年十二月ノ統計ニ據ルニ全國七萬千四百〇四村ニシテ、其中百戸未滿ノ村四萬七千百〇七即チ十分ノ八ニ近キナリ。此ノ百戸未滿ノ村ハトテモ自治制度ニ循行スルコト難カルベシ。何トナレバ新法案ニ依レバ六十九條七十條

一、司法及地方警察ノ事務

二、浦役場ノ事務

三、一般ノ行政事務

此ノ事務ヲ執行スルガ爲ニ要スル費用ハ町村ノ負擔トシタリ。此ノ中浦役場ハ一般普通ノ關係ニ非ズ、又行政事務ハ從前ニ於テモ既ニ負擔シタル者トスルモ、司法及地方警察ノ事務ト及其費用ヲ負擔スルハ全ク新規ノ事ニシテ其事務ハ少クトモ擔當ノ警察掛助役一人ト巡查一人以上（村雇）トヲ要スベク、其費用ハ殆ド從前ノ學校費ト對向スルニ足ルベシ。

其他ニ議會及豫算組合等ノ事業形式整備セル一小政府ナレバ、其事務ヲ處辨スル爲ニ書記及其他必要ノ附屬員ヲ要スベク、而シテ町村ハ之ニ相當ノ給料ヲ給スルノ義務アル者ナレバ（第七十一條）其費用モ亦少カラザルベシ。

概相スルニ自治制ノ町村ハ從前ノ費用ニ比較シテ殆ド一倍ノ支出ヲ要スベシ。

現今此ノ新規ノ費用ノ負擔ニ堪ル町村ハ前ニ統計シタル十分ノ二モ恐ラクハ覺束ナク、十分ノ一カ又ハ百分ノ五ニ過ギザルベシ。

新制ニ依レバ戸長ノ給料ヲ減ズベシトノ説モアルベケレドモ、町村長ハ職務取扱ノ爲實費辨償ノ外勤勞ニ相當スルノ報酬ヲ求ムルコトヲ得トアレバ（第五十七條）警察官吏ヲ兼勤スル町村長ノ報酬ハ決シテ巡查ノ給料ヨリ少キコト能ハザルベシ。

若シ此ノ法案ヲシテ價值アラシムル爲ニ多數ノ町村ニ自治新制ヲ實行セシメントナラバ、即チ第五條ニ依リ「法律上負擔ノ義務ヲ盡スベキ十分ノ資力ヲ有セザル町村ハ關係者ノ承諾ヲ待タズシテ府縣知事ノ專見ヲ以テ（但内務大臣ノ許可ヲ受ク）之ヲ合併セザルコトヲ得ズ」今全國ノ町村十分ノ八九ニ向テ一時ニ合併ノ命令ヲ斷行シタランニハ其騷動混雜ハ實ニ想像ノ外ナルベク、何等ノ反對結果アラシムルモ料ルベカラズ。

閣下ノ高明ナルハ蓋既ニ此ニ見ル所アリテ、即チ第六章ニ於テ町村組合ノ制ヲ普通ノ例外ニ設ケ、以テ之ヲ疏通セラレタリ。小官ハ此ノ法案ノ全部ヲ通觀シテ此ノ第六章ハ必起草者ノ初稿ノ外ニ一種ノ高尙ナル意見ヨリ來由セル事情アルコトヲ發見シ得タリ。但シ本案ヲ賛成スル爲ニ更ニ疑フ所ハ此ノ章ノ僅々タル三條ニ止マリ、其組合ハ何等ノ組合長ヲ置クカ（今ノ聯合戸長ヲ存

スルカ廢スルカ)其組合長ハ何等ノ選舉法ヲ用キルカ、組合長ヲ置クトキハ固有ノ村長ハ之ヲ置カザルカ、若之ヲ置クトキハ其執行事務ノ關係ハ如何、又組合議會ヲ置クトキハ其議會ノ職權ハ組合ノ事務ニ止マルカ、又ハ組合各村ノ財産ニ及ブカ否、又組合議會アル爲ニハ各村ノ議會ヲ開クヤ開カザルヤ、槩言スレバ組合町村ハ行政及自治ノ事務共ニ組合ニテ處辨スルカ、或ハ行政事務ノミ組合處辨トシ、各村固有ノ財産事務ノ如キハ仍各村ノ自治ニ任ズルカ(即今ノ聯合戸長ノ管轄ノ如シ)等ノ疑問ハ一モ之ヲ判明セズシテ曖昧ニ說過シタルガ爲ニ、恐ラクハ此ノ法案ノ施行ニ任ズル者ヲシテ第六章ノ實際ニ施シ難キコトヲ疑惑セシメ、又之ヲ實際ニ施スハ此ノ法案起草ノ趣意ニ乖クカノ疑團アラシメ、而シテ兩歧中ノ其一ヲ選取シテ寧ロ前後詳備ノ明文アル第五條ニ依リ強制斷行スルノ結果アラントスルハ必然ノ事ナルベシ。

若閣下ノ高意ハ果シテ自治制ノ小村ニ行ハレ難クシテ獨リ大村ニ行ハルベキコトヲ察セラレ、又小村合併ヲ斷行スルノ民心人情ニ乖キ易キヲ以テ、彼ノ獨逸ニテ或洲ニ於テハ獨立自治ノ制ヲ施行シ、他ノ數州ニ於テハ組合自治ノ制ヲ施行スルニ徼ヒ、平穩漸進ノ主義ヲ取り地方ノ便宜ニ從ヒ、或ハ舊制ヲ存シテ稍之ヲ潤色シ(郡組合戸長ニ依ル)或ハ新制ヲ舉行スルノ選取ノ自由ヲ與フベシトノ寛大高尚ナル目的ニ在ラシメバ、小官ガ極メテ遺憾トスル所ノ者ハ本案ノ結構ハ其全部ヲ通論スルニ、彼レニ詳ニシテ此レニ略シ、彼レニ重クシテ此レニ輕クシ、獨立自治ノ一方

ニ偏傾シテ法案ノ精神ハ合村ヲ斷行スルニ在ルガ如クナラシムルコト是ナリ。

今本案ヲシテ立法者ノ主義ヲ明瞭ナラシメ、施行者ノ誤解ト疑惑トヲ避ケテ實際ニ圓滑ナル選擇ノ自由ヲ得セシメントナラバ、更ニ本案ヲ修正シテ第六章組合制度ノ爲ニ詳細ナル條項ヲ記載シ、本案ノ一部分ヲ占領セシメ獨立自治ノ制ト相對向シテ本案ノ一般ニ詳備周密ナル性質ヲ具ヘタルニ稱ハシメザルベカラズ。

更ニ又他ノ一ノ方法アリ、第一章ニ於テ

町村ニ於テ從前ニ施行セル戸長役場ノ代リニ一町村限町村長ヲ公選シ、自治ノ制ニ依リ其事務ヲ負擔シ及義務ノ費出ヲ支辨センコトヲ願フ者ハ府縣參事會ノ議決ニ依リ之ヲ許可シ本法律ニ依ルコトヲ得。

トノ一條ヲ首先ニ掲グベシ。若シ此ノ方法ヲ取ルトキハ現今聯合戸長役場ノ制ハ自然ニ舊ヲ存スルヲ以テ更ニ第六章ヲ敷衍スルコトヲ假ラズ(但第五條第三項殊ニ法律上云々以下ハ之ヲ消去スベシ)至テ簡潔ニシテ一條ノ活路ヲ得ベシ。而シテ本家中ノ條項ニ就キ一ニ修正ヲ加フルノミニテ全ク立法者ノ素意ヲ圓滿ナラシムルニ足ランカ。

現在地方官召集ノ際ニ臨ミ、萬一ニモ小官ノ愚見ヲ以テ下問ノ一端ニ具ヘラルレバ何ノ幸カ之ニ加ヘン。

第五條三項
ハ法律上ノ
義務ハナ
分資ハナ
キ村接ハ
郡内ニ合
町村ニ非
スルニ治
レバ自治
トニ依ル
改ムベシ
ト

其他選舉人ヲ二級ニ分ツハ普國ノ舊套ニシテ（ビスマルク侯ノ改正ヲ企テタル所ナリ）我國ニ在テハ恐ラクハ徒ニ手數ノ繁雜ヲナサンカ（十五條）町村會ニテ權利ノ訴願ヲ裁判シ（二十八條）町村ニテ規定スル規則ニ科料十圓以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得セシメ（九十二條）町村ニテ公債ヲ募集スルコトヲ得セシメ（百九條）町村ニテ督促ノ手數料ヲ定ムルコトヲ得セシメ（百四條）各國ノ憲法ハ大抵法律ノ外ニ役人ノ手數料ヲ取ルコトヲ禁ジタリ）タルガ如キハ町村及町村會ニ過度ノ權力ヲ附與シタル者ニテ、將來ニ其大弊ヲ見ンカ。又町村長ノ退隱料收入役ノ身元金ノ如キハ實際ニ行ヒ難カラシカ。此等ハ皆獨逸ノ雛形ニ模型シタル瑕疵ナルガ如シ。今其細目ニ涉ルヲ以テ茲ニ贅論セズ。

（町村議員ノ選舉法ハ帝國議院ノ選舉法ト相顧應セザルベカラザルガ故ニ此亦一二ノ修正ヲ要ス）

縣制

第一款 縣制ノ基礎

第一章 縣ノ範圍及境界

第一條 縣ノ境界ハ總テ舊ニ依ル、其行政區畫タルモ亦同ジ。

第二條 縣ハ法人權ヲ有スル自治公共區ニシテ本縣制ノ細目ニ依リ自ラ其事務ヲ理治スルモノトス。

第三條 縣界ヲ改正シ新縣ヲ創置シ又ハ數縣ヲ合シテ一縣ト爲ス等ハ總テ其縣會ニ諮問シタル後法律ヲ以テ之ヲ定ム。

此等ノ變革ニ際シ各縣事物交互ノ調理ハ內務大臣之ヲ處分スベシ。

若シ此際紛議ヲ生ズルトキハ東京ニ設置セル高等行政裁判所ニ於テ之ヲ判決スル者トス。但シ其設置ナキ間ハ法制局ニ於テ之ヲ判決ス。

私法上ノ關係ハ此等ノ場合ト雖モ變更スルコトナシ。
市邑ニシテ縣界ニ接スルモノヲ改定スルトキハ縣界モ隨テ改定ヲ受ルモノトス。
各縣界ノ改定ハ縣公文誌ヲ以テ之ヲ公告スベシ、公文誌ノ設ケナキトキハ其地方普及ノ新聞紙ニ公告スベシ。

第二章 縣民及其權利義務

第四條 縣所屬ノ郡民ハ總テ縣民トス。

第五條 縣民ハ左ノ權利ヲ有ス。

- 一、本縣制ニ準ジテ其縣行政及代議事務ニ參與スルコト。
- 二、成規ニ依リ縣内ノ諸設營及諸公場ヲ共用スルコト。

第六條 縣民ハ縣行政及代議事務ニ服シ俸給ヲ受ケザルモノトス。

右ノ事由アル者ニ限り選任ノ初辭退シ又ハ任期中ニ退職スルコトヲ得。

- 一、長病
- 二、營業ノ爲メ已ヲ得ズ頻數又ハ經時ノ旅行ヲ爲ス者。
- 三、年齡滿六十歲ノ者。

四、官吏ニ轉任スル者。

五、其他縣會ニ於テ事由ヲ酌量シ至當ナリト認定スル者。

縣行政及代議事務ニ服シ、成規ノ任期ヲ經過セシ者ハ後三年間舊職又ハ類職ニ就クヲ辭退スルコトヲ得、但シ特別ニ任期ヲ定メザル者ハ三年ノ後自由ニ退職スルヲ得ベシ。

前數項ノ事由ナクシテ縣行政及代議事務ニ服スルコトヲ肯ゼズ、又ハ任期中ニ退職シ又ハ縣總代ノ督責ヲ蒙ルモ任期中現ニ執務セザル者ハ縣會ノ決議ニ依テ三年乃至六年間縣行政及代議事務ニ參與スルノ權ヲ剝奪シ、且ツ縣一般人民ニ比スレバ八分一乃至四分一ノ縣稅ヲ增課スルコトヲ得ベシ。

縣會ノ決議ニ對シ不服アルトキハ四週間以内ニ內務大臣ニ出訴スルコトヲ得。

第七條 縣民ハ縣費支給ノ稅金ヲ納ルモノトス。但シ縣會ニ於テ縣民ノ共有財産又ハ他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ議決セルトキハ此限ニアラズ。

第八條 縣會ニ於テ議決スベキ縣稅賦課徵收ニ關スル原則ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム。其布告ナキ間ハ現行規程ニ依ルベシ。

第九條 縣ノ諸設營ニシテ各地其利益ヲ受ルニ多寡ノ差違アルモノハ縣會ハ其利益ヲ受ルノ多寡ニ從テ又賦稅ノ多寡ヲ議決スルコトヲ得。

第三章 縣申合規則及諸條規

第十條 各縣ハ左ノ權利ヲ有ス。

一、縣ノ憲法ニ係ル事件ニシテ本縣制中ニ縣申合規則ヲ設クルコトヲ得ト指示シタル件、又ハ本縣制中ニ未定ノ件ニ付キ該申合規則ヲ設クルコト、但シ申合規則ハ法律勅令ニ抵觸スルコトヲ得ズ。

二、縣内ノ諸設營ニ付キ其條規ヲ設ルコト。

縣申合規則及ビ諸條規ハ縣公文誌ヲ以テ公告スベシ。公文誌ノ設ケナキトキハ其地方普及ノ新聞紙ニ公告スベシ。

第二款 縣會及縣治

第一章 縣會ノ成立

第十一條 縣會ハ縣ノ各郡區ヨリ選出スル議員ヲ以テ之ヲ組成ス。

第十二條 京都、大阪、神奈川、兵庫、新潟、埼玉、群馬、茨城、栃木、三重、愛知、静岡、岐

阜、長野、宮城、福島、岩手、島根、岡山、廣島、愛媛、福岡、熊本、鹿兒島ノ府縣ハ各郡區二名以上ノ議員ヲ府縣會ニ發遣スベシ。

長崎、滋賀、山形、福井、鳥取、山口、徳島、大分、佐賀ノ諸縣ハ各郡區少ナクトモ三名ノ議員ヲ縣會ニ發遣スベシ。

神戸、青森、秋田、石川、和歌山、宮崎ノ諸縣ハ各郡區ヨリ少クトモ四名ノ議員ヲ縣會ニ發遣スベシ。

高知縣ハ少クトモ五名富山縣ハ少クトモ六名ノ議員ヲ各郡區ヨリ縣會ニ發遣スベシ。

一郡區ニシテ人口四萬以上ヲ有スルトキハ前條ノ定員ヲ超過シ一名又ハ數名ノ議員ヲ縣會ニ選出スルモノトス。但シ郡區ニシテ人口四萬乃至八萬ナルトキハ議員一名、八萬乃至十二萬ナルトキハ議員三名、十二萬乃至十六萬ナルトキハ議員三名、十六萬乃至二十萬ナルトキハ四名、二十萬乃至二十四萬ナルトキハ五名ヲ増シ縣會ニ發遣スルモノトス。

第十三條 各郡區ヨリ選出スル議員ノ員數ハ毎回新選舉ノ前縣總代ニ於テ之ヲ定メ縣公文誌ヲ以テ之ヲ公告スベシ。公文誌ノ設ケナキトキハ各郡區總代ハ文書ヲ以テ其市長ニ通知スベシ。其員數ヲ定ムルハ最近度ノ人口調査ニ依ルベシ。但シ現役ノ軍人軍屬ハ其數ニ加フルコトヲ得ズ。

第十四條 其員數ノ算定ニ誤謬アルトキハ縣公文誌ヲ以テ公告シタル後四週間以内ニ其正誤ヲ縣總代ニ請求スベシ。縣總代ハ其當否ヲ終結スルモノトス。

第十五條 各郡ヨリ選出スル縣會議員ハ郡會之ヲ選舉ス。

各區ヨリ選出スル縣會議員ハ市會之ヲ選舉ス。

第十六條 縣會議員ノ選舉ハ本縣制ノ結尾ニ追附スル選舉規則ニ據テ之ヲ執行スベシ。

第十七條 日本國民ニシテ獨立シ年齡三十歲ニ滿テ公權ヲ具有シ又ハ地所ヲ所有シ又ハ住宅ヲ構ヘ少ナクトモ一年以上本籍ヲ其縣ニ定メタル者ハ縣會議員ニ選舉セラル、コトヲ得。

獨立トハ裁判上私有財産ヲ自由ニ處置シ及之ヲ管理スル權利ヲ剝奪セラレザル者ヲ云フ。

第十八條 被選舉權ヲ有スルモノニシテ第十六條ノ諸要件ノ一ヲ缺クトキハ其權ヲ失フ、竝ニ身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘザル間、又ハ重罪ヲ犯シ若クハ公權ヲ失ハザルヲ得ザルカ或ハ失ヒ得ベキカノ輕罪ヲ犯シ糾問ヲ受ケ拘留ヲ命ゼラレタル間ハ其選舉權ヲ停止ス。

第十九條 縣會議員ノ任期ハ六年トス。

縣會ハ各選舉ノ爲メニ定メラレタル要件ヲ缺キ、又ハ永遠若クハ一時其要件ヲ停止セラレタルトキハ其有無ヲ議決シテ永遠若クハ一時其效力ヲ停止スルコトヲ得。

第二十條 縣會議員ノ選舉執行ハ縣令之レヲ命ズ。

第二十一條 縣令ハ新選議員ノ姓名ヲ縣公文誌ニ公告ス可シ。若シ公文誌ノ設ケナキトキハ其縣普及ノ新聞紙ニ公告スベシ。

縣會議長ハ新選議員ヲシテ其職ニ就カシム可シ。

第二十二條 退職議員ノ補缺選舉ハ其退職議員ノ郡區ニ於テ之ヲ行フ。

補缺選舉ハ缺員後六ヶ月以内トシ成ルベク次會々期前ニ施行スベシ。補缺議員ハ退職議員ノ任期ヲ襲グ者トス。

第二十三條 各選舉會員ハ其選舉處置ニ對シテ不服ナルトキハ二週間以内ニ選舉會長ニ就テ異見ヲ申立ツルコトヲ得ベシ。縣會ハ其異見書ヲ推問シタル後其適否ヲ議決ス。其他縣會ハ職權上議員タルベキ者ノ適否ヲ檢シテ之ヲ議決スル者トス。

第二十四條 第十八條及ビ第二十二條ニ依リ縣會ノ議決シタル事ニ對シテハ二週間以内ニ東京ニ設置セル高等行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得、其設置ナキ間ハ內務大臣ニ出訴スベシ。

第二十五條 縣會議員ハ榮譽職トス、但シ旅費及ビ日當ヲ要求スルコトヲ得ズ。

第一章 縣會々議及其事務

第二十六條 縣會ハ縣民ノ代議ヲ爲シ本縣制ノ細目ニ從ヒテ縣事ヲ商議決議シ其他法律勅令ヲ以

テ既ニ委任セラレ、又ハ將來委任セラル、事項ヲ商議決定スル者トス。

第二十七條 縣會ハ殊ニ左ノ諸項目ヲ商議決定スル者トス。

- 一、第十條ニ依リ縣申合規則及諸條規ヲ設クルコト。
- 二、各縣ニ賦課スベキ負擔ニシテ成法ニ其徵收方法ノ例規ナキモノハ之ヲ縣民ヨリ徵收スルノ方法ヲ決定スルコト。
- 三、縣ノ負擔スベキ費額ヲ決定スルコト。
- 四、負擔ノ義務ヲ有セザル費額ト雖モ縣又ハ縣ノ部分ノ利益ニ關スルモノハ之ヲ議定スルコト。
- 五、前三四項ノ費額ノ爲メニ縣民共有ノ土地及資財ヲ處分シ負債ヲ起シ保證ヲ爲シ縣稅ヲ賦課スルコト。
- 六、縣治費額ノ豫算ヲ定メ又ハ費目支出ノ決算ヲ査閱スルコト。
- 七、縣民共有ノ土地及資財竝ニ縣ノ諸設營及諸公場管理ノ諸條規ヲ設クルコト。
- 八、縣治諸職員ノ編制及縣吏ノ員數給料等ヲ議定シ又縣吏ニシテ保證金ヲ要スル場合ニ於テ其納ムベキ金額ヲ定ムルコト。
- 九、縣會縣總代及成法ニ於テ官治事務ノ爲ニ設ケタル委員ヲ選舉シ其他縣事ノ爲メニ委員ヲ置

クコト。

該選舉ノ執行ハ本縣制ノ結尾ニ追付スル選舉規則ヲ施行スベシ。其施行シタル選舉ニ對シテハ縣會各議員ハ二十四時間以内ニ會長ニ意見ヲ申立ツルコトヲ得、其意見ハ縣會ニ於テ終結スル者トス。

十、縣又ハ各部ニ關スル建議又ハ請願ヲ主務省ニ差出スコト。

十一、官廳ヨリ諮詢スル事項ニ付キ意見ヲ陳述スルコト。

十二、縣ノ一郡ニシテ公益ニ係ル義務ヲ負擔シ能ハザル事實アリト認ムルトキハ縣總代ヲ推問シ其郡ノ申立ヲ採用シ相當ノ補助ヲ爲スコト。

十三、法律又ハ勅令ヲ以テ委任セラレタル事務ヲ理治スルコト。

第二十八條 前條十二項ニ記載シタル縣會ノ決議ニ付テハ既ニ市邑會議員又ハ市邑長及ビ其助役又ハ郡會議員ノ職ヲ以テ該件ヲ議定シタル縣會議員ハ再ビ其議決ニ參與スルコトヲ得ズ。

第二十九條 縣令ハ議案ヲ記入シタル招集狀ヲ發シテ議員ヲ招集シ、自カラ其議長ニ爲リ議事ヲ統轄シ議場ヲ整理ス、若シ縣令事故アルトキハ縣令代理又ハ內務大臣ヨリ指名ノ郡長又ハ縣吏ヲ以テ之ニ充ツ。

招集狀ハ少ナクモ會議ノ十四日前ニ之ヲ各議員ニ發スルヲ以テ例規ト爲ス、若シ急迫ニ際ス

ルトキハ其期ヲ短縮シテ三日前ト爲スコトヲ得、又招集狀ニ記入セザル事項ト雖モ會議ニ付スルコトヲ得ベシ。但シ其決ヲ取ルハ之ヲ次會ニ讓ルモノトス。會議ニ付スベキ議員ノ建議ハ郡長ニ申告スベシ。其建議ニシテ議員ニ招集狀ヲ發スル前ニ係ルモノハ之ヲ招集狀ニ記入スベシ。郡長ハ每年少ナクトモ二回ノ會議ヲ開設ス、若シ事務繁劇ナルトキハ二回以上ヲ開設スルモ妨ゲナシトス。又總議員ノ四分之一以上若クハ縣總代ヨリ請求アリタルトキハ臨時縣會ヲ開ク者トス。開會ノ都度縣令ヨリ招集狀ノ寫ヲ內務大臣ニ送付シ其旨ヲ通知スベシ。

第三十條 成法ニ於テ縣ノ義務ニ屬セズシテ無期費額ヲ要スル共同會場ノ設置又ハ縣ノ義務ニ屬セズシテ其費額五百圓ヲ超過スル事件、又ハ縣内各地課税ニ等差ヲ立ツル等ニ付テハ、縣總代ハ本縣制第九條ニ準シ縣會ノ決議ヲ爲サシメントスルトキ其事項中ニ詳細ナル意見ヲ付シ、少ナクトモ會議ノ十四日前ニ之ヲ各議員ニ配布スベシ。其事項ニハ施行方法又ハ費額及ビ賦課方法ヲ明記スル者トス。

第二十七條第十二項ニ記載セル場合ニ於テハ、開會前少クトモ十四日前招集狀ヲ其郡會ニ發シ、郡會代理ノ全權委員一名ヲシテ開議ニ蒞ミ其建議又ハ郡民利害ノ理由ヲ説明セシムベシ。郡會ノ代理者出席ナシト雖モ縣會ハ其申立ヲ可否スベシ。危急ヲ豫防シ又ハ之ヲ救済スルトキハ此限ニアラズ。

第三十一條 縣會々議ハ傍聽ヲ許ス、但時宜ニ因リ傍聽ヲ禁ズルコトヲ得。

第三十二條 縣會ハ總議員ノ半數以上出席スルニアラザレバ決議スルコトヲ得ズ。但同一議事ニ付キ再回招集スルモ猶ホ決議シ得ベキ員數ニ滿タザルトキノ如キハ既ニ員數ニ拘ハラズ決議スベキ旨ヲ諭告セルヲ以テ此限ニアラズ。

第三十三條 縣會々議ニシテ議員一身ノ利害ニ關スル者アルトキハ該議員ハ其議事ニ參與スルコトヲ得ズ。

第三十四條 縣總代ノ列員ニシテ縣會議員ニ非ザル者ト雖モ之ヲ縣會々議ニ招集スルヲ得、該列員ハ會議ニ於テ討議ニ參與スルコトヲ得。

第三十五條 縣會ノ決議ハ多數ニ依ル、若シ員數相均シキトキハ該議ハ否決スル者トス。但シ成法ニ於テ縣ノ義務ニ屬セズシテ無期費額ヲ要スル諸設營ヲ許可スルノ議事ハ、少ナクトモ議員三分ノ二以上ノ多數ニ依テ決ス可シ。

第三十六條 縣會ニ於テ別ニ議事録ヲ製シ出席議員ノ名ヲ列記シ議長及ビ衆議員ノ中三名以上之ニ署名ス、該三名以上ノ議員ハ開會前衆議員中ニ於テ之ヲ定ムベシ。

其書記ノ選舉及議事ノ書式ハ縣會ノ決議ニ依テ定ムル所ノ議事細則中ニ掲載スベシ。

決議シタル事項ノ要旨ハ縣會豫定ノ方法ニ依テ之ヲ公告スベシ。但シ縣會ニ於テ其時々特別ノ

方法ヲ設クルモノハ此限ニ非ズ。内務大臣ヘハ議事録ノ寫一部ヲ送致スベシ。
 第三十七條 縣會ノ決議權内ニ在ル事項(二十六條二十七條)ニ於テ會名ヲ以テ送致セントスル
 歎願書及ビ書類ハ先ヅ縣會ニ於テ商議署名スベシ。其議署名ヲ經タル旨ハ該歎願書中ニ登記ス
 ルヲ要ス。

第三章 縣 經 濟

第三十八條 縣總代ハ豫定スベキ出入額ヲ調査シテ年々縣費定額豫算表ヲ調製シ、縣會ニ付シテ
 確定シタル後縣會決議事項ノ公告法ニ依テ之ヲ公告スベシ。

縣總代ハ該定額豫算表ノ附録ニ縣治事務ノ績實ト實況トヲ記載シ之ヲ縣會ニ報告スベシ。

定額豫算確定ノ後ハ該豫算表ト事務報告ノ寫一部トヲ内務大臣ニ送致スベシ。

定額豫算外ノ支出ハ郡會ノ可決ヲ經ベキ者トス。

第三十九條 縣費出納取扱ノ爲メ會計吏一名ヲ置ク、會計吏ハ縣總代ノ管理ヲ受ケ其懲戒ニ服ス
 ル者トス、縣總代ハ取扱上ノ件ニ付キ直チニ免職スルコトヲ得、但至急ノ場合ニ於テハ縣令ノ
 會計吏ヲ停職シ其代理ヲ命ズルコトヲ得ベシ。

縣費出納ハ毎月例日ノ查閱外ニ每年少ナクトモ臨時ニ查閱スベシ。其查閱ハ縣總代之ヲ爲ス。

但シ臨時查閱ノ際ハ縣總代中ヨリ選舉スル所ノ列員一名ヲ參會セシムベシ。

納金ノ延期ハ縣總代ニ限り之ヲ許可スルコトヲ得、但シ未納金ヲ取立ツルニ於テ私法上ニ關セ
 ザル者ハ總テ縣總代長ノ指令ニ因リ行政上處分スベキ者トス。該指令ニ對スル不服ハ縣代ノ協
 議ヲ以テ之ヲ決ス。

第四十條 縣費豫算内ノ收支取扱ハ其都度縣令之ヲ命ズ、臨時收入ノ監督ハ縣總代列員中ヨリ一
 名ヲ選舉シテ之ニ充ツ。

第四十一條 縣費出納ノ會計吏員ハ毎年五月一日前ニ前年度ノ決算ヲ終結シテ之ヲ縣總代ニ差出
 スベシ。縣總代ハ之ニ説明ヲ加ヘテ縣會ニ提出シ、其確認ヲ請ヒタル後其要領ヲ公告スベシ。
 縣會ハ該決算ノ調査ニ關シ殊ニ委員ヲ設ケテ之ヲ擔任セシムルコトヲ得、又縣會ノ確認ヲ得タ
 ル後ハ其決議條件ノ寫ヲ速ニ内務大臣ニ上申スベシ。

第四章 縣總代ノ組成方及縣治ト官治トニ

於ケル事務

第四十二條 各縣ハ縣總代ヲ置キ縣治事務ヲ管理シ、法律又ハ勅令ヲ以テ委任セラレタル一般官
 治事務ヲ擔任セシム。

第四十三條 縣總代ハ郡會ニ選舉セラルベキ人民中ヨリ選出セラル、列員八名ノ外縣令ヲ加ヘテ之ヲ組成ス、其列員中少クトモ四名ハ縣會議員ニシテ過半数ニ依リ選舉セラル、者トス、其他郡會ニ於テ補缺員四名ヲ選舉スベシ。其四名中少クトモ二名ハ縣會議員ヨリ選舉スベキ者トス。僧侶、寺僚、小學校教員及郡衙縣廳ニ奉職スル者ハ列員タルコトヲ得ズ。

在職官吏ハ主務省ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ列員タルコトヲ得ズ。

第四十四條 縣總代ノ任期ハ六年トス、但シ任期ヲ經過スルモ後任者ノ選舉ナキ間ハ其職ニ居ル者トス。又三年毎ニ列員總數ノ半数ヲ解任ス、第一回三年期ノ解任者ハ抽籤法ヲ以テ之ヲ定ム、其抽籤ハ縣總代ノ會議ニ於テ之ヲ行フ、解任者ハ再選セラル、コトヲ得、各選舉ニシテ選舉ノ爲メニ定メラレタル要件ヲ缺クトキハ其效力ヲ失フベシ。縣總代ハ其有無ヲ議決スル者トス、但郡總代ノ決議ニ不服ナルトキハ二週間以内ニ內務大臣ニ出訴スルコトヲ得、其不服出訴權ハ縣總代長モ亦之ヲ有ス、出訴後判決ニ至ラザル間ハ本人其職ヲ退クト雖モ亦補缺選舉ヲ行フコトヲ得ズ。

第四十五條 任期中退職列員及代理者ノ爲メ補缺選舉ヲ爲スベシ。其補缺選舉ハ次回ノ縣會ヲ以テ實行スル者トス。但シ補缺員ハ退職者ノ任期ヲ襲グ者トス。

第四十七條 縣總代ハ左ノ事務ヲ處理ス。

- 一、縣會議案ヲ調製シ又ハ決議事項ヲ實施スルコト、但シ法律又ハ縣會ノ決議ヲ以テ特別委員若クハ吏員ニ委任シタル者ハ此限リニ非ズ。
 - 二、成法若クハ縣會ノ決議ニ準ジ又ハ縣會議定ノ豫算額ニ從ヒ縣事ヲ理治スルコト。
 - 三、縣吏ヲ任用シ又ハ其事務ヲ指揮監督スルコト。
 - 四、官廳ヨリ下問スル事項ニ付其意見ヲ陳述スルコト。
 - 五、法律又ハ勅令ヲ以テ既ニ委任セラレ又ハ將來委任セラル、一般官治事務ヲ管掌スルコト。
- 第四十八條 縣令ハ縣總代ノ事務ヲ指揮監督シテ延滞ナキコトヲ注意スベシ。
- 縣令ハ縣總代ヲ召集シ其會議ノ長ト爲リ其可否ノ數ニ加ハルコトヲ得、若シ縣令事故アルトキハ其代理者又ハ內務大臣ヨリ指名スル郡長又ハ縣吏ヲ以テ其長ト爲ス。

第四十九條 縣令ハ縣總代ニ委任シタル常務ノ執行ヲ管理シ、其議案ヲ調製シ又其決議シタル條件ヲ實施セシム。事件ニ依リテハ縣總代列員中一名ニ專任シ、又ハ其他ノ吏員又ハ専門家ヲ縣總代ノ會議ニ列セシメ、其關係事件ニ就テ演說シ若クハ意見ヲ開陳セシムルコトヲ得、但シ吏員及ビ専門家ハ其討論ニ參與スルモ可否ノ數ニ加ハルコトヲ得ズ。縣令ハ郡總代ヲ代理シ其名ヲ以テ諸官廳及平人ト應接シ又ハ其名ヲ以テ他方ト通信往復スル一切ノ文書ヲ作ル者トス。縣ト別人トノ契約并ニ委任等ノ證書類ハ郡會若クハ郡總代ノ衆議一決セシ旨ヲ記載シ、縣總代列

員中若クハ專任委員中ノ二名ト縣令ト相連署シ縣令ハ特ニ其印ヲ捺スベシ。其官廳ノ許可ヲ受クルコトヲ要スルモノハ其許可狀ヲ該書類ニ附シテ之ニ證印ヲ捺スル者トス。

縣令ハ行務ノ手數ヲ省ク爲メ縣事務及ビ諸設營ノ種類ニ因リ其證書ヲ認メ又ハ代理ヲ遣ハスコトニ就キ適宜ニ縣申合規則ヲ設クルコトヲ得。

第五十條 縣總代會議ハ正當ノ手續ヲ以テ之ヲ招集シ、首長ヲ合セテ五名以上出席スルニアラザレバ決議スルコトヲ得ズ。其決議ハ過半数ニ依テ決ス、可否同數ナルトキハ首長ノ可否スル所ニ依ル。

第五十一條 縣會ノ議事ニシテ縣總代ノ列員若クハ其尊卑ノ血屬親婚屬親若クハ竝屬三等以下ノ親戚身上ニ關スルトキハ該列員ハ其商議決議ニ參與スルコトヲ得ズ。

縣總代列員ニシテ既ニ私ニ意見ヲ述べ又ハ私ニ理事者若クハ代理者等トナリタル事件ニ付テハ其商議決議ニ參與スルコトヲ得ズ。前項ノ場合ニ際シ縣總代決議シ能ハザルトキハ、關係ナキ代理者ヲ招集スベシ。關係ナキ代理者猶ホ決議シ能ハザルトキハ縣會ニ於テ之ヲ決議スベシ。縣會開期マデ其決議ヲ延期スル能ハザルトキハ縣會ハ關係ナキ縣總代列員若シハ其代理者若クハ縣會議員ヲ以テ特別委員ヲ設ケ之ヲ決議スベシ。其委員ハ縣總代ト同一ナル員數ヨリ成立スル者トス。

第五十二條 縣總代ノ事務管理上必要ノ經費ハ縣之ヲ負擔スル者トス。

縣總代列員ハ縣會ノ決議ヲ經テ其現費支出ヲ償フニ足ルベキ報酬金ヲ受クベシ。

第五十三條 其他郡總代ノ行務規程ハ追テ內務大臣ヨリ之ヲ布告スベシ。

第五章 縣 委 員

第五十四條 縣令ハ縣會ニ選舉セラルベキ縣民中ヨリ特別委員ヲ設ケ直接ニ縣立ノ諸設營ヲ管理セシメ、又ハ縣事務ヲ擔任セシムルコトヲ得ベシ。但シ該委員ハ縣令ノ指揮ヲ受テ服務スベシ。

縣會ハ縣申合規則ヲ以テ該委員會及ビ委員ノ事務章程ヲ設クルコトヲ得。

縣令ハ常ニ縣委員ノ商議ニ臨席シテ其議長トナリ又其可否ノ數ニ加ハルコトヲ得。

第五十五條 縣委員ニ日當及ビ旅費ヲ給與スルト否トハ縣會ノ議定ニ任ズ。

第六章 縣 會

第五十六條 縣令ハ縣會及縣總代ノ長トシテ縣治事務ヲ掌ル、其權利義務ニ關シ本縣制ノ爲メニ變更セザル者ハ總テ從前ノ成規ニ依リ殊ニ府縣廳ノ組織其他一般官治事務ニ關スルモノハ成法上ノ規定ニ依ル者トス。

第五十七條 縣令ハ自己服務ノ際之ヲ妨害スル者アルトキハ之ヲ制止シ又ハ退去ヲ命ジ猶ホ其命ニ順ハズシテ所爲強暴ニ涉ルトキハ六圓以下ノ罰金ヲ科シ及ビ二十四時間以下ノ拘留ニ處スルコトヲ得、之ヲ處分シタルトキハ其事由ヲ明記シテ内務大臣ニ具申スベシ。

第三款 縣政監督

第五十八條 右諸項ニ係ル縣會決議ハ内務大臣ノ認可ヲ經ベシ。但シ第五項ハ内務大藏兩大臣ノ認可ヲ經ル者トス。

- 一、第十條中第一項ニ準ジテ縣申合規則ヲ設クルコト。
 - 二、第九條ニ準ジテ縣ノ地方ニ因リ費額賦課ノ等差ヲ立ツルコト。
 - 三、國稅中直稅總納額百分ノ二十ヲ超過スル縣稅ヲ賦課スルコト。
 - 四、縣有ノ土地及財産ヲ賣買讓與スルコト、但シ最近五個年間ニ貯蓄シタル收入ノ處分ハ此限ニアラズ。
 - 五、新債ヲ募集シ又ハ舊債ヲ増加シ又ハ保證ヲ爲スコト。
 - 六、成法ニ明條ナキ者ニシテ新ニ五年以上ニ永續スル義務ヲ縣民ニ負擔セシムルコト。
- 前數項ノ縣會決議ニシテ認可ナキ者ハ無効トス。

第五十九條 縣治事務ハ本縣制ノ細目ヲ以テ特ニ之ヲ確定セザル者ハ内務大臣之ヲ監督スル者トス。

縣事件ニ付キ監督廳ニ出訴セントスル者ハ四個月以内ニ出訴スベシ。

第六十條 監督廳ハ法律ヲ以テ委任セラレタル方法ニ依リ自治事務ノ成法ニ適シ又其順序ヲ失ハザルヤ否ヲ監督スベシ。

第六十一條 監督廳ハ事務ノ種類ヲ問ハズ之ヲ細報セシメ公文書類及ビ定額豫算竝ニ歲出入決算書ヲ送付セシメ又實地ニ就テ行務及ビ會計ヲ檢閲セシムルコトヲ得ベシ。

第六十二條 縣會及ビ縣委員其他縣治事務ニ關スル縣總代ノ決議條件ニシテ其權限ヲ越ヘ又ハ成法ニ抵觸スルモノアリト思料スルトキハ監督廳ノ命ニ因リ其理由ヲ示シテ之ヲ停止スルコトヲ得。

縣令ノ處分ニ對シ縣會縣總代及縣委員ハ四週間以内ニ東京ニ設置セル高等行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得、但其設置ナキ間ハ法制局ニ出訴スベシ。

第六十三條 内閣ノ上奏ニ依リ勅命ヲ以テ縣會ノ解散ヲ命ジタルトキハ其解散ヲ命ジタル日ヨリ六ヶ月以内ニ更ニ議員ヲ改選スベシ。

縣會解散ノ時ニ舊縣會ヨリ選舉セラレシ縣總代列員及縣委員ハ新縣會ニ於テ其選舉ヲ爲スノ間

暫ク在職スル者トス。

第六十四條 縣會ニ於テ成法上縣ノ義務タル負擔ヲ其定額豫算ニ編入セズ、又ハ臨時之ヲ賦課徵收スルコトヲ怠リ又ハ敢テ之ヲ肯ゼザルトキハ、内務大臣ハ職權ニ因リ其理由ヲ説明シテ之ヲ定額豫算ニ編入セシメ又ハ臨時其賦課ヲ命ズルコトヲ得。

縣ハ内務大臣ノ處分ニ對シテ不服ナルトキハ處分ヲ受ケシ日ヨリ四週間以内ニ東京ニ設置セル高等行政裁判所ニ出訴スルヲ得、但シ高等行政裁判所ノ設置ナキ間ハ法制局ニ出訴スベシ。

第四款 更遷及施行總則

第六十五條 本縣制ハ帝國ノ各府縣ニ適用ス、但シ沖繩縣、北海道、東京府ヲ除ク。

第六十六條 東京府沖繩縣北海道ノ自治行政ハ特別ノ法律ヲ以テ之ヲ制定スル者トス。

第六十七條 郡制ニ準ジ郡會及郡總代ノ選舉ヲ終ヘタルトキハ郡會ハ本縣制ニ基キ直チニ縣會ノ選舉ヲ施行スベシ。

縣會ハ可成速ニ招集シ縣總代ノ選舉ヲ爲スベシ。

府縣ニ於テ新ニ縣會ヲ招集シ又ハ縣總代ヲ選舉セシトキハ舊縣會及ビ常置總代ハ其效ヲ失フモノトス。

第六十八條 本縣制ニ抵觸スル諸規則條例ハ總テ廢止ス。

第六十九條 本縣制施行ニ必要ナル訓令及ビ規則ハ内務大臣之ヲ布告ス。

郡制

第一款 郡制ノ基礎

第一章 郡範圍及境界

第一條 郡ノ境界ハ總テ舊ニ依ル、其行政區畫タルモ亦同ジ。

第二條 郡ハ法人權ヲ有スル自治公共區ニシテ本郡制ニ依リ自ラ郡事ヲ理治スルモノトス。

第三條 郡界ヲ改正シ新郡ヲ創置シ又ハ數郡ヲ合シテ一郡ト無ス等ハ總テ其郡會及縣會ニ諮問シタル後法律ヲ以テ之ヲ定ム。

此等ノ變更ニ際シ各郡事物交互ノ調理ハ行政上之ヲ處分スベシ。

若シ此際紛議ヲ生ズルトキハ縣廳ニ於テ之ヲ判決スル者トス。

私法上ノ關係ハ此等ノ場合ト雖モ變更スルコトナシ。

市邑ニシテ郡界ニ接スル者ヲ改定スルトキハ郡界モ隨テ改定ヲ受クル者トス。

各郡界ノ變更ハ縣公文誌ヲ以テ公告スベシ、公文誌ノ設ケナキトキハ其地方普及ノ新聞紙ニ公告ス可シ。

第二章 郡民及權利義務

第四條 郡民ハ其郡内ニ住居スル者トス。

第五條 郡民ハ左ノ權利ヲ有ス。

一、本郡制ニ準ジテ其郡行政及代議事務ニ參與スルコト。

二、郡ノ諸設營及諸公場ヲ共用スルコト。

第六條 郡民ハ郡行政及代議事務ニ服シ俸給ヲ受ケザルモノトス。

左ノ事由アル者ニ限リ選任ノ初辭退シ又ハ任期中ニ退職スルコトヲ得。

一、長病。

二、營業上已ヲ得ズ頻數又ハ經時ノ旅行ヲ爲ス者。

三、年令滿六十歳ノ者。

四、官吏ニ轉任スル者。

五、其他郡會ニ於テ事由ヲ酌量シ至當ナリト認定スル者。

凡ソ任期三年以上ノモノハ既ニ三年ヲ經過シタル後ハ退職スルコトヲ得。
郡行政及代議事務ニ服シ成規ノ任期ヲ經過セシ者ハ後三年間舊職又ハ類職ニ就クコトヲ辭退スルコトヲ得。

前數項ノ事由ナク郡行政及ビ代議事務ニ服スルコトヲ肯ゼズ、又ハ任期中ニ退職シ又ハ郡總代ノ督責ヲ蒙ルモ任期中現ニ執務セザル者ハ、郡會ノ決議ニ依テ三年乃至六年間郡行政及代議事務ニ參與スルノ權ヲ剝奪シ、且ツ郡一般人民ニ比スレバ八分一乃至四分一ノ郡稅ヲ增課スルコトヲ得ベシ。

郡會ノ決議ニ對シ不服ナルトキハ四周間以内ニ縣廳ニ出訴スルコトヲ得。

第七條 郡民ハ郡費支給ノ税金ヲ納ムル者トス、但郡會ニ於テ郡民ノ共有財産又ハ其他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ議決セルトキハ此限ニアラズ。

第八條 郡會ニ於テ議決ス可キ郡廳ノ賦課徵收ニ關スル原則ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム。

法律ノ布告ナキ間ハ郡廳ハ縣ノ廳率ニ準ジテ之ヲ徵收スル者トス。

第九條 郡ノ諸設營ニシテ各地其利益ヲ受クルニ多寡ノ差違アルモノハ、郡會ハ其利益ヲ受クルノ多寡ニ從テ又賦廳ノ多寡ヲ議決スルコトヲ得、但多稅負擔ノ地ハ郡會ノ議決額ニ準據シ勞力又ハ現品ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得ベシ。

第三章 郡内申合規則及諸條規

第十條 各郡ハ左ノ權利ヲ有ス。

一、本郡制中ニ違例ノ規則ヲ設クルヲ許ストノ正條アル件又ハ本郡制中ニ申合規則ヲ設クルコトヲ得ト指示シタル件又ハ本郡制中ニ未定ノ件等ニ付キ該申合規則ヲ設クルコト。

二、郡ノ諸設營ニ付キ其條規ヲ設ルコト。

郡申合規則及ビ諸條規ハ郡公文誌ヲ以テ之ヲ公告スベシ。其設置ナキトキハ縣公文誌ニ掲載シ其設置ナキトキハ其郡普及ノ新聞紙ニ掲載シテ公告ス可シ。

第二一款 郡會及郡治

第一章 郡會ノ成立

第十一條 各郡ハ一郡會ヲ有ス。

第十二條 郡會ハ左ノ人口ニ照ラシテ選出シタル議員ヨリ成立スル者トス。

人口四萬迄

二十一名

郡制

人口五萬迄	二十四名
人口六萬迄	二十七名
人口八萬迄	三十名
人口十萬迄	三十三名
人口十五萬迄	三十六名
人口二十萬迄	三十九名

以下人口五萬ヲ加フル毎ニ議員三名ヲ増ス。

第十三條 郡會議員ハ人口六萬以下ノ郡ニ於テ其郡内最多額納稅者五十名、人口六萬以上ノ郡ニ於テハ其郡内最多額納稅者百名ヨリ其三分ノ一ヲ選舉シ、市邑全權委員ヨリ其三分ノ二ヲ選舉ス。

第十四條 最多額ノ納稅者タル五十名又ハ百名ノ選舉ニ參與スルコトヲ得ル者ハ左ノ如シ。

- (イ) 郡内ニ住居ヲ有シ又ハ地所ヲ所有シ又ハ營業的ノ建物ヲ所持スル者。
- (ロ) 日本管民ニシテ獨立スル者。
- (ハ) 公權ヲ有スル者。

獨立トハ年齡滿二十五歲ニシテ裁判上私有財産ヲ專制管理スルノ權ヲ剝奪セラレザル者ヲ云

フ。

選舉權ヲ有スルモノニシテ前項諸要件ノ一ヲ缺クトキハ其權ヲ缺ク、竝ニ身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘザル間又ハ重罪ヲ犯シ若クハ公權ヲ失ハザルヲ得ザルカ或ハ失ヒ得ベキカノ輕罪ヲ犯シ糾問ヲ受ケ拘留ヲ命ゼラレタル間ハ其選舉權ヲ停止ス。

第十五條 前條ニ記載セシ(イ)ヨリ(ハ)ニ至ル資格ヲ有シ自ラ選舉ニ參與スルモノ、外代理人ヲ選舉會ニ出スヲ得ルモノハ左ノ如シ。

- 一、後見又ハ監守ヲ受ル者。
- 二、未婚ノ婦人ヨリ其全權ヲ委任セラレタル者。
- 三、政府ヨリ官有地ノ爲ニ出ス所ノ代理者。
- 四、株券商社、株券委託商社、又ハ町村ヲ除キ其他ノ法人又ハ講社ノ社則正條ニ準據シテ代理セシムル者若クハ他人ニシテ其全權ヲ代理スル者。
- 五、一個ノ田地又ハ一個ノ工業場ヲ共有スル者ニシテ其一人ヲ代理ト爲ス者。

其他郡外ニ住居シ選舉ニ參與スルコトヲ得ル者ノ全權ヲ代理スル者。
代理者ハ納稅額ニ關セズト雖モ郡内ニ住居シ且ツ第十四條ニ記載シタル選舉權ニ要スル資格ヲ有スル者トス。

第十六條 最多額納稅者ノ調査ハ政府及郡縣ニ納ムル郡内ノ所有田地及所有家屋其他營業的ノ建物又ハ營業又ハ歲入ニ因テ定メラレタル直稅額ヲ計算スルモノトス。
 選舉ニ參與スル資格ヲ有スル最多額納稅者ニシテ同稅額ヲ納ムルモノ數多ナルトキハ五十名又ハ百名ヲ超過スルモ共ニ選舉權ヲ有スルモノトス。
 有夫ノ婦人ニシテ納稅スル者ハ其夫ノ納稅額ニ合計シ、父ノ監督ヲ受クル未丁年者ニシテ納稅スル者ハ其父ノ納稅額ニ合計スル者トス。
 選舉者ノ納稅額ハ前年度ノ納稅額ニ準據シテ計算スベシ。但財産ヲ讓受タルモノハ此限ニアラズ。

第十七條 市營全權委員ハ議員ヲ選舉スル爲メ各郡ヲ分テ選舉區ヲ置ク、但シ選舉區ノ廣狹又ハ人口ノ多少ニ應ジテ郡會議員ヲ選舉スルモノトス。
 選舉區ヲ置キ及其區ヨリ選出ス可キ郡會議員ノ配當ハ郡總代之ヲ發議シ、郡會之ヲ決定シタル後郡公文誌ヲ以テ公告スベシ。公文誌ノ設ケナキトキハ其郡市營從來慣行ノ方法ヲ以テ之ヲ公告ス。若シ之ニ對シテ不服ナルトキハ公文誌又ハ慣行ノ方法ヲ以テ公告シタル後四週間以内ニ縣廳ヘ出訴スルコトヲ得。

前項ニ從テ定メタル選舉區ハ當初ハ三年間之ヲ遵守シ、爾後ハ十二年間之ヲ遵守ス。若シ其期限ヲ經過シ郡總代ニ於テ查閱ヲ加ヘ改正ヲ要スベシト認ムルモノハ郡會ニ付シテ議決スベシ。但シ郡ノ組成及ビ其人口ニ變更ヲ生ゼシトキハ期限前ト雖モ之ヲ改正スルコトヲ得、且ツ此場合ニ於テハ直ニ選舉區ヲ改正シ郡會議員ノ總數ヲ改選スル者トス。

第十八條 市邑全權委員ハ市邑會又ハ市邑長及ビ其助役中ヨリ之ヲ選舉スル者トス。各市邑ニシテ人口二百五十名以下ナルトキハ市邑會議員又ハ市邑長及其助役中ヨリ全權委員一名ヲ選任ス。但シ新ニ人口二百五十名ヲ増加シ、又ハ其半數百二十五名ヲ増加スル毎ニ委員一名ヲ増加ス。最多額納稅者ニシテ郡會議員ノ選舉權ヲ有スルモノハ市邑全權委員トシテ郡會議員ノ選舉ニ參與スルコトヲ得ズ。

第十九條 郡總代ハ各郡郡會議員選舉ノ爲メ左ノ表簿ヲ調製シ、郡公文誌ヲ以テ公告スベシ、公文誌ノ設ケナキトキハ市邑從來慣行ノ方法ヲ以テ之ヲ公告ス。
 一、最多額納稅者ニシテ自己又ハ代人ヲ以テ選舉ニ參與スルコトヲ得ル五十名又ハ百名ノ名簿
 二、政府及縣郡ニ毎年納ル所ノ直稅額殊ニ最多額中ニ於テ最寡額ヲ納ムル者ヲ説明スベシ。
 二、一名又ハ數名ノ郡會議員ヲ選舉スベキハ選舉區ニ屬スル市邑ノ名稱若クハ各市邑ノ選舉スベキ全權委員ノ員數若クハ其關係市邑ノ人口。

該表簿ノ正誤ハ該表簿ヲ公告シタル後四週間以内ニ之ヲ要求スベシ、其指令ニ對シ不服ナルト

キハ更ニ二週間以内ニ縣廳ニ出訴スルコトヲ得。

第二十條 郡會議員ノ選舉ハ八日前ニ招集狀ヲ市邑全權委員ニ發シ、全權委員ハ之ヲ受ケタル後郡總代ノ指定シタル選舉地ニ集合スベシ、其會長ハ郡長又ハ代理者之ヲ務ム。

市邑全權委員ノ議員選舉ヲ實行シタルトキハ最多額ノ納稅者ニシテ選舉ニ參與スルヲ得ル五十名又ハ百名ハ郡會議員ヲ選舉センガ爲メ郡役所設置ノ市街ニ集合ス可シ。但本集合ヲ爲スニハ八日前ニ招集狀ヲ發シ郡長及其代理者之ガ會長トナルハ前條ノ例ニ同ジ。選舉會ニ於テハ各選舉人ハ一口ヲ有スベシ。其既ニ一口ヲ有スル者ハ他人ニ代テ更ニ投票スルコトヲ得ズ。

第二十一條 選舉人ハ選舉參與ノ爲メニ日當及旅費ヲ要求スルコトヲ得ズ。

第二十二條 可否決ハ投票ヲ以テ之ヲ定ム、其投票ハ選舉會ニ於テ投票紙ヲ請ヒ、其投票紙ニ被選人ノ姓名ヲ記載スベシ。

選舉人ノ投票過半数ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス。第一回ニ於テ過半数ナラザルトキハ第二回ノ選舉ニ於テ最多數ノ投票ヲ得タル者ヲ當選人トス、投票同數ナレバ抽籤ヲ以テ定ム。

其選舉法ハ本郡制ノ結尾ニ追付スル選舉規則ニ據ルベシ。

第二十三條 郡民ニシテ市邑ニ住居ヲ有シ市邑會議員タルノ資格ヲ有スル者ハ亦郡會議員ニ選舉セラル、コトヲ得、但郡吏及町村吏ハ此限ニアラズ。

第二十四條 郡會議員ノ任期ハ六年トス。

三年毎ニ最多額納稅者ヨリ選出シタル議員ノ半数ト又市邑全權委員ヨリ選出シタル議員ノ半数トヲ解任シ新選議員ヲ以テ之ヲ補充ス。若シ其員數ヲ二分シ得ザルトキハ初回ハ多數ナル一半ヲ解任ス。其解任ハ郡會ニ於テ郡長抽籤ヲ以テ之ヲ定ム、但シ解任者ハ再選セラル、コトヲ得。六個年ニ滿タズシテ退職スル者ノ補缺議員ハ退職者ノ任期ヲ襲グ者トス。

第二十五條 補充議員定期ノ選舉ハ三年毎ニ十一月ヲ以テ之ヲ施行ス、但シ郡申合規則ヲ以テ別ニ其期月ヲ定ムルモノハ此限ニアラズ。

補充及補缺ノ議員ハ解任若クハ退職シタル選舉部又ハ選舉區ニ於テ之ヲ選舉スベシ。

第二十六條 郡會議員選舉會中ノ設置ニ不服ナルトキハ各選舉會員ハ二週間以内ニ會長ニ就テ異見ヲ申立ツルコトヲ得ベシ。郡會ハ其異見者ヲ推問シタル後其適否ヲ議決スル者トス。其他郡會ハ職權上議員タルベキ者ノ身分ノ適否ヲ檢シテ之ヲ議決ス。且ツ各選舉ノ爲メニ定メラレタル要件ヲ缺キ、又ハ永遠若クハ一時其要件ヲ停止セラレタルコトヲ發見セシトキハ其有無ヲ議決シテ永遠若クハ一時其效力ヲ停止スルコトヲ得。

前項郡會ノ決議ニ對シ不服ナルトキハ二週間以内ニ縣廳ニ出訴スルヲ得ベシ。但シ出訴後判決ニ至ラザル間ハ本人其職ニ居リ又補闕選舉ヲ爲スコトヲ得ズ。

當選者ノ姓名ハ郡公文誌ヲ以テ之ヲ公告スベシ。公文誌ノ設ケナキ郡ハ其郡從來慣行ノ方法ニ依テ之ヲ公告ス。

第二十七條 郡會議員ハ榮譽職トス、但シ日當及ビ旅費ヲ要求スルコトヲ得ズ。

第一章 郡會々議及其事務

第二十八條 郡會ハ郡民ノ代議ヲ爲シ本郡制ノ細目ニ從ヒテ郡事ヲ商議決定シ、其他法律勅令ヲ以テ既ニ委任セラレ又ハ將來委任セラル、事項ヲ商議決定スル者トス。

第二十九條 郡會ハ殊ニ左ノ諸項目ヲ商議決定スルコトヲ得。

- 一、第十條ニ依リ郡申合規則及諸條規ヲ設クルコト。
- 二、各郡ニ賦課スベキ負擔ニシテ成法ニ其徵收方法ノ例規ナキモノハ之ヲ郡民ヨリ徵收スルノ方法ヲ決定スルコト。
- 三、郡ノ負擔スベキ費額ヲ決定スルコト。
- 四、負擔ノ義務ヲ有セザル費額ト雖モ郡ノ利益ニ關スルモノハ之ヲ議定スルコト。
- 五、前三四項ノ費額ノ爲メニ郡民共有ノ土地及資財ヲ處分シ負擔ヲ起シ郡民ニ郡稅ヲ賦課スルコト。

六、郡治費額ノ豫算ヲ定メ又ハ費目支出ノ決算ヲ査閱スルコト。

七、郡民共有ノ土地及資財竝ニ郡ノ諸設營及諸公場管理ノ諸條規ヲ設クルコト。

八、郡治諸職員ノ編制及郡吏ノ員數給料等ヲ議定シ又郡吏ニシテ保證金ヲ要スル場合ニ於テハ其納ムベキ金額ヲ定ムルコト。

九、郡會郡總代及成法ニ於テ官治事務ノ爲メニ設ケタル委員ヲ選舉シ其他郡事ノ爲ニ委員ヲ置クコト。

其選舉法ハ本郡制ノ結尾ニ追付スル選舉規則ニ據ルベシ郡會各議員ハ其選舉ニ對シ閉會ニ會長ニ異見ヲ申立ツルコトヲ得、但シ其異見ハ郡會ニ於テ終結スル者トス。

十、官廳ヨリ諮詢スル事項ニ付キ意見ヲ陳述スルコト。

十一、郡ノ一市邑又ハ數市邑又ハ全部ノ利益ニ關スル事項ニ付キ主務省ニ建議シ及意見ヲ陳述スルコト。

十二、郡ノ市邑ニシテ公益ニ係ル義務ヲ負擔シ能ザル事實アリト認ムルトキハ郡總代ヲ推問シ其市邑ノ申立ヲ採用シ相當ノ補助ヲ爲スコト。

十三、法律又ハ勅令ヲ以テ委任セラレタル事務ヲ理治スルコト。

第三十條 前條十二項ニ記載シタル郡會ノ決議ニ付テハ既ニ市邑會議員又ハ市邑長及其助役ノ職

ヲ以テ該件ヲ議定シタル郡會議員ハ再ビ其議決ニ與カルコトヲ得ズ。

第三十一條 郡長ハ議案ヲ記入シタル招集狀ヲ發シテ議員ヲ招集シ、自ラ其議長トナリテ議事ヲ統轄シ議場ヲ整理ス、若シ郡長事故アリテ出席セザルトキハ縣令其代理ヲ命ズル者トス。

招集狀ハ少ナクトモ會議ノ十四日前ニ之ヲ各議員ニ發スルヲ以テ例規ト爲ス。若シ急迫ニ際スルトキハ其期ヲ短縮シテ三日前ト爲スコトヲ得、又招集狀ニ記入セザル事項ト雖モ會議ニ付スルコトヲ得ベシ。但其決ヲ取ルハ必ズ之ヲ次會ニ讓ルモノトス。會議ニ付スベキ議員ノ建議ハ郡長ニ申告スベシ。其建議ニシテ議員ニ招集狀ヲ發スル前ニ係ルモノハ之ヲ招集狀ニ記入スベシ。郡長ハ年々少ナクトモ二回ノ會議ヲ開設ス、若シ事務ノ繁劇ナルトキハ二回以上ヲ開設スルモ妨ゲナシトス。又總議員ノ四分ノ一以上若クハ郡總代ヨリ請求アルトキハ臨時郡會ヲ開ク者トス。

開會ノ都度郡長ヨリ招集狀ノ寫ヲ縣令ニ呈致シ其旨ヲ通知スベシ。

第三十二條 郡會ニ於テ決議スベキ者左ノ如シ。

- 一、第九條ニ準ジテ郡ノ各地課稅ニ等差ヲ立ツルコト。
 - 二、成法ニ於テ郡ノ義務ニ屬スルモノ、外臨時郡稅ヲ要スベキコト。
- 郡總代ハ前項ニ就キ郡會ノ決議ヲ爲サシメントスルトキハ先ヅ左ノ諸項ニ詳細ナル意見ヲ付シ

少ナクトモ會議ノ十四日前ニ之ヲ各議員ニ配布スベシ。但其議事至急ヲ要スルトキハ亦其期ヲ短縮シテ三日前ト爲スコトヲ得。

- 一、議事ノ旨趣。
- 二、實施ノ方法。
- 三、費額。
- 四、費額賦課ノ方法。

第三十三條 郡會々議ハ傍聽ヲ許ス、但時宜ニ因リ傍聽ヲ禁ズルコトヲ得。

第三十四條 郡會ハ總議員ノ半數以上出席スルニアラザレバ決議スルコトヲ得ズ。但同一議事ニ付キ再回招集スルモ猶ホ決議シ得ベキ員數ニ滿タザルトキノ如キハ既ニ員數ニ拘ハラズ決議スベキ旨ヲ諭告セルヲ以テ此限ニアラズ。

第三十五條 郡ノ權利義務ニ付キ商議スルノ際、議員一身ノ利害ニ關スルモノアルトキハ該議員ハ其議事ニ參與スルコトヲ許サズ。

第三十六條 郡總代列員ニシテ郡會議員ニアラザル者ト雖モ之ヲ郡會々議ニ招集ス可シ、列員ハ會議ニ於テ討議ニ參與スルコトヲ得。

第三十七條 郡會ノ決議ハ多數ニ依ル若シ員數相均シキトキハ否決スル者トス。但シ成法上ニ義

務ナクシテ新ニ郡民ニ課税シ又ハ郡民共有ノ土地資本金ヲ販賣支出シ又ハ郡税賦課ノ比例ヲ改正スル等ノ議事ハ議員三分ノ二以上ノ多數ニ依テ決スベシ。

第三十八條 郡會ハ別ニ議事録ヲ製シ出席議員ノ姓名ヲ列記シ議長及ビ衆議員ノ中三名以上之ニ署名ス、該三名以上ノ議員ハ開會前衆議員中ニ於テ之ヲ定ムベシ。

其書記ノ選舉及議事ノ書式ハ郡會ノ決議ニ依テ定ムル所ノ議事細則中ニ掲載スベシ。

決議シタル事項ノ要旨ハ郡會豫定ノ方法ニ依テ之ヲ公告スベシ但シ郡會ニ於テ其時々特別ノ方法ヲ設クルモノハ此限ニアラズ縣令ヘハ議事録ノ寫一部ヲ送付ス可シ。

第三十九條 郡會ノ決議權内ニ在ル事項(二十八條二十九條)ニ於テ會名ヲ以テ送致セントスル歎願書ハ先ヅ郡會ニ於テ商議署名シ且ツ其商議署名ヲ經タル旨ヲ登記スベキ者トス。

第三章 郡 經 濟

第四十條 郡總代ハ豫定スベキ支出入額ヲ調査シテ年々郡費定額豫算表ヲ調製シ郡會ニ付シテ確定シタル後郡會決議事項ノ公告法ニ依リ之ヲ公告スベシ。

郡總代ハ該定額豫算表ノ附録ニ郡治事務ノ效績ト狀況トヲ記載シ之ヲ郡會ニ報告スベシ。定額豫算確定ノ後ハ該豫算表ト事務報告ノ寫一部トヲ縣廳ニ送致スベシ。

定額豫算外ノ支出ハ郡會ノ可決ヲ經ベキ者トス。

第四十一條 郡費出納取扱ノ爲メ會計吏一名ヲ置ク會計吏ハ郡總代ノ監理ヲ受ケ其懲戒ニ服スル者トス、郡總代ハ取扱上ノ件ニ付キ直チニ免職スルコトヲ得、但至急ノ場合ニ於テハ郡長ハ會計吏ヲ停職シ其代理ヲ命ズルコトヲ得。

郡費出納ハ毎月例日ノ查閱外ニ毎年一回以上臨時ニ郡總代長之ヲ查閱スベシ。但シ臨時查閱ノ際ハ郡總代中ヨリ選舉スル所ノ列員一名ヲ參會セシムル者トス。

納金ノ延期ハ郡總代ニ限り之ヲ許可スルコトヲ得、但シ未納金ヲ取立ツルニ於テ私法上ニ關セザル者ハ總テ郡長ノ指令ニ因リ行政上處分スベキ者トス。該指令ニ對スル不服ハ郡總代之ヲ議決ス。

第四十二條 郡費豫算内ノ收支取扱ハ其都度郡長之ヲ命ズ、臨時收入ノ監督ハ郡總代列員中ヨリ一名ヲ選舉シテ之ニ充ツ。

第四十三條 郡費出納ノ會計吏員ハ毎年五月一日前ニ前年度ノ決算ヲ終結シテ之ヲ郡總代ニ差出スベシ。郡總代ハ之ニ説明ヲ加ヘテ郡會ニ提出シ其確認ヲ請ヒタル後其要領ヲ公告スベシ。郡會ハ該決算ノ調査ニ關シ殊ニ委員ヲ設テ之ヲ擔任セシムルヲ得、又郡會ノ確認ヲ得タル後ハ其決議條件ノ寫ヲ速ニ縣廳ニ送付スベシ。

第四章 郡總代ノ組成方及郡治ト官治トニ於ケル事務

第四十四條 各郡ハ郡總代ヲ置キ郡治事務ヲ管理シ又ハ法律又ハ勅令ヲ以テ委任セラレタル一般官治事務ヲ擔任セシム。

第四十五條 郡總代ハ郡會ニ於テ郡民中ヨリ選出シタル列員六名ノ外郡長ヲ加ヘテ之ヲ組成ス、其列員中少クトモ三名ハ郡會議員ニシテ過半数ニ依リ選舉セラルルモノトス。但シ被選舉權ハ郡會議員ノ被選舉權ニ同ジ。

僧侶、寺僚、小學校教員及郡衙ニ奉職スル者ハ郡總代ノ列員タルコトヲ得ズ。
在職官吏ハ主務者ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ列員タルコトヲ得ズ。

第四十六條 郡總代ノ任期ハ六年トス、但任期ヲ經過スルモ後任者ノ選舉ナキ間ハ其職ニ居ルモノトス。又三年毎ニ列員總數ノ三分一ヲ解任ス。第一回三年期ノ解任人員ハ抽籤法ヲ以テ之ヲ定ム、解任者ハ再選セラル、コトヲ得、但シ任期中退職スルモノアルトキハ最近ノ郡會々議ニ於テ補缺員ヲ選舉スベシ。且ツ各選舉ニシテ選舉ノ爲メニ定メラレタル要件ヲ缺クト同時ニ其效力ヲ失フモノトス。此ノ場合ニ際シ郡總代ハ之ヲ議決ス、若シ郡總代ノ決議ニ不服ナルトキ

ハ二週間以内ニ縣廳ニ出訴スルコトヲ得、其不服出訴權ハ郡總代長モ亦之ヲ有スルモノトス。但出訴後判決ニ至ラザル間ハ本人其職ヲ退クト雖モ亦補闕選舉ヲ爲スコトヲ得ズ。

郡總代列員ハ首長ノ面前ニ誓約シ官吏懲戒例ノ適用ヲ受クベキ者トス。

第四十七條 郡總代ハ左ノ事務ヲ擔當ス。

- 一、郡會議案ヲ調制シ又ハ決議事項ヲ實施スルコト。
- 二、成法若クハ郡會ノ決議ニ準ジ又ハ群會議定ノ豫算額ニ從ヒ郡務ヲ理治スルコト。
- 三、郡吏ヲ任期シ又ハ其行務ヲ指揮監督スルコト。
- 四、官廳ヨリ下問スル事項ニ付キ其意見ヲ陳述スルコト。
- 五、法律又ハ勅令ヲ以テ委任セラレタル一般官治事務ヲ管掌スルコト。

第四十八條 郡長ハ郡總代ノ行務ヲ指揮監督シ其事務ノ延滞ナキコトヲ注意スベシ。

郡長ハ郡總代會議ノ長ト爲リ其可否ノ數ニ加ハ、ルコトヲ得、若シ郡長事故アルトキハ其代理者ヲ以テ長ト爲スベシ。

第四十九條 郡長ハ郡總代ニ委任シタル常務ノ執行ヲ監司シ。其議案ヲ調製シ又其決議シタル條件ヲ實施セシム。事件ニ依リテハ郡總代列員中一名ニ專任シ又ハ其他ノ吏員又ハ専門家ヲ郡總代會議ニ列セシメ、其關係事件ニ就テ演說シ若クハ意見ヲ開陳セシムルコトヲ得、但吏員又專

門家ハ其評定ニ參與スルモ可否ノ數ニ加ハルコトヲ得ズ。郡長ハ郡總代ノ代理ト爲リ總代ノ名ヲ以テ諸官署及平人ト應接シ又ハ其名ヲ以テ他方ト通信往復スル一切ノ文書ヲ作ルモノトス。郡ト別人トノ契約并ニ委任狀ノ如キハ郡會若クハ郡總代ノ衆議一決セシ旨ヲ記載シ郡總代、列員中若クハ專任委員中ノ二名ト郡長ト相連署シ郡長ハ特ニ其印ヲ捺スベシ。

第五十條 郡總代會議ハ首長ヲ合セテ四名以上出席スルニアラザレバ決議スルコトヲ得ズ。但其決議ハ過半數ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ首長ノ可否スル所ニ依ル。

第五十一條 郡會ノ議事ニシテ郡總代ノ列員若クハ其尊卑ノ血屬親、婚屬親、若クハ竝屬三等以下ノ親戚身上ニ關スルトキハ本員ハ其商議決議ニ參與スルコトヲ得ズ。

郡總代列員ニシテ既ニ私ニ意見ヲ陳ベ又ハ私ニ理事者若クハ代理者等トナリタル事件ニ付テハ其商議決議ニ參與スルコトヲ得ズ。

前項ノ場合ニ際シ郡總代決議シ能ハザルトキハ縣會ニ於テ之ヲ決議スベシ。

第五十二條 郡總代ノ事務管理上必要ノ經費ハ郡之ヲ負擔スル者トス。

郡總代列員ハ郡會ノ決議ヲ經テ其現費支出ヲ償フニ足ルベキ報酬金ヲ受クベシ。

第五十三條 其他郡總代ノ行務行程ハ追テ内務大臣ヨリ之ヲ布告スベシ。

第五章 郡 委 員

第五十四條 郡會ハ郡會ニ選舉セラルベキ郡民中ヨリ特別委員ヲ設ケ直接ニ郡立ノ諸設營ヲ管理セシメ又ハ郡事務ヲ擔任セシムルコトヲ得ベシ。但シ該委員ハ郡長ノ指揮ヲ受テ服務スベシ。

郡長ハ申合規則ヲ以テ該委員會及ビ委員ノ事務章程ヲ設クルコトヲ得。

郡長ハ常ニ郡委員ノ商議ニ臨席シテ其議長トナリ又其可否ノ數ニ加ハルコトヲ得。

第五十五條 郡委員ニ日當及旅費ヲ給與スルト否トハ郡會ノ議決ニ任ズ。

第六章 郡 長

第五十六條 郡長ハ皇帝之ヲ任ズ。

郡會闕員ニ際シ少クトモ一年以上本籍ヲ其郡ニ定メ土地又ハ住宅ヲ所有シテ其任ニ適當ナル者ヲ推薦上奏スルモノトス。

郡長ニ採用セラルベキ資格ヲ有スル者ハ左ノ如シ。

一、行政又ハ司法ノ高等官吏試験ニ合格スル者。

二、少クトモ一年以上郡内ニ本籍ヲ定メ土地及住宅ヲ所有スル者ニシテ

(イ) 裁判所及行政廳ノ試補トシテ四年間服務セシモノ。
(ロ) 郡又ハ縣總代ノ列員ニシテ四年間在職セシモノ、但單ニ代理トナリ又ハ郡委員トナリタル等ハ此限ニアラズ。

第二項(ロ)ニ記載シタル列員ニシテ二年間高等行政廳ニ奉職シ後二年間本職ニアルトキハ前後四年ヲ通算スル者トス。

第五十七條 郡長ハ政府ノ機關トナリテ官治事務ヲ郡内ニ施行シ又郡會及ビ郡總代長トナリテ郡治事務ヲ綜理ス。

郡長ノ權利義務ニ關シ本郡制ノ爲メニ變更セザル者ハ總テ從前ノ成規ニ依ル者トス。

郡長ハ全部又ハ郡内ノ數市邑ニ於テ其委任セラレタル一切ノ警察事務ヲ監視ス。但至急ノ場合ニ於テハ自ラ之ヲ施行スルコトヲ得ベシ。

第五十八條 郡長ハ其管轄事務實施ノ際左ノ強制法ヲ以テ法律上定リアル權限内ノ命令ヲ執行スルコトヲ得ベシ。

一、郡長ハ其強制法ヲ以テ事業ヲ命ジ又ハ別人ヲシテ之ヲ代行セシムルコトヲ得、其別人ニ代行セシムル場合ニ於テハ先ヅ其事業ヲ實施シ其費額ヲ算定シテ義務者ヨリ之ヲ追徴スベシ。
二、郡長ハ其事務ヲ別人ヲシテ代行セシムル能ハザルカ又ハ義務者無資力ニシテ別人ノ代行シ

タル費用ヲ辨償シ能ハザルカ、又ハ強制法ヲ以テ既行ノ事業ヲ停止セシムベキハ十五圓以内ノ罰金ヲ科スル意ヲ明示シテ督責若クハ斷定スルコトヲ得。

命令書中ニ義務者無資力ノトキハ罰金ニ換フベキ拘留日數ヲ記入スベシ。拘留日數ハ十日ヲ超ルヲ得ズ、罰金ヲ拘留ニ換ルトキハ三十錢以上三圓以下ヲ以テ拘留一日ニ換フ。

三、他ノ方法ニ依ラズシテ直ニ強制法ヲ施行スル者ハ強制法ニ依ラザレバ其命令ヲ執行シ能ハザル場合ニ限ルモノトス。

強制法ヲ施行セントスルノ督促ニ對スル不服訴法ハ其執行セントスル不服訴法ニ同ジ。督促ニ對スル不服訴ハ命令ノ不服ヲ連帶スルモノトス。但シ既ニ命令ニ對シテ訴願若クハ出訴シタルトキハ此限ニアラズ。

強制法ノ斷定及實施ニ對シテハ何等ノ場合ヲ問ハズ監督廳ニ訴願スルコトヲ得。

第二項ニ準ジ罰金ヲ拘留ニ換フト斷定シタルモノハ該不服訴ニ對シテハ終結裁決若クハ確定判決ヲ爲シタル後カ又ハ不服訴期限經過ノ後ニ至ラザレバ實施スルコトヲ得ズ。

第五十九條 郡長ハ數市邑ノ警察區又ハ全部ニ適用ノ警察令ヲ發シ、若シ之ニ服從セザル者ハ六圓以内ノ罰金ヲ課スルコトヲ得ベシ。但シ郡長ノ發行ニ係ル警察令ハ郡總代之ヲ可決スル者トス。

第六十條 郡長ハ左ノ事項ニ付キ警察令ヲ發スルコトヲ得。

- (イ) 身體及所有物ノ保護。
- (ロ) 一般ノ街路道路、諸公場、橋梁、河岸及河川交通ノ維持保護及便利、
- (ハ) 大河通船及港灣ノ警察。
- (ニ) 市場ノ交通及糧食ノ供給。
- (ホ) 人民群集ノ取締。
- (ヘ) 外國人ノ居留、寄留及茶屋、酒店、料理店。
- (ト) 生計健康ノ保護。
- (チ) 諸建築ニ於テ失火ヲ戒シムルコト其他一般ノ妨害及危險ナル行爲企圖及一般發生ノ事件。
- (リ) 田畑、草野、牧場、森林、樹木ノ培養公園等ノ保護。
- (ヌ) 其他市街ノ關係ニ依リ警察令ヲ要スル一般ノ事件。

第六十一條 內務大臣ハ警察令發布ノ方法書式ニ關スル規則ヲ定ルモノトス。

第六十二條 警察令ハ成法又ハ高等官廳ノ布達ノ旨意ニ抵觸スルコトヲ得ズ。

第六十三條 郡長ハ其發布スル所ノ警察令ヲ縣廳ニ送付スベシ、縣廳ハ各地方警察令ノ成法ニ抵

觸スルモノヲ無効トナスコトヲ得。

第六十四條 違警罪裁判官ハ警察令ニ反スル者ヲ處分スルニ其警察令ノ必要ト目的トニ關セズ唯其警察令ニ反シタルヤ否ヲ裁定スベシ。市邑警察署ニ委任シタル違警罪目ハ市邑警察署ニ於テ處分スル者トス。

第六十五條 郡長ハ自己服務ノ際之ヲ妨害スル者アルトキハ之ヲ制止シ又ハ退去ヲ命ジ、猶ホ其命ニ順ハズシテ所爲強暴ニ涉ルトキハ六圓以下ノ罰金ヲ科シ、及ビ二十四時間以内ノ拘留ニ處スルコトヲ得。之ヲ處分シタルトキハ其事由ヲ明記シテ縣廳ニ具申スベシ。

郡長ハ人民ヨリ郡長郡總代及郡會ニ差出シタル書狀中ニ役所又ハ相手又ハ他人ニ對シ讒謗ニ涉ルノ言語アルトキハ其書狀ヲ却下シテ之ヲ再申セシメ、且ツ時宜ニ因リ一圓五十錢以内ノ罰金ヲ科スルコトヲ得、但郡總代又ハ郡會ニ係ル者ハ郡總代及郡會ノ承認ヲ得ベキ者トス。

第三款 市 郡

第六十六條 一市街ヨリ成ル所ノ郡ニ在テハ郡長及郡會ノ事務並ニ郡總代ノ事務中自治ニ關スル者ハ皆市街法ニ從ヒ市廳ニ於テ管理スベシ。

第六十七條 市街總代ハ其市郡ニ於テ成法ヲ以テ指示セラレタル場合ニハ郡總代ニ代リテ一般官

治事務ヲ處理スル者トス。市街總代ハ市長又ハ其代理ヲ首長トシ人民ヨリ選舉シタル市會委員四名ヲ以テ組成ス。

選舉ハ六年毎ニ之ヲ行フ。

三年毎ニ其半數ヲ解任シ新ニ選舉シテ之ヲ補充ス。

解任者ハ新當選者就職スルノ間前職ニ居ルベキモノトス。

第一回ノ解任者ハ抽籤法ヲ以テ之ヲ定ム、但シ解任者ハ再選セラル、コトヲ得。

任期中ニ退職スル者アルトキハ補闕選舉ヲ行フベシ。補闕議員ハ前任者ノ期限ヲ襲グ者トス。

其他列員ノ選舉及就職免職中止等ニ關シテハ市廳無給助役ノ爲メ設ケシ規則ヲ適用スベシ。

第六十八條 市街總代列員ハ首長ノ面前ニ誓約シ官吏懲戒例ノ適用ヲ受クベキ者トス。

第六十九條 市街總代ノ會議ハ首長ヲ合セテ三名以上出席スルニアラザレバ議決スルコトヲ得

ズ。議決ハ過半數ニ依テ決ス。可否同數ナルトキハ市長ノ可否スル所ニ依ル。

第四款 郡政監督

第七十條 左ノ諸項ニ係ル事件ノ郡會決議ハ內務大臣ノ認可ヲ經ベシ、但シ第五項ハ內務大藏大臣ノ認可ヲ經ル者トス。

一、第十條中第一項ニ準ジテ郡申合規則ヲ設クルコト。

二、郡ノ地方ニ因リ費額賦課ノ等差ヲ立ツルコト。

三、國稅中直稅總額百分ノ二十ヲ超過スル郡稅ヲ賦課スルコト。

四、郡有ノ土地及財産ヲ賣買讓與スルコト、但シ最近五個年間ニ貯蓄シタル收入ノ處分ハ此限ニアラズ。

五、新債ヲ募集シ又ハ舊債ヲ増加シ又ハ保證ヲ爲スコト。

六、成法ニ明條ナキ者ニシテ新ニ五年以上ニ永續スル義務ヲ郡民ニ負擔セシムルコト。

第七十一條 郡治事務ハ縣廳之ヲ監督ス、其最高及最終ノ監督ハ內務大臣ニ屬スル者トス。

郡事件ニ付キ監督廳ニ出訴セントスル者ハ四週間以內ニ出訴スベシ。

七十二條 監督廳ハ法律ヲ以テ委任セラレタル方法ニ依リ自治事務ノ成法ニ適シ又其順序ヲ失ハザルヤ否ヤヲ監督スベシ。

監督廳ハ事務ノ種類ヲ問ハズ之ヲ細報セシメ、公文書類及定額豫算竝ニ歷出入決算書ヲ送付セシメ又實地ニ就テ行務及ビ會計ヲ檢閲セシムルコトヲ得ベシ。

第七十三條 郡長ハ郡會及ビ郡委員其他郡治事務ニ關スル郡總代ノ決議條件ニシテ其權限ヲ越ヘ或ハ成法ニ抵觸スルモノアリト思料スルトキハ監督廳ノ命ニ因リ其理由ヲ示シテ之ヲ停止スル

コトヲ得。

郡長ノ處分ニ對シ郡會郡委員及ビ郡總代ハ四週間以内ニ縣廳ニ出訴スルコトヲ得。

第七十四條 內閣ノ上奏ニ依リ勅令ヲ以テ郡會ノ解散ヲ命ジタルトキハ其解散ヲ命ジタル日ヨリ六ヶ月以内ニ更ニ議員ヲ改選スベシ。

郡會解散ノ時ニ舊郡會ヨリ選舉セラレシ郡總代列員及郡委員ハ新郡會ニ於テ其選舉ヲ爲スノ間暫ク在職スル者トス。

第七十五條 郡會ニ於テ成法上郡ノ義務タル負擔ヲ其定額豫算ニ總入セズ又ハ臨時之ヲ賦課徴收スルコトヲ怠リ、又ハ敢テ之ヲ肯ゼザルトキハ縣廳ハ職權ニ因リ其理由ヲ説明シテ之ヲ定期豫算ニ編入セシメ、或ハ臨時其賦課ヲ命ズルコトヲ得。

郡ハ縣廳ノ處分ニ對シテ不服ナルトキハ處分ヲ受ケシ日ヨリ四週間以内ニ內務大臣ニ具狀シ、內務大臣ノ裁決ニ不服ナルトキハ裁決ヲ得シ日ヨリ四週間以内ニ東京ニ設置セル高等行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得、但シ高等行政裁判所ノ設置ナキ間ハ法制局ニ出訴スベシ。

第五款 更遷及施行ノ總則

第七十六條 市街法及邑村法ニ準ジ新ニ市邑會市邑長及其助役ノ選舉ヲ施行シタルトキハ直チニ

本郡制ニ基キ郡會ノ選舉ヲ施行スベシ。此初回選舉ニ於テハ郡長ハ郡總代又ハ郡會ニ委任シタル選舉區ノ設置及郡會議員ノ配當其他最多額納稅者ノ人名簿及各市邑ヨリ選舉スベキ全權委員ノ人員ヲ定ムル等ノ事ヲ施行スベシ、但選舉錄ノ査閱モ郡總代ニ代リテ郡長亦之ヲ爲スベシ。新選ノ郡會ハ初會ニ於テ先ヅ郡總代ノ選舉法ヲ議定スベシ。

第七十七條 本郡制ニ抵觸スル諸規則條例ハ總テ廢止ス。

第七十八條 本郡制施行ニ必要ナル訓令及規則ハ內務大臣之ヲ布告ス。

モスセ氏府縣債條例ニ關スル意見

第一

本條例ノ草按ニ付キ意見ヲ叙述スルノ前、先ヅ大體論ニ付キ一ニノ注意ヲ喚起セントス。
夫レ自治體ナルモノハ其事務ヲ施行スル爲メ國家ト同種ノ收入及收入ノ淵源ヲ有スルモノナリ。即チ私有財産（土地、工業資本）ノ收入及公法上ノ收入即チ手數料及租税是レナリ。然レドモ此收入ハ恰モ國家ニ於テ然ル如ク、之ヲ必要トスルトキニ自治體ニ集入セザルモノナリ。即チ收入及支出時ヲ異ニスル是レナリ。此事タル事情ノ簡單ナル時ニアリテハ稀有ノ事ニ屬スベシ。何トナレバ此時ニアリテハ要求及應求方法ノ動搖スルコト甚ダ稀ナルノミナラズ、其動搖タル至ツテ微少ナレバナリ。然レドモ事態ノ複雑ナルニ至リ隨テ要求及事業ハ自ラ頻繁トナリ、遂ニ巨額ノ資本ヲ要シ經常收入ヲ以テ之ニ應ズル能ハザルニ至レリ。今日本ニ於テ此ノ如キ需要ヲ滿ス爲メ自治體ガ舉行スル所ノ方法ハ、經濟ノ進歩スルニ從ヒ之ニ應ズルニ足ラザルコトナレリ。何トナレバ彼ノ需要ハ經常收入ヲ得ルノ前既ニ已ニ生ジテ其收入アルヲ待ツ能ハザレバナリ。故

ニ自治體ハ其開化ノ事業ヲ起サントスルトキハ經常收入ヲ以テ其費ニ應ズルヲ得ズ。止ムヲ得ズ前以テ後來生ズベキ收入ヲ使用セザルヲ得ズ。是即チ起債ノ方法ナリ。故ニ自治體ノ債ヲ起スハ後日ノ收入ヲ今日ニ於テ使用スルモノナリト云フベシ。

公債ヲ起スガ爲メ自治體ノ財政ニ利スルコトハ一目瞭然タリ。此方法ニ據リ自治體ハ實際ノ收入アリタルト否トヲ問ハズ之ヲ利用シ、以テ其人民ノ爲メニ公益ノ事業ヲ起シ、其經濟的有様殊ニ租税力ヲ増加スルヲ得。又納税者ニ不當ノ重税ヲ課スルノ弊ヲ避クルヲ得ベシ。故ニ余ハ凡ソ大ナル私己財産ヲ有セザル所ノ協同體ニシテ、公債ヲ起サルトキハ其事務ヲ履行スルヲ得ザルカ、否ラザレバ其人民ニ重税ヲ課スルニ至ルベシト斷言スルヲ得ルヲ信ズ。

夫レ起債ハ此ノ如ク利アルト雖モ亦一方ニ於テハ害ナシトセズ。自治體ニシテ起債ノ方法ヲ以テ其收入ノ一部ヲ未前ニ使用スルトキハ、之ガ爲メ後來ノ收入金ヲ以テ其利子及償還金ヲ支拂ハザルベカラズ。凡ソ負債ノ額財産ニ比較シ巨大ナレバ、又其償還期限永長ナルニ隨ヒ其害亦大ナリ、故ニ債金ハ唯必然缺クベカラザル費用若クハ利以テ害ヲ償フニ足ル所ノ目的ニ供セザルベカラズ。其他恐ルベキ點ハ自治代議體資本ヲ得ルノ容易ナルヨリ、輕卒ニ能力不相當ノ事業ヲ起シ、又ハ現世人民ノ負フベキ責ヲ後世人民ニ負ハシムル爲メ正當ノ理由ナクシテ公債ヲ起スコト是レナリ。

以上ノ理由アルガ故ニ大ニ自治體ノ獨立ヲ認メタル邦國ニ於テスラ國家ノ後見ヲ必要トセリ。
 (町村及郡區ニ對シテハ國家ニ代ルニ高等自治體ヲ以テセリ)而シテ唯一時些少ノ負債ヲ起スコトハ自治體ノ裁決ニ一任セリ。然リ而シテ此事ニ付テハ各國ノ法律甚ダ相異ナリ或ル國ノ法律ニ據レバ自治體ニ起債權ヲ一般ニ與ヘズ、唯一定ノ場合ニ於テ國家特別ノ委任ヲ以テ此權利ヲ附與ス。英國法ハ大體ニ於テ此主義ヲ採リ、唯一二ノ點ニ付キ之ニ異ナルノミ。此事ハ近來千八百七十五年地方債條例(「ウイクトリア」第三十八年及第三十九年第八條及第九條)及千八百七十九年法律(「ウイクトリア」第四十二年及第四十三年第七十七條)ヲ以テ規定セラレタリ。佛國(町村ニ關スル千八百八十四年四月五日ノ法律縣ニ關スル千八百七十一年八月十日ノ法律)白耳義(千八百三十六年三月三十日ノ町村法第七十六條千八百三十六年四月三十日ノ州法第七十三條)普漏士(千八百五十三年五月三十日ノ市街法第五十條第二、郡法第百十六條第三、州法第百十九條第三)其他獨逸各邦及奧地利(町村法第九十條)ハ自治體ノ元來起債權ヲ有スルモノナルヲ認メ、唯國家機關ノ許可若クハ委任ニ依リ其權利ヲ施行セシメタリ。其他細則ニ至リテハ各國異ナリト雖モ今之ヲ詳述スルヲ得ズ。此ノ如ク各國ノ法律區々ニ涉ルト雖モ唯一事ノ一轍ニ出ルモノアリ、是レ即チ債額ノ巨大ナルト償還期限ノ永長ナルトニ從ヒ起債ノ要件及形式ヲ嚴重ニスルコトナリ。其他起債ヲ許スベキ目的ヲ記載シ又彼ノ委任ヲ普通委任ト爲シ又官許ヲ要スルコトニ至リ

テモ各國稍一途ニ出ルガ如シ。一二ノ邦國ニ於テハ訓令ヲ發シ以テ官許ニ付キ必要ナル點ヲ詳示セリ。即チ佛蘭西(千八百八十四年五月十五日ノ省達)奧地利(千八百五十年十二月十一日ノ省達)普漏士(千八百七十九年十一月一日ノ回達)是ナリ。

官許ヲ附與スベキヤ否ヲ審査スルニハ左ノ要件ニ依ルベシ。

- 一、起債ノ必要又ハ少クモ其有益ナルコトハ證明セザルベカラズ、其必要ナル場合トハ法律上ノ義務(學校及道路等ノ建築)ニ應ジ又ハ困難(傳染豫防ノ處分天災ノ防遏殊ニ洪水等)ヲ救フ場合ナリ。有益ノ場合トハ一ノ起業ニ依リ自治體財産ノ收益力又ハ人民ノ納稅力ヲ増スヲ得ル場合ナリ。此要件存セザルトキハ少クモ人民ノ利益トナリ且其能力ヲ増スコト疑ナキモノタラザルベカラズ。

二、又事業ノ費用タル頗ル巨額ニシテ若シ經常收入ニ之ヲ採リ又ハ之ヲ次年數回ノ會計年度ニ分配スルトキハ納稅義務者ニ不當ノ重任ヲ負ハシムルコト。

三、此費用ハ常ニ循環スル所ノ支出(即チ經常支出)ニ屬スベカラズ、此ノ如キ費目ハ經常收入ヲ以テ支辨スベキモノナリ。

四、起債ノ施行方法ハ成ルベク費用ヲ要セザルモノタルベシ。利子ハ市價ニ相當スベシ。公債ハ公ケノ申込方法又ハ入札方法ヲ以テ起シ償還ノ何時ニテモ施行スルヲ得ルノ權ヲ保持シ以

モスセ氏府縣債條例ニ關スル意見

テ利子ヲ減額スルノ手段ヲ有スベキコト。

五、一定ノ償還方法書ヲ製シ、成ルベク財政ノ有様ニ適當スルノ償還方法ヲ定メ、又一ニハ償還期限ヲ過當ニ伸長スルヲ避ケザルベカラズ。抑モ自治體ノ經濟ハ通常變換スルモノナリ、國家ノ經濟ノ如ク確乎タルモノニアラズ。故ニ償還年期ハ國家ノ償還期限ヨリ短ナルヲ要ス。英國ノ如キ百ケ年ノ期限ハ決シテ採ルベカラズ、二十五年乃至三十年ヲ超過セザルヲ要ス。此諸要件ハ法律ト共ニ府縣知事宛ノ訓令ヲ發シ以テ之ヲ明ニスルヲ宜シトス。

今大體ノ觀察ヲ終ルニ當リ尙左ノ一事ヲ述ブベシ。抑モ歐洲各國ハ營ニ法律ヲ以テ自治體ニ起債ノ權ヲ與フルノミナラズ、又此自治體殊ニ小團體ノ起債ヲ容易ニスル方便ヲ與フルヲ以テ自己ノ義務トセリ。若シ此方便ヲ與ヘザルトキハ自治體ハ充分ノ資本ヲ得ルコト能ハザルベク、又起債ノ規約ハ納稅者ニ不當ノ苛責ヲ負ハシムルニ至ルベシ。此ノ如キ方法ハ日本ニ於テモ亦經濟上ノ利益トナル少クニアラザルベシ。余今此點ニ付キ詳論ニ涉ルヲ得ズ、唯之ニ關シ三種ノ方法アルコトヲ簡單ニ報道スルニ止マルベシ。

(イ) 國家ハ自治體ニ資本ヲ貸付スル所ノ私立銀行ヲ設立スルヲ得、但シ之ニ特權ヲ與ヘ或ハ既ニ存スル所ノ銀行ヲ獎勵シテ此方向ニ轉ゼシムルコト(巴里府土地抵當銀行普國中央土地抵當銀行)

(ロ) 國家ハ此目的ノ爲メニ公立銀行ヲ設立シ又ハ少クモ他ノ目的ニ供シタル公立銀行ヲ同時ニ自治體ノ資本借入ノ目的ニ供スルコト、第一ノ方法ハ白耳義(千八百六十年設立ノ自治體貸付銀行)ニ於テ行ハレ、第二ノ方法ハ獨逸(帝國老兵資本金ヲ使用シテ)佛蘭西(預金銀行)ニ於テ行ハレ、其他貯金銀行ヲ此目的ニ供セリ。日本ニ於テハ郵便貯金所ヲ之ニ供スルヲ便トスルナラン。

(ハ) 國家ハ自ラ資本ノ貸付ニ必要ナル方便ヲ求メ且自ラ貸主若クハ仲人ノ事ヲ執ルコト(時トシテハ補助金ノ方法ト聯合シテ)殊ニ英國(公業金貸付所)及佛國(此國ニ於テハ殊ニ邑道及學校建築銀行ヲ設置セリ)是レナリ。

第 二

府縣債條例案ニ付テハ二個ノ問題ヲ區別セザルベカラズ。

- 一、此法律ノ發布ヲ便宜トスルヤ。
- 一、此法律ハ實施スルヲ得ルヤ。
- 一 抑モ起債ノ權ハ自治體組織ノ一部ニ屬ス、故ニ自治體ヲ構成スルノ際同時ニ此權利ヲ整理スルノ至當ナルハ更ニ疑ヲ容レザル所ナリ。然ルニ若シ今特別ノ法律ヲ以テ此權利ヲ規定スルト

モスセ氏府縣債條例ニ關スル意見

此ノ一節ノ文章ヲ熟讀シテ之ヲ博文

キハ隨時各別ニ定メタル規定ノ相調和セザル恐アリ、特別ノ法律ハ自治體一般ノ制度ト符合セザル弊アリ、此弊タル殊ニ日本ニ於テハ顯著ナルベシ。何トナレバ自治體ノ獨立ハ法律ヲ以テ僅ニ狹隘ナル區域ニ於テ之ヲ認メ、又起債ノ權ハ自治制度發達ノ始ニ之ヲ與ヘズシテ終ニ於テ之ヲ與フレバナリ。故ニ日本ニ於テハ府縣會資本ヲ借入レ以テ數十年間人民ノ負擔ヲ増スコトヲ得ルトスルモ、一方ニ於テハ此資本ノ使用ニ關スル行政及其事業ノ實施ニ參與スルヲ得ズ、又使用ヲ監督スルヲ得ザルトキハ其間懸隔ノ恐レナシトセズ。是レ此法律ノ現行法律ト全ク相和セザルハ更ニ疑ヲ容レザル所ナリ。蓋シ郡區府縣ノ爲メ完全ノ法律ヲ設クルノ日モ近キニアルベク、此時ニ當リテハ必ラズ同時ニ起債權ヲ規定セザルベカラザレバ、余ハ重大ナル實際ノ理由アリテ速ニ特別ノ法律ヲ以テ之ヲ規定スルノ必要アラザル限リハ、此特別法律ヲ發布スルヲ贊成セザルベシ。而シテ果シテ此ノ如キ理由アルヤ否ハ余ノ判定スルヲ得ザル所ナリ。

二 之ニ反シ余ハ此ノ如キ法律ハ決シテ現行法ト併行スルヲ得ズ、若クハ現行法ト共ニ實施スルヲ得ズト推定スルヲ得ズ。抑府縣ハ既ニ今日ニ在リ法人ニシテ自己ノ機關自己ノ財產及行爲的能力ヲ有スルモノナリ。府縣ハ第二者ト條約ヲ締結シ且權利ヲ與ヘ又權利ヲ收得スルモノナリ。其外部ニ對スル代理ハ從來府縣知事之ヲ擔任セリ。知事ハ佛國ノ「フレフェー」普國ノ郡長ニ於ケルガ如ク、同時ニ國家及自治體ノ機關ナリ、又縣會規則ヲ以テ府縣人民ヲ代表スルノ

代議體ヲ構成シ、其權限ハ固ヨリ狹隘ナリト雖モ、府縣ノ支出ニ係ル費用ノ賦課徵收方法ヲ議決スルノ權アリ。然ルニ此法律ニ依リ更ニ起債ノ方法ヲ以テ賦課スル所ノ新法ヲ附加スルガ故ニ、府縣會ノ權利ヲ伸張スルモ決シテ現行法ト併行スルヲ得ザルコトヲ規定セズ。從來府縣會ハ其年ノ收入ニ付議決スルノ權利アリシノミナルニ、此法律ヲ以テ上ニ論ゼル費用ニ關シ數年ニ涉リ賦課徵收方法ヲ議決スルノ權ヲ與ヘタルノミナリ。然リ而シテ起債ニ付テハ此法律ニ依リ現行法ノ變更セラル、コトナシトセズ、起債ニ付テハ政府府縣會ノ意思ニ反對シテ處分ヲ爲スノ權、即府縣會規則第五條ヲ廢セザルベカラズ。又地方税法モ「凡ソ府縣ノ支出ハ唯地方稅ヲ以テ支辨スベシ」ト解釋スルトキハ亦之ヲ變更セザルヲ得ズ。然レドモ余ハ此解釋ノ果シテ正當ナルヤ否ヲ疑ザルヲ得ズ。若シ又縱令法律ノ精神此點ニアリトスルモ、事情ノ變更及自然ノ發達ニ依リ府縣ハ其豫算表ヲ見レバ一目瞭然スル如ク、既ニ今日實際ニ於テ尙ホ他ノ收入ヲ以テ支出ヲ支辨セリ。又假令府縣會ハ事業ノ實施ニ參與スルヲ得ズ。而シテ今日ノ監督（府縣會規則第六條）ハ不完全ナルニモセヨ府縣會權利ノ伸張セラル、コトハ疑ヲ容レザル所ナリ。今日ノ法律ハ此ノ如キ缺典アルガ爲メ新法ヲ發布スルノ障害トナルモ決シテ之ヲ施行スルヲ得ズトセズ。加之將來ノ法律ハ遠カラズ右二個ノ點ニ於テ今日ノ弊ヲ除クベク、而シテ府縣債法ハ恰モ一時ノ更選法律ニ過ザルガ故ニ、實際起債權ヲ規定スルノ必要アリトセバ此法律ヲ發布

スルガ爲メ生ズル所ノ障害ハ決シテ恐ル、ニ足ラズ、否此障害ハ決シテ法律ノ發布ヲ禁ズルノ理由トナルコトナシ。

第三二

今ヤ進ンデ法律案ノ各條ヲ論ゼントス。

第一條 ニ於テハ返辨ヲ告ゲタル資本ヲ償還スル爲メニ公債ヲ起スノ場合ヲ規定セザリキ。此ノ場合ニ對シテハ府縣ニ起債ノ權ヲ與ヘ、以テ從來不利益ナル條件ヲ以テ負フタル債ヲ變ジ、善良ナル條件ニ付例ヘバ毎利ノ負債トスルノ便ニ供セザルベカラズ。

其府縣内ノ事業云々ハ稍狹隘ナリ。時トシテハ其府縣外ノ事業ニシテ頗ル其利害ニ關スルモノアリ、例ヘバ大河ニ關スル工事ナリ。

起債ノ目的ヲ記載セザルコトニ付テハ同意ナリ、凡ソ此ノ如キ記載ハ完全ナルヲ得ルモノニアラズ、又實際ニ於テ危險ノ結果ヲ生ズルコトアリ、例ヘバ其起シタル公債ノ當否ニ付紛争ヲ生ジ、且債主ノ害トナルコトアルベシ。又歐洲各國ノ法律ノ如キ括的ノ文字ヲ用ユルモ國家ニ於テ許可ノ權ヲ保有シ、各場合ニ當リ詳密ノ審査ヲ遂ルガ故ニ毫モ濫用ノ恐レアルナシ。然リ而シテ起債ノ許否ニ付キ緊要ナル要點ノ法律ヲ明ニシ、且町村法案（第二百二十七條）ト符合セシ

ムルハ尙ホ一層當ヲ得タルモノナリトス。又必要ナル府縣會ノ決議ニ付テハ第一條ニ規定セズ

第二條ニ於テスルヲ宜シトスベシ。

故ニ余ハ左ノ修正案ヲ建議ス。

第一條 府縣ハ返辨ヲ告ゲタル資本ヲ償還シ又ハ避クベカラザル支出若クハ永久府縣ノ利

益トナルベキ支出ヲ支辨スル爲メ債ヲ起スノ權アリ、但經常收入ヲ以テ之ヲ支辨スルト

キハ府縣民ニ苛責ヲ負シムルモノニ限ル。

第二條 府縣會ハ知事立案ニ基キ起債ノ決議ヲ爲ス、起債ノ方法利子及償還ノ方法ハ其決議ヲ以テ定ム。

第三條 何人ガ如何ナル方法ヲ以テ上申スベキヤ否ハ法律ノ規定スベキモノニアラズ。訓令ニ於テ之ヲ定ムベシ。蓋シ法律ハ唯權利的法則ヲ定ムルモノナレバナリ。第二項ハ不明瞭ナリ、察スルニ本項ハ府縣會規則第五條ニ反對シ府縣會ノ意思ニ反シテ債ヲ起スヲ妨グルモノナリ。此目的タル假令今日ノ制度ニ適セズ、將來ノ法律ニ適スルモノナリトスルモ起債ノ爲メ永ク人民ノ負擔ヲ重クスルノ點ヲ考フレバ至當ノ事ナリト信ズ。余ハ法律ノ目的ヲ明瞭ニスル爲メ左ノ如ク記載スルヲ勸告ス。

第三條 府縣會ノ決議ハ内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ要ス。此決議ハ認可ヲ經ザルトキハ無効ナリトス。

第四條 別ニ意見ナシ

第五條 此規定ハ不完全ナリトス。何トナレバ本條ハ償還ノ着手期限及償還ノ割合ヲ共ニ規定セザレバナリ。本條ノ規定ニ係ルトキハ償還ヲ二十五ヶ年期限ノ末年ニ於テスルモ妨ナシ。是レ固ヨリ財政上採ラザル所ナリ。又償還ニ付テハ利潤ヲ來ス所ノ事業ト他ノ事業トヲ區別シ、利潤ヲ來ス所ノ事業ニ付テハ償還ノ割合ヲ大ニスルヲ宜シトス。之ニ付テモ町村法案ノ定ムル所ニ基キ左ノ修正案ヲ呈ス。

第五條 償還ハ遅クトモ債ヲ負フタル後二年目ニ始ムベシ。各年ノ償還額ハ少クモ負債額ノ百分ノ一ナリトス。又起債ニ依リ得タル金額ヲ利潤事業ニ使用スベキ場合ニ於テハ、少クモ其百分ノ一半ト定メ、其他償還ニ依リ得タル利子及該事業ノ純益ヲ加フベシ。

第六條 Resolutions upon proposals ノ語ハ不明ナリ、Resolution ノ語ヲ以テ足レリトス。

第四條及第五條ニ定メタル條件ハ時トシテ府縣ノ害トナルコトアルハ論ヲ俟タズ。故ニ余ノ會テ國君ノ特例權ニ關シ呈シタル意見書ノ原則ニ從ヒ、特別ノ事情アル場合ニ於テ自治體ハ勅許ヲ得テ此規則ニ異ナル特例ニ依ラシムルヲ當然トス。而シテ此事タル法律ヲ規定セザルベカラズ。何トナレバ皇帝ハ法律上ノ委任ナクテハ此ノ如キ特例ヲ設クルノ權利ヲ有セザレバナリ。故ニ余ハ本條ヲ贊成ス。

第七條 英語 Bond ヲ用ユルトキハ人ヲシテ府縣ハ無記名證券ヲ發布スルノ權アリト認メシムルニ至ルベシ。若シ法案ニシテ此目的ヲ有セシナラバ、余ハ之ニ反對セザルベカラズ。各國ノ法律中多クハ無記名證券ニシテ一般ノ賣買品トナルベキモノヲ發行スルニハ國君ノ制可ヲ受クベキコトヲ定メタリ（例ヘバ千八百三十三年六月十七日ノ普國法律千八百四十七年十二月二十四日ノ墮國省令）若シ此ノ如キ規則未ダ日本ニ於テ存セザルトセバ此規則ノ亦日本ニ適實ナルヲ信ズ。而シテ此規則ハ府縣債ニ對シテノミ定メズ、一般ニ此ノ如キ證券ノ發行ハ皇帝ノ勅許ヲ要スルモノト定ムルヲ相當トス、故ニ本條ニ於テハ府縣ハ無記名證券ヲ發行スルノ權アリト誤認セシムルノ文字ヲ避ケ、獨逸ノ債證若クハ債券ニ適當スルノ語ヲ用フベシ。又余ハ知事ノ外

モスセ氏府縣債條例ニ關スル意見

常置委員二名ノ署名ヲ以テ足レリトス。

第八條 本條ハ贅言ニ屬スルモノノ如シ、何トナレバ法人タル府縣ニシテ債ヲ起シタルトキハ則チ其負債者タルコトハ明瞭ナリ。又其方便ヲ以テ償還ノ方法ヲ立ザルベカラザルハ勿論ナリ。然リ而シテ尙ホ本條ヲ必要トスルトキハ償還ニ付テノミナラズ、尙利子ニ付キ明言スルヲ要ス。

第九條 本條ノ規定ハ其意義稍廣汎ニ失スルモノノ如シ、蓋借入レタル資本ヲ他ニ使用スルノ場合ハ少シトセズ、例ヘバ豫期ノ如ク元來ノ目的ヲ達セザル時、又ハ他ニ使用スルノ剩餘アル場合是レナリ。此場合ニ於テハ舊債ヲ償還シ新債ヲ起ス代リニ之ヲ他ニ使用スルヲ相當トス。故ニ余ハ左ノ如ク修正ス以テ十分ニ法律ノ目的ヲ達シ得ルヲ信ズ。借入レタル資本ハ府縣會ノ贊成的決議及兩大臣ノ認可ヲ經ズシテ他ニ使用スルヲ得ズ。

第十條 本條ノ規定ハ未ダ完全ナリトセズ。殊ニ本條ニ定メラレタル短期ノ公債ハ假令成規ノ定額ヲ超過セザルモノト雖モ、府縣會ノ認可ヲ要スルヤ否、其他全體ノ文義明瞭ナラズ。此ノ如

キ所謂浮動債ハ總テ大ナル出納局ニ於テ收入ノ時ヲ同ウセザル時ニ當リ一時缺ヲ補フ爲メ起スモノニシテ、其需要ニ出ルコトハ疑ナシ。故ニ國會ノ豫算議決權ヲ有スル邦國ニ於テモ行政ハ國會ノ認可ヲ經ズシテ此ノ如キ債ヲ起スノ權ヲ有セリ。然レドモ此ノ如キ權利ヲ知事ニ與ヘ、而シテ其蹟ヲ監督セザレバ假令法案ノ定額ヲ超過セザル時ト雖モ危險ナリトス。故ニ余ハ少額ノ債ヲ起ストキハ常置委員ノ認可又多額ノ債ヲ起ストキハ府縣會ノ認可ヲ要スルコト、スベシ。又右ノ如キ公債ハ唯府縣豫算表ニ定メタル支出ヲ支辨スル爲メニノミ起スコトヲ得ルトノ制限ヲ附加スベシ。此要件ヲ置ク以上ハ大臣ノ認可ヲ要スルコトハ之ヲ除クモ更ニ其弊害アルヲ知ラズ。

故ニ余ハ町村法ノ例ニ基キ左ノ修正案ヲ呈スベシ。

第十條 府縣ハ一會計年度中ニ經常收入ヲ以テ償還スルヲ得ル限リハ認可ヲ得タル府縣豫算表ニ記載シタル支出ヲ支辨スル爲メ公債ヲ起シ以テ必要ノ資本ヲ借入スルコトヲ得。

第三條及第五條ノ規定ハ此負債ニ適用セズ、該債ニシテ該年度豫算支出總額ノ半數ヲ超過セザル限リハ府縣常置委員ノ認可ヲ以テ足レリトス。

第十一條乃至第十三條 此各條ニ付テハ修正案ヲ有セズ、唯第十一條ハ痛ク現行法ヲ侵スモノニ

シテ少クモ豫メ町村法ノ發布ヲ要スルモノナリ。故ニ緊急避クベカラザルノ需要ニシテ唯町村法ノ發布ヲ待ツニ於テハ大害ヲ醸スベキモノナルトキニ限り本條ヲ適用スルヲ得。

東京千八百八十七年七月十二日

モ ス セ

府縣制ハ府縣政務ノ全體ヲ包括ス ルニアラザルノ論

府縣制ハ府縣政務ノ全體ヲ包括スルモノニアラザルナリ。府縣制ハ府縣ノ公共事務ニ關スル事項ヲ規定スルモノニシテ、其官制即チ國ノ行政ニ關スル事項ハ依然舊ノ如ク、府縣知事ハ政府ノ機關トシテ政令ヲ奉行スルモノナリ。而シテ府縣廳ノ官吏モ其專ラ府縣ノ公共事務ニ關スル職務ニ係ルモノヲ以テ府縣吏員ト爲スニ止マリ、其他ハ總テ現今ノ制度ヲ存セントス。府縣制ヲ論ズルニハ先ヅ此分界ヲ識別セザル可カラズ。今ヤ識者ノ論ズル所ヲ見ルニ此點ヲ輕々看過スルニ似タリ。

府縣制第二條ハ府縣ノ一方ニ於テハ行政區畫トナリ、一方ニ於テハ其公共事務處辨ノ一團體ト爲ルコトヲ規定シタルモノニシテ、其實現今ニ於テモ事實上ニ於テハ已ニ其事アリ、新制ハ明ニ其團體ノ資格ヲ與へ、之ニ屬スル事務ノ處辨法ヲ定メ、其公共事務ノ範圍内ニ於テ從來ノ缺典ヲ補ヒ、地方自治ノ精神ヲ擴充シタル者ナリ。故ニ官政ノ部ニ在テハ偶々法律命令ヲ以テ特ニ之ヲ府縣ノ參事會ニ委任スルモノ、外ハ一切府縣知事ニ於テ從前ノ如ク之ヲ執行スルモノトス。其レ

已ニ此ノ如シ、識者ガ府縣ノ行政區畫タルハ名義ニ止マリ、府縣ノ最上權ハ府縣會之ヲ掌握シ地方ノ過半ハ中央命令ノ及バザル所トナル云々ト論ズルハ甚ダ其當ヲ得ザルノ觀察ト云ハザル可カラザルナリ。

議者ガ米國又ハ英國ニ於ケル學者ノ說ナリトシテ自治ヲ以テ共和ノ異名トシ、百年ノ後歷史上ニ於テ我祖宗ノ國體ヲ破リシモノハ府縣自治ノ制ナリトノ詳論ヲ下ス者アランコトヲ恐ルト論ゼル如キハ學理上ヨリ之ヲ云フモ其甚ダ失當ノ議論タルコトヲ見ル。然レドモ學理上ノ非難ハ姑ク之ヲ別論ニ讓リ(別稿アリ)茲ニ先ヅ議者ガ府縣制ノ骨子ナリトシテ摘出シタル十項ニ就キ之ヲ論ゼンニ、此十項ハ其事決シテ議者ガ陳ズル如キ議論ノ根據トスルニ足ラザルナリ。議者ニシテ其根據トスル所ハ唯此十項ニ止マラシメバ其論ハ誠ニ過慮ニ屬スト云ハザルヲ得ズ。

(第一) 議者ハ府縣會ハ其府縣ヲ代表ストノ法文ニ非常ノ重ヲ置キ、府縣會ヲ以テ府縣ノ最上權ヲ有スルモノトシ、府縣知事ハ降テ單ニ其執行者タルニ過ギズト論ゼリ。府縣會ハ其府縣ノ公共事業ニ關シ議決權ヲ有スルハ議者ノ言ノ如シ。然レドモ此法文豈議者ノ論ノ如ク怪ムニ足ルモノアランヤ。其レ府縣ハ地方經濟ノ樊圍内ニ於テ自ラ其府縣ノ公共事業ヲ有セルモノナリ。而シテ此樊圍内ノ事業ヲ議シ、隨テ其府縣ヲシテ之ヨリ生ズル所ノ權利ヲ有シ義務ヲ負ハシムルハ府縣會ナリ。果シテ然レバ府縣會ハ其府縣ヲ代表スルモノニアラズシテ何ゾヤ。此事ヤ必

ズシモ新制ニ依テ創起スルモノニアラズ、其實現狀ニ因テ之ヲ云フモ單ニ法律ノ明文ナキノミ、實際ニ於テハ自ラ然ルナリ。故ニ府縣ヲ代表ストノ法文ハ素ヨリ驚クニ足ラザルナリ。且夫レ府縣會ハ府縣ヲ代表スト雖モ是專ラ其公共事務上ニ付テ云フノミ。其行政區畫タル點ヨリ云フトキハ府縣知事ハ中央政府ノ機關ニシテ官政ノ執行ニ關スル府縣知事ノ職務權限ハ毫モ從來ト異ナルコトナシ。加之府縣會議決ノ權限内ニ在ル事項ト雖モ府縣知事ノ權限ハ極メテ多ク決シテ單ニ其執行者タリト云フコトヲ得ザルナリ。府縣制第七十八條第八十八條第八十九條ノ如キ其最モ觀易キモノナリ。何トナレバ第七十八條ニ據レバ府縣ニ於テ法律命令又ハ從來ノ慣例ニ依リ負擔スル支出ノ多寡ニ付キ府縣會ト意見ヲ異ニスルトキハ府縣知事ハ內務大臣ノ指揮ヲ請フコトヲ得、第八十八條ニ據レバ府縣會又ハ府縣參事會ノ議決其權限ヲ越ヘ法律命令ニ背キ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ府縣知事ハ其議決ノ執行ヲ停止スルコトヲ得、第八十九條ニ據レバ府縣會ニ於テ法律命令若クハ從來ノ慣例ニ依テ負擔シ、又ハ當該官廳ノ職權ニ依テ定ムル所ノ支出ヲ豫算ニ載セズ。又ハ臨時ニ承認セザルトキハ其支出額ヲ豫算表ニ加ヘ、又ハ臨時ノ支出額ヲ定ムルコトヲ得、凡ソ此等ハ非常ノ權力ニシテ監督ノ效力ハ殆ンド現行ノ不認可法ヨリ強カラントス。其レ然リ故ニ知事ヲ以テ單ニ府縣會議決ノ執行者タラシメントスト云フハ其當ヲ得ザルノ論ト云ハザル可カラズ。

(第二) 議者ハ府縣會ハ府縣條例ヲ制定スル法文ニ關シ之ヲ一般ノ法律ト密着近似ノ性質ヲ有セリト爲シ、府縣立法ノ權ハ全ク絶對的ニ府縣會ニ屬シ、府縣知事ハ其議長タルノ外行政官ノ位置ニ於テハ更ニ之ニ干與スルノ權アルコトナシト爲シ、若シ一轉シテ國ニ適用セシメバ米國又ハ瑞西國タラントスト爲シ、甚シキハ勅裁ヲ受クルハ形跡上ノ制限ニ過ギズト爲セリ。然レドモ府縣條例ノ物タル決シテ驚クニ足ルモノニアラズ。府縣條例トハ府縣ガ其公共事務ニ關シ法律ノ樊圍内ニ於テ其府縣内ノ規定ヲ設クルニ過ギザルナリ。決シテ一般ノ法律ト密着近似スルモノヲ設ケ得ルノ精神ニアラザルナリ。府縣ニ於テ規定ヲ設クルコトハ現今ト雖モ己ニ其事ナキニアラズ。何トナレバ今日ニ於テモ地方稅徵收ニ附屬セル諸規則ハ府縣會ノ議決ヲ以テ之ヲ設クルモノ多シ。又府縣知事ハ此等ノ諸規定ニ關シ違警罪ノ制裁ヲ付シ其地方ノ罰則トセルモノアリ、議者ガ府縣條例ニ關シ抱ク所ノ憂慮ハ殆ド其物ヲ見ズシテ其影ヲ恐ル、ノ嫌ナキ能ハズ。況ンヤ府縣知事ハ行政官ノ位置ニ於テハ更ニ之ニ干與スルノ權アルコトナシト爲スハ、絶エテ新制ニ於ケル府縣知事ガ官政ノ機關タル權力ノ如何ナルモノナル乎ヲ見ザルノ論ナルニ於テヲヤ。加之勅裁ヲ受クルヲ以テ形跡上ノ制限ニ過ギズトスルハ特ニ其見ノ當ラザルヲ見ル、何トナレバ 陛下ノ其勅裁ヲ與ヘラル、ヤ、固ヨリ其事ヲ鄭重ニシ十分ニ當該ノ諸官ヲシテ之ガ調査ヲ精密ニセシメラル可ク、決シテ府縣ヲシテ一般ノ法律ト相凌轢スルガ如キ條例ヲ制定セシメザルヤ明ナレバナリ。府縣條例ノ物タル其レ此ノ如シ、議者ガ之ヲ以テ一轉シテ國ニ適用セバ米國又ハ瑞西國タラントマデ極論スルハ絶テ其理由ヲ見ザルナリ。

(第三) 議者ハ府縣知事ヲ以テ府縣會ノ議長タラシムル法文ヲ難ジ、府縣知事ヲシテ府縣會ノ機關タラシメ、奴隸タラシメ、行政ノ權力ヲシテ麻痺セシメ、府縣知事ノ過半ヲシテ議會ノ愚弄物タラシメテ止マンノミト論ゼリ。是亦過慮ノ甚シキモノニシテ、府縣制草定ノ主旨ト全ク相背馳セルモノト云ハザル可カラズ。府縣制草定ノ主旨ハ知事ヲ以テ議長ト爲スハ議會ノ事務ヲシテ一層圓滑ナラシメ、議員中相軋轢シ及ビ議會ノ府縣廳ト相對峙敵視スルノ傾勢ヲ防ギ、一旦必要アレバ知事ヲシテ其監督ノ權力ヲ實際ニ施行スルノ神速ト便宜トヲ得セシメントスルニ在リ。是從來ノ經驗ニ依リ深ク見ル所アリテ然ルナリ。知事ニシテ果シテ此任ヲ盡スコト能ハザラン乎、知事ノ其人ヲ得ザルヲ歎ズ可キモ、法律ノ精神ヲ咎ム可カラズ。況ンヤ議長代理者ハ府縣會ノ選舉スル所ナレバ、議長ノ職ハ始終知事一人ノミ孤立シテ擔任スルニアラザルニ於テヲヤ。

(第四) 議者ハ府縣會ニ於テ府縣吏員ヲ設ケ及收入役ヲ選任スルヲ難ジ(議者ノ第四第十ノ二項) 是米國ノ上院ト同ク行政上ノ最上權ヲ握ルモノニシテ、獨リ立法權ニ止マラズト論ゼリ。然レドモ府縣吏員トハ府縣廳官政ノ官吏ヲ謂フニアラズ、單ニ其府縣廳經濟ノ樊圍内ニ於テ其公共

事務ニ服従スル吏員ヲ謂フノミ。府縣收入役亦府縣吏員ノ一ニシテ府縣廳ノ出納ニ任ズルモノヲ謂フ、其レ府縣ヲシテ自ラ其公共事務ヲ處理セシムル上ハ、其府縣廳經濟ノ樊圍内ニ於テ公共事務ニ服従スル吏員ノ選任法ハ其府縣ヲ代表スル議會ヲシテ之ヲ定メシムルハ素ヨリ當然ナリ。府縣ヲシテ自ラ其經濟ヲ爲サシメナガラ、吏員ハ則チ他人ニ於テ自由ニ其選任ノ法ヲ定メントスルハ其理由ヲ見ザルナリ。況ンヤ現今ト雖モ府縣廳ニハ地方廳ヲ以テ備員ヲ置クコトアリ、其之ヲ置クハ總テ府縣會ノ議決ニ根抵セザルハナシ。唯新制ハ其範圍ヲ廣ムルニ過ギズ。素ヨリ驚クニ足ラザルナリ。殊ニ收入役ヲ要スル所以ハ現行ノ制度ニテハ地方廳出納ノ方法明晰ナラズ、實際ニ於テ屢々其弊害ヲ感ズルノミナラズ、府縣ニシテ已ニ自ラ其經濟ヲ有スルハ則チ隨テ其出納ニ任ズルモノアル可キハ理ノ當ニ然ルベキモノナリ。加之議者ハ收入役ヲ以テ府縣大藏官ト爲シ、大藏大臣ガ國ノ理財財政上ニ於テ有スル如キ權力ヲ府縣ノ理財財政上ニ有スル如クニ考定スト雖モ、是大ニ誤レリ。收入役ノ職務ハ會計ノ帳簿ヲ司リ、出納ヲ嚴ニシ府縣ノ金庫ヲ守ルニ在ルノミ。決シテ其他ノ權力ヲ有セザルナリ。且夫レ府縣吏員ハ府縣參事會之ヲ選任シ、收入役ハ參事會ノ推薦ニ依リ府縣會之ヲ選任スルモ、參事會ハ知事ノ統理スル所ナレバ知事ノ勢力ハ大ニ其選任ノ事ニ及ブ可ク、而シテ收入役ノ選任ハ内務大臣ノ認可ヲ要スルガ故ニ、選任ヨリ生ズル弊ヲ防グノ具ハ自ラ府縣制中ニ備ハレルヲ知ラザル可カラザルナリ。

(第五) 議者ハ又府縣參事會ガ府縣會ノ議決ヲ執行スルノ任ニ居リ、府縣參事會ガ府縣吏員ニ對シテ懲戒處分ヲ行フノ二點ヲ難ジ(議者ノ第五第六ノ二項) 府縣知事ヲシテ立法上行政上共ニ他人ノ餘唾ヲ拾フニ過ザラシムルト論ジ、又府縣知事ハ參事會員ノ一人ニシテ其議長トナリ、參事會ノ議決ヲ執行シ、參事會ヲ代表シ、參事會ノ組織ハ府縣會ヨリ選舉スル名譽職員三分ノ二ヲ占ムルノ三點ヲ難ジ(議者ノ第七第八第九ノ三項) 府縣知事ハ多數ノ名譽職員ニ壓セラレ、行政上ニ於テモ勢力ノ過半ハ府縣會ノ手中ニ落ツト論ゼリ。是亦好ンデ事ヲ誇大ニ論ズルモノト謂ハザルヲ得ザルナリ。其レ府縣公共事務ノ執行ハ專ラ政府ノ機關タル官吏ノミヲシテ之ニ任ゼシメズ、宜シク參事會ヲ組織シ之ヲシテ府縣議決ノ執行ニ任ゼシムベキナリ。現今ノ地方制度ニテモ既ニ常置委員アリテ已ニ微シク其體ヲ具ヘタルモノト云フベシ。而ルニ今ノ常置委員ハ法律上ニテハ知事ガ事ヲ行フニ當リ之ニ諮問スルモ可ナリ、諮問セザルモ可ナリ、又其議決ハ之ヲ採用スルモ可ナリ、採用セザルモ可ナリ、甚ダ事體ヲ得ザルノ制ナリトス。今之ヲ法案ノ如ク更ムルハ公共事務ノ分界ヲシテ始終貫通セシメ、事體其宜ヲ得セシムルモノト云ハザル可ラズ。又參事會ヲ組織スル以上ハ合議體ノ制ヲ用キザルヲ得ザルハ多言ヲ要セズ。而シテ法案ニ據レバ其組織ハ單ニ府縣會選舉ノ名譽職員ノミニ限ラズ、知事并ニ高等官二名即チ會員

三分一ヲ之ニ加フルモノトス、是レ其注意ノ周密ヲ見ルベキナリ。其レ此三分一ノ官吏ハ其勢力智力以テ充分ニ事ノ利害得失ヲ會場ニ辯明シ、會議ヲシテ輕躁浮薄ニ流レシメザルニ足ルモノト云ハザルベカラズ。加之參事會ノ職務中其常務ニ係ルモノハ知事ニ於テ之ヲ專決處分スルノ制ナルノミナラズ（府縣制第四十八條第四項）豫算表調製ノ際知事ト參事會ト意見ヲ異ニスルトキハ知事ハ別ニ其意見書ヲ府縣會ニ出スノ規定アリ（第七十六條第二項）又前ニモ記セシ如ク知事ハ參事會ノ議決執行ヲ停止スルノ權アリ（第八十八條）知事ヲ以テ單ニ他人ノ餘唾ヲ拾フモノト爲スガ如キハ其當ヲ得ザルノ觀察ト云ハザル可カラズ。且ツ夫レ參事會ヲ組織スル以上ハ政府ノ機關タル官吏ヲシテ其過半ニ充タシムル如キハ決シテ事理上爲シ得ベキコトニアラズ。又議者ガ知事ヲシテ參事會ノ議長タラシムルヲ行政麻痺ノ一因トスルハ全ク法案草定ノ主旨ト風馬牛相反スルノ意見ト云ハザル可ラズ。

以上述ブルガ如ク議者ガ舉グル所ノ十項ハ歩々皆法案草定ノ主旨ト相背馳スルガ故ニ、議者ガ是レヨリ生ズベキ結果ノ三點ナリトシテ激論スル所ハ一モ其根據ヲ見ザルナリ。

議者ハ又此法案ハ要スルニ府縣ノ權力ヲ舉ゲテ總テ之ヲ府縣會ニ委任シ、政府及政府ノ代人ハ單ニ其監督ヲ爲スニ止マルモノナリト論ゼリ。然ルニ府縣ノ權力ハ決シテ舉テ之ヲ府縣會ニ委任スルモノニアラザルコト上ニ説ク所ノ如クナルノミナラズ、此法案中ニ存スル所ノ政府及政府ノ

代人ノ監督權ノ甚ダ嚴密周到ヲ盡シ、正當ナル行政ノ權力ハ從來ニ比シ増スアルモ減ズルコトナキコトハ議者ガ宜ク注意ス可キ所ナリ。議者ハ又純然タル自治ハ之ヲ町村ニ施スベク、之ヲ郡市ニ施スベキモ決シテ之ヲ府縣ニ施スベカラズト論ゼリ。其レ郡府縣ニ至テハ市町村ト同一視ス可カラザルモノアルコトハ今回法案ニ於テ十分注意ヲ加ヘタリ。故ニ府縣制ハ勿論郡制ト雖モ市町村トハ大ニ其趣ヲ異ニシ、市町村ハ一切ノ機關總テ自治ノ精神ヨリ成立シ市町村吏員ヲ以テ一切ノ事務ニ任ゼシメ、其主トスル所ハ公共ノ事務ニ在リト雖モ亦一面ニ於テハ官政即チ國ノ政務ヲ奉行スルモノトセリ。而シテ郡制府縣制ニ於テハ官政ノ一面ハ全ク之ヲ該制ノ規定外ニ置ケリ。是レ議者ガ最モ注目セザル可ラザル所ナリ。加之郡制ニハ大ニ地方ノ財產家ニ從來無キ所ノ權力ヲ附與シ自ラ郡會ノ議員トナリ、若クハ特別ニ之ヲ選舉スルノ法トセリ、而シテ府縣會議員モ亦從來直選ノ法ヲ改メ、郡市會及郡市參事會ノ會同ヲ以テ選舉スルモノト爲セリ。是亦法案ノ大ニ注意ヲ加ヘタルモノニシテ議者ハ能ク之ヲ記憶セザル可カラザルナリ。

之ヲ要スルニ府縣制ハ府縣公共事務ニ付キ法律ノ範圍内及政府ノ監督ノ下ニ於テ自ラ之ヲ處理セシメントスルニ在リ、其レ所謂自治モ一國ノ自治ト地方自治トハ天淵ノ差アルナリ。地方ノ自治ノ如キハ君主政體ノ國ニ於テモ最モ其必要アルハ之ヲ歐洲各國ノ歴史竝現狀ニ照シ學者ノ定論ニ參シテモ昭々乎トシテ明ナリ。況ンヤ中央ニ國會ヲ設クルニ至テ地方ニ自治制ヲ布カザレバ却

テ國內ニ躁急過激ノ變ヲ生ジ易ク、政體ノ基礎ヲシテ鞏固ナラシムルコトヲ得ズ。是ヲ以テ最モ君主政體ヲ重ズル普國ノ如キ猶且ツ最モ地方自治ノ制ヲ尊ビ、其自治ノ範圍ハ我府縣制法案ノ規定スル所ニ比スルニ却テ其廣キヲ見ル。普國ノ州ハ縣ヨリ大ナル區畫ニシテ概ネ二乃至五六縣ヨリ成立ス。而シテ州會ノ議長ハ議會ニ於テ公選シ、州常置委員及其議長モ亦公選トス。且州會ノ權限モ我府縣制ニ於ケル府縣會ノ權限ニ比スレバ一層大ナルガ上ニ其議決ヲ執行スルニハ別段ノ執行事務廳アリ、其長官ハ州會ニ於テ選任シ、數多ノ高等吏員及庶務吏員之ニ附屬シ事務ヲ數局課ニ分チテ處辨ス、州長ハ唯政府ノ理事官トシテ州會ヲ開閉シ、及州常置委員會ニ臨席スルニ過ぎズ。而シテ州長ノ下ニハ二三ノ高等官ト數名ノ屬官アルノミ、議者ヨリ之ヲ見ルトキハ蓋シ大ニ共和政ノ形實ヲ存シ、其國體ヲ破壞スルノ患ハ一層切迫ナリト謂ハザル可カラズ。然ルニ普國ニ於テハ中央政令ノ一般ニ普及セザルノ患ナク、又統一ノ政尾大掉ラレザルノ病アルヲ聞カズ。且同國ニ於テ之ヲ施行スルコト日既ニ久シト雖モ、地方自治ノ系統ヲ引テ之ヲ中央政府ニ及ボシ國體國憲ヲ舉ゲテ之ヲ破壞スルノ情勢アルヲ聞カザルナリ。是レ地方自治ノ制ノ君主主義ト併セ行ハレ最モ其效用アルヲ見ルベキナリ。而ルモ議者ハ猶自治ヲ以テ共和ノ異名ト爲シ、府縣自治ノ制ハ尾大不掉ノ病患ヲ生ジ、國體ヲ破壞スルノ結果アラントスト謂フ乎、其レ中央集權ニ二種アリ、其一ハ一切ノ權力ヲ中央ニ集メ、地方ノ公共事務ニ屬スル事項ニ至ルマデ之ヲ掣肘シテ措

カズ、其二ハ地方ノ公共事務ニ屬スル事項ノ如キハカメテ地方人民ノ自ラ處理スルニ任ジ、而シテ國家必要ノ政權ハ嚴然之ヲ中央ニ集メ、少シモ假借スル所ナキ是レナリ。中央集權已ニ此二種アレバ地方分權亦隨テ二種アリ、其一ハ地方ニ附與スルニ國政ノ境域内ニ屬スベキ權力ヲ以テシテ遂ニ中央ノ政權ヲシテ萎靡セシム。例ヘバ封建ノ制度ノ如シ、其二ハ毫モ政府ノ活動ヲ失ハズシテ法律ノ範圍内ト國ノ監督ノ下ニ於テ地方人民ヲシテ自ラ其公共事務ヲ處理スルコトヲ得セシムル是レナリ。其第一ハ施政ノ最モ其宜キヲ得ザル者ニシテ、第二ハ最モ其宜キヲ得タル者ナリ。府縣制草定ノ主旨ハ此第二者ヲ目的トスルニ在リ、議者之ヲ熟思シテ可ナリ。

府縣制ニ對スルノ杞憂

府縣制ニ對シ杞憂ノ一二左ニ具陳シ探擇ヲ仰グ。府縣制ノ草案ニ依レバ府縣ハ純然タル自治ノ區域トナリ、府縣知事ハ自治團結ノ機關タラントス。假令名義ハ從來ノ如ク國ノ行政區畫トシ(第二條)府縣知事ハ府縣參事會二名ト共ニ行政官吏タルモ全體ノ組織ニ於テ府縣制ハ既ニ郡制及町村制ニ均シク自治團結ノ性質ニ一變シタル上ハ、狀勢ノ傾ク所斜阪ニ車ヲ走ラスガ如ク、府縣會ハ其府縣ノ最上權ヲ有シ府縣知事ハ一ノ贅旄トナリ、地方ノ過半ハ中央命令ノ及バザル所トナリ、統一ノ政ハ尾大ニシテ掉ラレザルノ病患ヲ生ジ、從テ餘勢浸染シテ自治ノ系統ヲ引テ中央政府ニ及ボシ國體國憲ヲ舉テ之ヲ破壞スルノ漸ヲ開クニ至リテ止マントス。彼ノ米國又ハ英國ニ於ケル學者ハ自治ヲ以テ共和ノ異名トシ、地方ノ自治ニ止マラズ全國ノ自治ヲ説ク者アルハ人ノ普ク知ル所ナリ(リーバー氏ノ自治論ノ如シ)小生ノ杞憂ヲシテ萬一ニモ將來ニ效アラシメバ、或ハ恐ル百年ノ後歷史上ニ於テ我 祖宗ノ國體ヲ破リシモノハ府縣自治ノ制ナリトノ評論ヲ下ス者アラントヲ。

小生ガ斯ノ如ク激切ナル言語ヲ用キテ以テ府縣制ノ將來ノ結果ヲ憂念スルモノハ、則チ左ノ數

點ハ此ノ法案ノ要領骨子タルコトヲ感覺シタルニ因レルナリ。

- 一、府縣會ハ其ノ府縣ヲ代表スルモノナリ。
- 二、府縣會ハ府縣條例ヲ制定ス。
- 三、府縣知事ハ府縣會ノ議長タリ。
- 四、有給府縣吏員ハ警察官吏及司獄官吏ヲ除クノ外府縣會ノ設ケ定ムル所タリ。
- 五、府縣參事會ハ府縣會ノ議決ヲ執行スルノ任ニ居ル。
- 六、府縣參事會ハ府縣吏員ニ對シテ懲戒處分ヲ行フ。
- 七、府縣知事ハ府縣參事會ノ組織ノ一人タリ而シテ又之ガ議長タリ。
- 八、府縣知事ハ府縣參事會ノ議決ヲ執行シ參事會ヲ代表ス。
- 九、府縣參事會ノ組織ハ府縣會ヨリ選舉サレタル名譽職參事會員其二分二ノ組織ヲ占ム。
- 十、府縣ノ收入役ハ府縣參事會ノ推選ニ依リ府縣會之ヲ選任ス。

以上十項ハ此ノ法案ノ成立ノ胸腦ニシテ一々純然タル自治ノ精神ニアラザルナク、若一躍シテ之ヲ國ニ移ストキハ其國ハ即チ共和國ト變化スベク、又ハ少クトモ無名有實ノ共和國トナルベシ。今成ルベク冗長ヲ避クル爲ニ簡短ニ上ノ各項ニ向テ之ガ解剖ヲ爲スベシ。

第一 府縣會ハ其ノ府縣ヲ代表スルモノタルトキハ府縣會ハ明ニ府縣知事ノ諮問ノ府ニ非ズシテ

其ノ府縣ノ最上權ヲ有スルモノナリ。而シテ府縣知事ハ降テ單ニ其ノ執行者タルニ過ギズ。

第二 府縣會ハ府縣條例ヲ制定ス、抑々町村ニ在テ町村限リノ町村條例アルハ一小局部ノ事ニ屬シ、事體仍小ナルヲ以テ之ヲ町村ノ自治ニ放任スルモ可ナリ。一府縣ノ事ニ至リテハ全國ニ對シ直接ノ區分ニ屬シ、一般ノ國政ト相關涉シ既ニ一般ノ法律ト密着近似スルノ性質ヲ有セリ（或ル國ニ於テハ之ヲ地方法律ト名ヅク）然ルニ府縣會ヲシテ府縣條例ヲ制定スルノ最上權ヲ握ラシメ（假令勅裁ヲ受クルノ形式上ノ制限アルニ拘ラズ）而シテ參事會ハ單ニ其ノ執行ノ任ニ居リ、府縣知事ハ又一層ヲ隔テ間接ニ執行ノ任ニ居ルニ過ギズ。是府縣立法ノ權ハ全ク絶對的ニ府縣會ニ屬スルモノニシテ、府縣知事ハ其ノ議長タルノ外行政官ノ位置ニ於テハ更ニ之ニ干與スルノ權アルコトナシ。若一轉シテ之ヲ國ニ適用セシメバ其ノ國ハ則チ米國又ハ瑞西國タラントスルナリ（府縣立法ノ名義ハ不當ナレドモ暫ク其ノ了解ニ易キヲ取ル）

第三 府縣知事ハ府縣會ノ議長タリ、此ノ事表面ノ皮相ニ於テハ府縣知事ヲシテ府縣會ヲ制御スルノ權ヲ握ラシムルモノノ如シ。然ルニ實際ノ結果ハ必然ニ府縣會知事ヲシテ府縣會ノ機關タラシメ、更ニ言ヘバ府縣會ノ奴隸トシテ以テ其ノ好意ヲ買ハンコトヲ務ルノ傾向ヲ取ラシムルモノナリ。行政長官ヲシテ會議ノ議長タラシムルハ其ノ行政ノ權力ヲ麻痺セシムルノ結果ヲ生ズルコト疑ナシ。蓋出テハ議場ヲ整理シ論斷穩當ニシテ議員ノ衆望ヲ失ハズ、入テハ行政上ノ

長官トシテ毅然トシテ斷行スルノ人ハ千百ノ十一ヲ得ルコトヲ望ム可ラズ、加之其過半ハ議會ノ愚弄物トナリテ止マンノミ。

第四、第十 府縣會ハ府縣吏員ヲ設ケ定メ又其ノ府縣ノ大藏官ト謂フベキ收入官ヲ選任ス、是米國ノ上院ト同ジク行政上ノ最上權ヲ握ルモノニシテ獨リ立法權ニ止マラズ。

第五、第六 府縣會ノ外府縣參事會アリテ府縣會ノ議決ヲ執行シ府縣知事ハ亦府縣參事會ノ議決ヲ執行シ府縣參事會ノ權力ハ府縣吏員ニ對シテ懲戒處分ヲ行フニ至ル、即チ府縣會ハ府縣立法ノ最上權ヲ有シ、府縣參事會ハ府縣行政ノ最上權ヲ有スルモノナリ。而シテ府縣知事ハ亦府縣參事會ノ機關タリ立法上行政上共ニ他人ノ餘唾ヲ拾フニ過ギザルナリ。

第七、第八、第九 府縣知事ハ府縣參事會ノ議長トシテ之ヲ代表スルモ其ノ議決ノ勢力ニ至リテハ參事會ノ一人タルニ過ギズ。而シテ參事會組織ノ多數ハ（三分ノ二）府縣會ヨリ選舉サレタル名譽職參事會員ノ占ムル所タリ。是レ行政上ニ於テモ勢力ノ過半ハ既ニ府縣會ノ手中ニ落チタルナリ。

總テ之ヲ要スルニ此ノ法案ハ府縣ノ權力ヲ舉テ總テ之ヲ府縣會ニ委任シ、政府及政府ノ代人ハ單ニ其ノ監督ヲ爲スニ止マルモノナリ。

抑々各國ノ政治ハ各々其ノ國ノ從來ノ沿革ト及特別ノ時宜ニ從フモノナリ。我國維新以來大政

上曠古ノ改革ヲ行ヒ、二十年ヲ經テ僅ニ畫一ノ王化ヲ普及セシムルノ程度ニ達シタルモ、地方ノ民情ハ猶各々封建ノ餘習ヲ存シ、動モスレバ大政ニ背馳シ、專ラ一部一局ノ利益ヲ主張スルノ傾向アルニ當リ、今俄ニ府縣ヲ舉テ獨逸ノ制ニ倣ヒ絶對的ノ權力ヲ以テ之ヲ地方會議ニ放任シタラシニハ、其ノ結果ハ意想外ニ上進シテ左ノ三點ヲ生ズルニ至ラン。

一、府縣長官ハ名ハ政府即チ 天皇陛下ノ代人タルニ拘ラズ、其ノ實ハ府縣會ノ哀憐ヲ乞フノ人ニ非ザレバ其ノ職ニ堪フルコト能ハズ、終ニハ其地方ニ公選スルヲ以テ勝レリトスルニ至ラン。

二、中央ノ政事ハ十年ヲ出デズシテ麻痺不遂ノ病ヲ見ン。

三、地方自治ノ影響ハ進デ中央ニ及ビ府縣會ノ雛形ハ之ヲ國會ニ移植スルノ大勢ヲ生ジ、其ノ速力重力ハ區々憲法ノ正文ノ能ク防壓スル所ニアラザルニ至ラントス。是亦十年ヲ出デズシテ其徵候ヲ見ン。

故ニ純然タル自治ハ之ヲ町村ニ施スベク、之ヲ都市ニ施スベキモ決シテ之ヲ府縣ニ施スベカラズ。町村及都市ニ在リテハ自治制ハ人民ノ利益ヲ保護スル良法タルベキモ、府縣ニ在リテハ國體ヲ破壞スルノ不祥ナル結果アラントス。若シ夫レ自治ノ精神ヲ取リテ適宜ニ之ヲ斟酌シテ折衷施行スルハ政府及地方人民ノ相互ノ便益ヲ調和スルノ良效アラシムベキモ、此法案ノ如ク純然タル

自治ヲ舉行スルニ至リテハ恐クハ將來ニ追悔スベカラザルノ不幸ヲ見ルニ至ラン。

明治二十一年十月五日

井 上 毅

東京府知事高崎五六市制町村制實 施ニ付テノ建議

昨二十一年法律第一號ヲ以テ御發布相成候市制町村制ハ、本年四月一日ヲ期シ過半ノ府縣實施ノ積ヲ以テ夫々閣下へ具申シ、既ニ御裁可ヲ得タル縣々モ有之、他ノ府縣モ引續キ御裁可ヲ乞フノ希望ヲ以テ孜孜實施ノ準備中ニ候處、亥ノ年二月小官等上京ノ節建議仕候通、市町村制實施若クハ之レト同時ニ御斷行アラントヲ熱望スル要件、就中國稅徵收ノ事、學區及小學校經濟法改正ノ事等ハ夫々御詮議モ被爲在、不日何分ノ御發令モ可有之儀ト確信仕候ニ付、今復々重ネテ陳辯スルノ必要ニ無之、殊ニ市町村制實施ノ期ニ切迫シ、僅ニ一ヶ月餘ヲ殘スノミナレバ、地方事務大體ノ改良得失ノ議ハ姑ク擱キ、唯從前施設ノ事業ヲ維持シ、在來ノ事務ヲ繼續スルノ上ニ於テ聊措辭ニ苦ムモノ二三件ヲ左ニ摘載シテ速ニ御處分アラントヲ希望仕候。

第一 國稅徵收ノ事務ハ市制第七十四條町村制第六十九條ニ依リ市町村長ヲシテ取扱ハシムル筈ナリト雖モ、抑モ市町村長ハ市町村一切ノ事務ヲ總理シ、責任ノ重ク事務ノ繁キコト從前戶長ノ比ニ非ルベシ。殊ニ實施ノ當初ニアツテハ一層甚シカルベシト信ズレバ、凡ソ其事務ニシテ

減ジ得ベキモノハ成ルベク之ヲ減ジテ、町村自治發達ニ力ヲ竭スノ餘地ヲ與フルコト肝要ト被存候。然ルニ市町村ノ收入役ナルモノハ單ニ市町村費ノ收出ヲ掌ルノミナレバ、専務吏員トシテハ或ハ多少餘間アルベキノ感アリ。加之該役ニ登任スベキモノハ概ネ以前戶長役場ニアツテハ徵稅其他金錢出納ニ熟練セシモノナルベシト察スレバ、之レニ徵稅事務ノ一部即チ税金取纏メノコトヲ任ズルハ目下適應ノ策トス。蓋シ此等ノ事務ハ市町村長ノ專掌ニ歸スルモ固ヨリ相當ノ補助員即チ下働キナルモノヲ得ザレバ處理シ難キモノニ付、其補助員ヲ別ニ置カンヨリ寧ロ收入役ヲシテ兼攝セシメラル、方整理上便益多カルベキヲ信ズ。否目下ノ情況ニ於テ市町村長ニノミ專掌セシムルトキハ事務ノ滯滞ヲ來スノ恐ナキ能ハズ。依テ此際特ニ命令ヲ發シ收入役ニ國稅徵收ノ一部ヲ兼攝セシメラレ度、但市町村ノ收入役ナレバ前顯ノ事務ヲ命ズルニ於テハ國費ヨリ其費用ヲ辨給セザレバ事體ニ於テ穩當ナラザルニ付此儀モ併テ御規定相成度事。

第二 町村ノ區域ニ依ラザル水利土功ノ事業及町村ノ區域ニ依ラズシテ學校ヲ設置スルモノニ處スルノ方法規則ハ別ニ制定發布セラル、旨ハ嘗テ承知セリ。然ルニ水利土功ノ事タル、固ヨリ緊急必須ノ事業ニシテ一日ヲ緩フスレバ一日ノ不利益アリ、又學校ノ如キモ町村分合ト共ニ設置區域ノ變動ヲ受ケ新ニ校舍ノ建築ヲ要スルカ、若クハ規模ノ擴張ヲ企テザルベカラザル等端的議會ノ必要ヲ生ズルハ當然ニ有之、此時ニ際シ内務省令(二十一年八月)第四條ニ依準シ、

將來必要ノ費用ヲ評決セシムルモノトスルニ勢ヒ姑息ニ流レ適當ノ評決ヲ得ズ、爲メニ事業上障害ヲ來スコト尠カラズト信認ス。就テハ速ニ單行ノ規則ヲ發布セラル、カ、又ハ姑ク従前ノ規則ニ據ルベキ旨布告セラレ、以テ事業ノ興廢規模ノ伸縮等其機ヲ誤ラシメザル様致度候事。

第三 一郡内ノ各町村ニ互ル事業、即勸業會費勸業委員長事務取扱費及分會所ニ係ル經費豫算若クハ其事業等ハ、從來聯合町村會ノ評決ニ付シ、郡長ニ於テ管理シ來レリ。然ルニ新法實施後ハ町村制第十六條第一項ニ依リ、町村ノ組合ヲ設ケ會議ノ評決ヲ經戶長ニ於テ執行セザルヲ得ズ、勿論此場合ニ於ケル事務管理ノ方法ハ別段ノ規定（第十七條第一項）ニ依リ斡旋上不合ナキニ至ルベシト雖モ、今日ノ實況ヨリ觀察スルトキハ、其費用ノ徵收事業ノ執行等之ヲ従前郡長ノ管理セシ場合ニ比シ頗ル困難ナルノミナラズ、夫ガ爲メ數年繼續ノ事業ヲシテ、一朝衰頽ニ屬セシムル哉モ測リ難キヲ以テ、此等ハ郡制ノ發布ヲ得郡會ノ評決ニ付シ郡長ニ於テ管理執行スルノ途ヲ得度、若シ郡制ニシテ速ニ發布ノ場合ニ至ラザレバ現今町村會規則第十五條ノ趣ニ依リ郡長ニ於テ執行スルノ便法ヲ設ケ一時ノ不便ヲ救フノ途ヲ立テラレ度事。

右第三項ノ如キハ必竟縣制ノ發布ニ至ラザルニ因テ見ル所ノ支障タルヲ以テ、其發布ヲ得バ毫モ顧慮ヲ要セザル義ト思考致候得共、郡制ノ發布ハ實ニ一大立法ノ事業ナレバ、其緩急ノ如キハ敢テ小官等ノ陳辯ヲ須ヒズ、自ラ廟議ノアル所ト恐察仕候ニ付、唯市町村制實施上該制ノ發布ヲ得ザレバ差支候廉ヲ舉テ爰ニ上陳仕候。

一昨二十年三月上京ノ節府縣郡制ノ綱領御内示ニ預リ、當時小官等ノ意見數ヶ條建議仕置キ以來民情ト一般ノ形勢トヲ視察シ、郡府縣ノ制度改正ノ得失ヲ考慮スルニ二十年建議仕候ヶ條ノ敢テ今日ノ實際ニ不適當ナラザルノ感覺ヲ抱キ、右ヶ條御採擇ノ程愈以テ切望ノ至リニ堪ヘズ、最前ノ建議建議書寫相添聊一言ヲ付記シテ閣下ノ御採酌ヲ仰ギ奉リ候。謹言

明治二十二年二月九日

各府縣知事總代

東京府知事男爵 高 崎 五 六

地方自治ハ村ニ適シテ郡ニ適セザルノ意見

井 上 毅

村

地方自治ノ説ハ明治十一年地方官會議ノ際ニ行ハレタリシガ、其後十五年ニ戸長ヲ有等官吏トシ、十七年ニ戸長管轄區域ヲ以テ地方官ノ定ムル所トシタルヨリ漸クニ其跡ヲ絶チタリシニ、近時地方改良ノ議アルニ因リ議者更ニ自治ノ美ヲ説クニ至レリ。

抑自治ノ方法ハ其理論ニ於テ最大美事タルト、及李英ノ二國ニ於テハ此ヲ以テ完全ノ治體トナシ、施行上ニ障碍ヲ見ザルトニ拘ラズ、我國ニ於テ此ノ説ノ果シテ實際ニ行ハルベキヤ否ヤハ實ニ方今政治上ノ一問題ナリ。此ノ説ヲ實行セントスルニ就テハ、先我國舊來地方制度上ノ沿革ハ果シテ自治制度ニ適スル精神ヲ有スルカ、果シテ之ヲ有ストセバ其實行スベキ區域ハ如何ヲ察スルコト緊要ナリトス。

此ノ問題ヲ決スルニハ我國地方區畫ノ最下級タル村ト其第二級タル郡以上ヲ區別シテ之ヲ論ゼザルベカラズ。茲ニ先ヅ村ニ就テ此ノ問題ニ答フル爲ニ從來ノ慣習ヲ尋ヌベシ。町村ノ首領ヲ庄屋トス、庄屋ノ民ニ屬シテ官ニ屬セザルノ證ヲ左ニ條列セン。

舊政府ノ時ニ藩主ノ封地ヲ易フルニ當テ、其臣屬ヲ引テ徙ル、而シテ民屬ヲ引テ徙ルコトナシ、庄屋ハ引テ徙ルノ類ニ非ズシテ土着シテ徙ラザルノ類ニ在リ、是レ自治ノ證第一ナリ。

貢稅ヲ納ムルニ庄屋ハ納總代トシテ小前ヨリ取聚メ、而シテ庄屋ノ手ニ在ルノ貢稅物ハ仍ホ人民ニ屬シ、火盜耗失アルトキハ人民其償當ノ責ニ任ズベキ者トシ、郡代手代ノ許ニ納ムルヲ待テ始メテ官納ヲ終ル者トセリ是レ其證第二ナリ。

享保七年ニ幕府五人組ノ法度個條ヲ渡シ、名主年寄五人組連印之一札ヲ差上ゲシム、若シ五人組ニ外ル、者アレバ名主組頭典事ニ可被仰付云々是名主年寄ハ人民ノ筆頭タリ其證三ナリ。

村ノ首領タル者ノ性質ノ自治ノ精神ヲ有スルノミナラズ、更ニ各村自己ニ運動スルノ證ヲ掲グベシ。

甲 各村ハ各村共同ノ事ノ爲ニ共同ノ財産ヲ有セリ、此ノ共同財産ハ政府ノ干涉ニヨルニ非ズシテ各村自ラ之ヲ處分スル者ナリ。現ニ今各村ニ於テ共有貯蓄金共有山林ヲ有スルモノ多シ、刈草場ノ如キハ一個人ノ草場アルコトナクシテ皆一村ノ草場ナリ。

乙 各村ニ於テ其住居人タル者村ノ公害ヲナシ、村ノ名譽ヲ傷ル等ノ事アルトキハ一村共同シテ之ヲ驅逐スルコトアリ。之ヲ村勘當ト云フ、上野沼田領ノ棚下ト云ヘル村ハ村ノ上ニ廣野アリ、村ニ失火アリタルトキハ火元ノ過失アル人ヲ其廣野ニ數日間放チ置クノ舊例ナリシ、此類一々枚舉スルニ暇アラズ。

其外政府モ亦一村ヲ舉ゲテ之ヲ一個人ノ如クニ看做シ、義務ヲ以テ一村ニ負擔セシメタルコト多シ。即チ一家退轉シテ持地荒田トナリタルトキハ、一村ヲシテ其缺所ヲ受負ヒ耕作シ及稅納セシムルノ類是ナリ。

以上叙列セシ所ニ據テ之ヲ觀レバ舊來村ノ制ハ自治ノ性質ヲ有スルコト明瞭ナリ。舊來已ニ自治ノ性質ヲ有スルトキハ新制ニ於テ之ニ自治ノ制ヲ與フルノ適當タルコトハ言フヲ待タザルベシ。故ニ前ノ問題ニ答テ曰、村ハ地方自治ノ制度ヲ設クルニ適當シタリト。

郡

自治ノ制度ヲ設クルノ區畫ハ自治ノ精神ヲ有スルモノニ止マルベキトキハ、自治ノ精神ヲ有セザルノ區畫ハ自治制ヲ設クルノ外タルベシ。舊來我が國、地方制度ノ第一級タル村ハ自治ノ制ニ適スベキコトハ前ニ既ニ之ヲ論ゼリ。是ヨリ更ニ第二級タル郡制ハ果シテ其性質自治制ニ適スル

カ否ヤヲ論ズベシ。

郡ヲ以テ自治トナストハ郡會ヲ起シ郡長ヲ民選ニシ、郡ヲシテ自然部落タラシメ、西洋人ノ所謂無形人タラシムベキヤ否ヤノ問題ナリ。此ノ事ニ付我國地方實際ノ事情、從來ノ慣例如何ヲ考察スルノ必要ナルヲ信ズ。

第一 慣例

舊來我が國ノ郡制ハ村ト異ナリ村ニ關スル所ノ證例ハ適々以テ郡制ニ於テ反對ノ證例トナスニ足レリ。大寶令ニ郡ニ郡領ヲ置キタルノ制ハ姑ク之ヲ置ク、幕政舊制ニ於テ町村ノ首領タル庄屋年寄ハ大抵其地方ノ人ニシテ、給料ハ或ハ其町村ノ庄屋給ト稱フル地所ヲ所帶シ、或ハ名譽ヲ以テ勤メタルニ、郡ハ然ラズ、郡代若クハ代官ト云フモノハ地方又ハ藩ニ隨テ名ヲ異ニスト雖モ、其實ハ中央政府（藩政府）派出ノ官吏、行政ノ手足ニシテ、郡役所ハ即チ中央政府ノ支廳タリ。故ニ郡代ノ庄屋年寄ニ於ケル郡代ハ概ネ政府行政ノ精神ヲ主張シ、庄屋ハ概ネ人民ノ總代トシテ被治者ノ利害ヲ保護セリ。

第二 事情

目下地方ノ費用頗鉅大ニシテ府縣稅町村費ヲ併セテ概ネ國稅ノ半ニ居リ困苦ノ聲ヲ聞ク、加フルニ府縣會及町村會ヲ設ケシ以來會議ノ費亦少小ナラズ、況ンヤ今更ニ郡會ヲ起シ郡役所ヲシテ

地方自治ハ村ニ適シテ郡ニ適セザルノ意見

諸般ノ事總テ自治ノ體裁ヲ成サシメントセバ、其増加ノ費用ハ民力ノ堪フベキ所ニ非ザルナリ。
第三、郡長ノ選舉

凡ソ自治制ノ性質ハ其官吏タル者ハ名譽ヲ以テ任ズルコト是ナリ。故ニ自治ノ性質ヨリシテ論ズル時ハ縣會及郡會議員ノ性質ハ固ヨリ名譽ノ職ナリトス。今之ニ日當ト名ヅクル一種ノ俸給ヲ與ヘズシテ、毎年之ヲ徵集センニ、果シテ之ニ應ズルモノアラシヤ。郡會議員スラ猶然リ、郡長ニシテ若シ名譽ノ職タルニ止マラシメントセン歟、事務ニ達スル者ニシテ郡長ノ任ニ就ク者果シテ幾人ヲ得ンヤ。

英國ハ從來自治ノ制盛行ハレテ地方ノ大小區畫ハ皆自治ノ制ヲ行フ者ナリ。孛國ハ憲法上ノ自由ハ英國ニ及バズト雖モ地方政事ノ自治ハ英國ニ少カラズト誇ル者ナリ。佛國ハ憲法上ニ於テ民主權ヲ許スト雖モ、地方政事ハ專中央集權ヲ主トシテ地方自治ヲ缺ク者ナリ。此レ皆各國ニ於テ歷史上ノ沿革ヨリ來ル者ニシテ理論ノ能ク左右スル所ニ非ズ。而シテ歐洲ニ於テ自治ノ制ノ因テ來ル所ノ淵源ヲ尋ヌレバ、中古大亂ノ時ニ於テ市府ノ人民共同團結シテ以テ自ラ政治ヲ爲シ、外侵敵ヲ防ギ内壓制ヲ免レタルニ起ル者ナリ。故ニ今我が東洋ニ於テ歐洲ノ美ヲ採用スルニ當テ、我が歷史上ニ無キ所ノ慣習ヲ取り、強テ之ヲ培植セントスルモ必多少困難ノ事情ヲ生ジテ數年ノ後ニハ又舊制ニ復スルコトヲ免レザルベシ。況ンヤ我が維新ノ際封建ノ制ヲ廢シ、以テ集權ノ王

政ヲ復シ、各地各法ノ弊ヲ釐革シテ全國畫一タラシムルノ後、歷年未ダ久シカラズシテ未ダ地方人民ノ各々其政ヲ爲スニ任ズベカラザルヤ。

地方制度ニ對スル意見

金子堅太郎

今回新設ノ町村制ニ依レバ、町村負擔ノ事業ハ町村ノ自治ニ任セ、其經濟ノ如キモ町村會ノ議決ニ委ネ、殆ンド歐米町村ノ自治制ヲ施行セントノ目的ナルガ如シ。然ルニ本邦ノ町村ハ大寶年間ヨリ徳川氏ノ幕政ヲ經テ今日ニ因襲シ、其年限ハ千八百八十八年ノ永キニ及ベリ。其間數多ノ變動ト困難トヲ經歷シテ今日ノ一町村固有ノ形體ヲ作爲セシモノナレバ、容易ニ之ヲ變換スルコト能ハザルハ是レ自然ノ勢ナリ。左リトテ封建ノ町村ヲ依然保有シテ文明ノ政治ヲ施行スルコト能ハザルモ、亦今日文運ノ然ラシムル所ナリ。文明ノ時運ニ遭遇シタル町村ノ事業ハ、封建割據ノ下ニアリシ町村ノ村持仕事ト同日ノ比ニアラズ。又今日町村ノ費額ハ昔時ノ町村人費ノ類ニアラズ。事業モ浩繁ニ赴キ、費用モ巨額ニ上リ、到底今日ノ町村編制法ヲ改正スルコトハ目下ノ急務ナリ。而シテ其改正ハ專ラ昔時ノ質朴ト今日ノ繁忙トノ衝突ヨリ起ルモノナレバ、勢ヒ現在ノ町村ヲ合併シ、其區域ヲ廣大ニシテ其經濟ニ餘裕アラシムルコトヲ勉メザルヲ得ズ。其區域ヲ廣大

ニシテ其經濟ニ餘裕アラシメント欲セバ必ラズ固有ノ町村ヲ合併セザルヲ得ズ。然レドモ其合併ノ事タルヤ、今日地方情況ト人民智識ノ度合トニ依レバ實ニ言フベクシテ行ハレザルヲ如何セン。今其概略ヲ左ニ列記セントス。

第一 數百年五保又ハ五人組ノ慣習ニ依ル一町村ヲ以テ一家ノ如ク見做シ、一町村ノ吉凶ハ一家ノ吉凶ト同ジク、互ニ相喜ビ相悲ミ、以テ一ノ固有團體ヲナセリ。故ニ他ノ町村ニ對シテハ町村ノ事業ヲ共同セザルノミナラズ、風俗、慣習、宗旨、氏神ヲ異ニシ、甚シキニ至テハ他町村ト結婚セズ、殆ンド敵愾ノ風習ヲナス事。

第二 河水又ハ灌漑用水ノ上下流ニ位スルガ爲メ、甲村ハ常ニ使役命令ノ權理ヲ有シ、乙村ハ服從ノ義務ヲ帶ビ、心中常ニ不快ノ念慮ヲ抱キ、爭論喧嘩ノ絶ヘザル事。

第三 甲村ハ田畑山林、秣場、石砂、土取場、池沼、藪澤等ノ共有地ヲ所有シテ利潤ヲ得、又之ニ反シテ乙村ハ固有ノ共有地モナク、只小作ノミヲ以テ生計ヲ營ムトキニハ此二村ハ到底經濟ヲ同一ニスルコト能ハザル事。

第四 富裕ナル町村ハ社倉、郷藏、其他重穀ノ儲蓄法アリ、之ニ反シテ貧困ナル町村ハ只日々ノ生計ニ汲々トシ常ニ富裕町村ノ負債人トナリ、貧富ノ度合隔絶シ共ニ町村ノ經濟ヲ協議スルコト能ハザル事。

第五 貧富ノ數町村ヲ合併シタルトキ若シ富村ノ人民ニシテ多數ヲ占ムレバ貧村人民ハ富村ノ使役命令ニ服從シテ自治制ノ幸福ヲ受有スルコトヲ得ズ。全ク壓抑ノ制度ニ陥ラントス、又之ニ反シテ貧村ノ人民多數ヲ占ムレバ、富村ノ共有地ヨリ生ズル利潤モ勤儉シテ儲蓄シタル金穀モ悉ク貧村ノ人民ニ支配浪費セラレ、富村ノ財産ハ全ク貧民ノ口腹ヲ肥スノ材料トナラントスル事。

第六 甲村ハ農ヲ主トシ田畑ヲ所有スルモノ多ク、乙村ハ工商ヲ專ニシ田畑ヲ所有スルモノ少ク、若シ之ヲ合併シタルトキニハ甲村ノ人民ハ町村費ヲ以テ重モニ戸數割營業割ニ賦課セント主唱シ、乙村ノ人民ハ之ヲ以テ地租割又ハ反別割ニ賦課セント企望シ、互ニ軋轢ノ形況ヲ生ジテ町村會ノ紛擾ハ毎年絶ヘザルモノナリ。然ルニ若シ甲乙二村ノ一ニシテ多數ノ人口ヲ占メ町村會ノ議決ヲ專制スルノ位地ニアラシメバ、町村費賦課ノ方法ニ大ナル不權衡ヲ生ジ、終ニ町村ノ經濟及民生ノ安堵ヲ破ルニ至ル事。

第七 數町村ヲ合併シタルトキニハ多數ノ人口ヲ有スル町村ハ其町村會ニ於テ勝ツベカラザル勢力ヲ掌握スルガ故ニ、學校、病院、戶長役場其他凡テ公共ノ建物等ハ皆ナ己レノ町村内ニ建設シテ町村自治制ノ要點タル無給吏員ハ悉ク他村ノ人民ニ押シ付ケ、己レハ勞セズ勤メズ坐シテ私利ノ自便ヲ營ミ、公共ノ便益ヲ顧ミザル事。

第八 古來飛地、手長、別部村ト稱スル枝村ハ其所屬ノ本村ヲ去ルコト遠ク、且ツ本村ト枝村トノ間ニハ二三ノ他町村アリテ之ヲ橫斷スルニモ係ハラズ、其風俗慣習、宗旨、氏神、共有地ノ取扱等ハ凡テ本村ト同一ナリ。此等ハ到底急ニ近隣ノ町村ニ附合スルコト能ハザル事。

以上ハ今日町村ヲ合併スルニ付キ發生スベキ事件ナリ。然レドモ之ヲ憂テ町村ノ制度ヲ改正セザレバ何レノ日カ町村自治ノ制度ヲ施行スルコトヲ得ンヤ。故ニ小官ハ今日急激ノ法制ヲ以テ町村ヲ合併セズ、漸進ノ主義ヲ採リ、町村自治ノ制度ヲ人民ノ腦裏ニ慣熟セシメ、數十年ノ後ニ於テ町村自治ノ制度ヲ完備セシメント欲ス。今其方法ノ概略ヲ左ニ記載ス。

第一 今日ノ町村ハ昔時封建ノ制度ヨリ成立シタルモノナレバ、明治郡縣ノ制度ヲ施行スルト同時ニ其組織成分ニ大ナル變更ヲ生ゼザルヲ得ズ。又文明ノ氣運ト共ニ道路ノ開通昔日ニ倍シ、鐵道電信及蒸汽機關等ノ新工夫ハ日ニ月ニ内地ニ進入シ、殖産興業ノ方法大ニ一新シ、昔日繁榮ノ土地ハ寒村幽谷ト變ジ、往時ノ河岸及原野ハ四通八達ノ市街ト化シ、其變遷盛衰今仍ホ駭々トシテ其進行ノ路上ニアレバ、今日ヨリ數年ノ後ニハ村落市街ノ區域及形況ハ必ラズ大ニ一變シ、町村ノ制度及經濟モ亦自ラ革新スルニ至ラン。故ニ今日ノ町村ハ所謂變遷ノ時代ナリ。決シテ永世不易ノ制度ヲ以テ豫メ今日ヨリ之ヲ確定スルコト能ハズ。只今日ノ大計ヲナスニハ先ヅ町村自治ノ大體ヲ定メ、其範圍内ニ於テ町村ハ今日ノ儘容易ニ運動スルコトヲ得セシメ、

可成の町村固有ノ性情慣習及經濟ヲ破ラザラシメ、數十年ノ後時世ノ變遷町村經濟ノ革新及人民教育ノ進歩ト共ニ新規ノ町村ヲ生出セシムルコトニ注意スルヲ要ス。

第二 第一ノ理由アルガ故ニ今日ハ先ヅ町村ノ人口、反別、納稅額、資産及人民業務ノ形況等ヲ調査シ、一町村獨立シ、他ノ町村ト合併セズシテ自治ノ制度ヲ負擔シ、且其事業ヲ實行シ能フモノニ限り新設ノ町村制ヲ施行スル事。

第三 今日ノ町村ノ過半ハ僅少ナル人口ト狹隘ナル區域トニ依テ成立シタルモノナルガ爲メ、町村自治ノ制度ヲ施行スルノ實力ニ乏シ。故ニ豫メ其地理人情風俗經濟等ヲ斟酌シ、七八ヶ町村以内ヲ合併スルノ目的ヲ以テ隣接ノ數町村ヲ同一ノ管轄區域内ニ置キ、一ノ戸長ヲシテ之ヲ監視セシメ、而シテ一方ニ於テハ其全町村ニ互ル行政事務即チ租稅徵收徵兵下調、國縣道路ノ修繕ヲ始メトシ、教育戶籍等ノ事ヲ戸長ニ取扱ハシメ、可成の漸ヲ以テ町村固有ノ團結ヲ解キ、不知識數町村ヲ變ジテ一町村トナスノ基礎ヲ立ルニ注目シ、又一方ニ於テハ町村古來ノ共有財産、共有ノ山林、村持殊場、共有ノ石砂土取場、共有ノ池沼藪澤、灌溉用水ノ區域、町村受持ノ道路橋梁、氏神ノ祭祀等ハ依然舊慣ヲ存在セシメ、假令ヒ一戸長ノ監視ノ下ニアルモ右等ノ事項ハ各町村ニ於テ町村總代ヲ選舉シテ之ニ取扱ハシメ、各別ニ其經濟ヲ立テシムルヲ要ス。然レ共已ニ前ニ陳述シタルガ如ク一戸長ノ監視ニ屬シ、行政事務ハ悉ク其支配ヲ受クルガ爲メ、

年月ヲ積ムニ從ヒ今日文明ノ教育ヲ受ケタル少年子弟ハ年々成長シテ諸般ノ業務ニ從事シ、時世ノ變遷ト町村經濟ノ轉變トニ追迫セラレ、不知識舊時ノ町村ノ區域ヲ脱シ昔日ノ町村ノ思想ヲ放レ、時運ノ進歩ト共ニ新町村ヲ構成スルノ念慮ヲ起シ、終ニ數十年ノ後ニハ今日豫定シタル町村ノ範圍内ニ於テ新町村ヲ醸生シ、獨立自治ノ實力ヲ顯ハスニ至ラン。然ラバ則チ急變ヲ以テ町村ノ秩序ヲ亂サズ、激動ヲ以テ町村ノ人情經濟ヲ破ラズ、天地自然ノ原理ニ基キ町村ノ新制度ヲ完備スルニ至ラン。

第四 右ノ如ク町村全體ノ事務ニ關シテハ戸長ヲ置キ、町村各自ノ事件ニ付テハ町村總代ヲ置クトキニハ、戸長ノ選舉ノ如キハ各町村ノ順番受持トシ、町村總代ヨリ之ヲ選舉セシムルカ又ハ各町村ノ人口反別ノ多少ニ依テ其就職ノ度數ヲ定ムルカ、可成の戸長奉職ノ義務ヲシテ各町村均一ナラシムルコトニ注意スベシ。

右ニ陳述スル所ハ單ニ町村制中ニアル町村合併ノ一事ニ付キ愚見ヲ記載シタルノミ。其他町村費ノ種類及其賦課方法竝ニ町村吏員等ノ事ニ付キ尙ホ愚考スル所アレドモ、論文冗長ニ涉リ閣下ノ清覽ヲ煩ハスコトヲ恐レテ爰ニ停筆セリ。右ニ列記シタル事件ノ如キハ閣下ノ已ニ業ニ熟知スル所ニシテ何ゾ小官ノ上申ヲ待タンヤ。然レドモ曾テ調査シタル日本中古地方制度大要及徳川氏鄉村制度大要ノ二冊ヲ進呈スルノ榮譽ト共ニ、愚見ヲ略記シテ閣下ノ坐右ニ奉呈ス。

日本中古地方制度大要

金子堅太郎查

緒言

日本中古地方制度トハ律令格式實行ノ世、即文武帝大寶年間ヨリ醍醐帝延喜年間マデノ世ニ於テ實行セラレタル國郡里ニ關スル諸般ノ法度成例ヲ謂フ。

而シテ日本中古地方制度ノ詳細ヲ記述セントセバ、事錯雜ニ涉ルヲ以テ觀覽ニ便ナラザルノ恐アリ。因テ先ヅ現今即明治今日ノ政體ト必要ノ關係ヲ有スル者ノミヲ拔摘シ、彼此參考ノ用ニ供ス。之ヲ叙述スルノ大綱左ノ如シ。

- 一 地方行政區劃。
- 二 地方官吏。
- 三 地方官吏ノ職務。

- 四 地方官吏ノ任期。
 - 五 地方官吏ノ俸給。
 - 六 地方官吏ノ選任。
 - 七 地方官吏ヲ監督スルノ方法。
 - 八 地方官廳ノ屬スル長上官衙。
 - 九 地方ノ事業。
 - 十 地方經濟ノ方法即ち地方費用ノ徵收支出。
 - 十一 地方經濟ヲ監督スルノ方法。
 - 十二 行政處分其他地方官吏ニ對スルノ願訴。
- 以上

此書記述ノ方法ハ強チ律令格式等ノ原文ニ依ルニアラズ、主トシテ其意義要點ノミヲ摘出シタルモノナリ。其文學ノ如キモ現今普通ノ文字ニ變改スルモノ多シ。是レ觀覽ノ便ヲ圖ルニ出ヅルナリ。其變改スベカラザル文字ノ如キハ姑ク舊ニ依ル。

一、地方行政區劃

地方行政區劃ヲ三等トス、國、郡、里、是ナリ。其構制法左ノ如シ。

里

里ハ五十戸ヨリ成立ツ。

其戸數若シ五十戸ニ剩ルトキハ其剩餘ハ附ケテ大里ニ屬シ、又其剩餘十戸ニ滿ツルトキハ別ニ一里ト爲スコトヲ得。令

郡

郡ハ分テ大、上、中、小、下ノ五等トス。大郡ハ二十里以下十六里以上、即チ千戸以下八百戸以上、上郡ハ十二里以上即ち六百戸以上、中郡ハ八里以上即ち四百戸以上、下郡ハ四里以上即ち二百戸以上、小郡ハ二里以上、即ち百戸以上ヨリ成立ツ。令

郡ハ二十里即ち千戸ニ過ルコトヲ得ズ。若シ五十戸以上ヲ餘セバ隣郡ニ分隸シ地勢分ツベカラザルモノハ狀ニ隨テ別郡ヲ立テ、其百戸ニ滿タザルモノハ他郡ニ隸入ス。若シ已ムヲ得ズシテ分ツベキモノハ別ニ錄シテ官ニ申ス。民政部

國

國ハ分テ大、上、中、下ノ四等トス。大國ハ大凡十四郡、上國ハ大凡九郡、中國ハ大凡五郡、下國ハ大凡二郡ヨリ成立ツ。

當時全國、國、郡、里ノ惣數ハ大略左ノ如シ。

里	不詳
郡	五百九十四 (和名抄ニ據ル延喜式ニ五百四十二ニ作ル)
國	六十八 (嵯峨帝ニ至テ始メテ定ル)

二、地方官吏

地方官吏ヲ三等トス。即チ國司、郡司、里長是ナリ。

里ノ官吏

里ノ官吏ヲ里長トシ里毎ニ一人ヲ置ク、但シ土地ノ便宜ニ從テ必シモ此例ニ依ラズ。

郡ノ官吏

郡ノ官吏ヲ大領、小領、主政、主帳トス。

郡ノ大小ニ依リ之ヲ置クコト多少アリ。

此等ヲ總稱シテ郡司ト云フ。

國ノ官吏

國ノ官吏ヲ守、介、大少掾、大少目トス。

國ノ大小ニ依リ之ヲ置クコト多少アリ。
此等ヲ總稱シテ國司ト云フ。
此ノ外ニ史生アリ

(此ノ外毎國ニ博士、學生アリ。今之ヲ省ク)

(郡ノ大領以下四等、國ノ守以下四等法令上之ヲ長官、次官、判官、主典ノ四等ト云フ。
其職務ノ權限ニ依リ法令上ノ通稱ト爲シタルモノナランカ)

三、地方官吏ノ職務

地方官吏ノ職務ハ大要左ノ如シ。

里長ノ職務

里長ハ戸口ヲ檢校シ農桑ヲ課殖シ非違ヲ禁察シ賦役ヲ催促スル事ヲ掌ル。

里長ハ詔勅ノ下ル毎ニ部内ヲ巡歴シテ百姓ニ宣示シ、以テ之ヲ下達セシムル事ヲ掌ル。

郡司ノ職務

大小領ハ所部ヲ撫養シ、郡事ヲ檢察スル事ヲ掌ル。

主政ハ郡内ヲ糾判シ文案ヲ審署シ稽失ヲ勾ヘ非違ヲ察スル事ヲ掌ル。

主帳ハ事ヲ受ケテ上抄シ文案ヲ勘署シ稽失ヲ檢察シ公文ヲ讀申スル事ヲ掌ル。

國司ノ職務

守、介ハ神社、戸口、簿帳、百姓ヲ字養シ、農桑ヲ勸課シ、所部ヲ糾察シ、貢舉、考義田宅、良賤、訴訟、租調、倉粟、徭役、兵士、器械、鼓吹、郵驛傳馬、烽候、城牧、過所、公私ノ馬牛闌遺ノ雜物及寺僧尼ノ名籍ノ事ヲ掌ル。

大少掾ハ國內ヲ糾判シ文案ヲ審署シ稽失ヲ勾ヘ非違ヲ察スルコトヲ掌ル。

大少目ハ事ヲ受ケ上抄シ文案ヲ勘署シ稽失ヲ檢出シ公文ヲ讀申ズル事ヲ掌ル。

四、地方官吏ノ任期

地方官吏ノ任期ハ左ノ如シ

里長ノ任期

里長ノ任期ハ令式ハ勿論、諸書之ヲ詳ニセズ。

郡司ノ任期

大少領以下郡司ノ任期ハ總テ十年トス（然レドモ元明帝和銅六年五月ノ制ニ據レバ大少領ヲ以テ終身ノ官トシ、國司ノ愛憎ニ依リテ妄リニ致仕セシムルコトヲ得ザラシメタリ）

國司ノ任期

守、介以下國司ノ任期ハ總テ六年トス。但シ史生ハ八年トス

（然レドモ稱德帝慶雲二年二月十六日改テ四年ニ定メ、平城帝大同二年十月十九日更ニ令文ニ據リ嵯峨帝弘仁六年七月十七日慶雲ノ格ニ復シ、淳和帝天長元年八月二十日介以下ヲシテ別ニ六年トシ、仁明帝承和二年七月三日之ヲ改メテ四年トセリ）

五、地方官吏ノ俸給

地方官吏ノ俸給ハ大約左ノ如シ。

里長ノ俸給

里長ノ俸給ハ令式ニハ勿論諸書之ヲ詳ニセズ。

郡司ノ俸給

郡司ノ俸給ハ職田及公廩物ヲ以テ之ニ充ツ、其制凡ソ左ノ如シ。

大領

職田 六町

少領

職田 四町

主政

職田 二町

主帳

職田 二町

(公廨ノ制ハ事錯雜ニ涉ルヲ以テ別ニ之ヲ説ク)

國司ノ俸給

國司ノ俸給ハ職田及公廨物ヲ以テ之ニ充ツ、其制凡ソ左ノ如シ(此ノ外ニ國司ハ其位ノ高下ニ依テ位田ヲ賜フモノアリ、又春秋二季ニ物品ヲ賜フノ制アル等其ノ入ル所一ナラズ。然レドモ要スルニ其職務ニ對スル俸給ハ此二種ニ止ルモノナランカ)

守

職田 大國二丁六反 上國二丁二反 中國二丁 下國一丁六反

介

職田 同 二丁二反 同 二丁

大少掾

職田 同 一丁六反 同 一丁六反

大少目

職田 同 一丁二反 同 一丁二反

(公廨ノ制ハ事錯雜ニ涉ルヲ以テ別ニ之ヲ説ク)

(要スルニ當時官吏ニ賜フ所ノモノ數多アリ、位階ニ依テ賜フアリ、職掌ニ依テ賜フアリ、勳功ニ依テ賜フアリ、特旨ニ依テ賜フアリ、又慰勞ノ爲ニ賜フアリ、雜費ノ爲ニ賜フアリ、其賜フ所一ニシテ足ラズ。隨テ之ヲ賜フノ法モ亦各異ナルモノトス。然レドモ職務ニ對スル俸給ハ前ニ述ルガ如ク職田ト公廨物トノ二種ニ止マルモノ、如クナレバ、他ハ今之ヲ贅セズ。而シテ公廨物ノ大意ヲ舉レバ所謂職務上ノ雜費即役料ニ給スルモノノ如シ。其説ハ別ニ記ス)

六、地方官吏ノ選任

地方官吏選任ノ法ハ左ノ如シ。

里長ノ選任

里長ハ當里ノ白丁ニシテ清正強幹ナル者ヲ取テ之ニ充ツ（白丁トハ奴隸ニアラザル人民ヲ云フ、蓋シ英語ニ所謂ル「シチゼン」ト殆ド其意義ヲ同フスルモノ、如シ）

若シ當里ニ其人ナケレバ隣里ニテ取ル。

若シ八位以下ノ人其選ニ當ランコトヲ情願セバ之ヲ許シテ隣里ニ取ルコトヲ罷ム。

郡司ノ選任

大領少領ハ性識清廉ニシテ時務ニ堪ヘタル者ヲ取テ之ニ充ツ。

主政、主帳ハ強幹聰敏ニシテ書計ニ工ミナル者ヲ取テ之ニ充ツ。

郡司ハ一郡ニ同姓ヲ併セ用フルコトヲ得ズ。若シ他姓中用フベキ者ナケレバ同姓ト雖モ同門ヲ除ク外ハ任ズルコトヲ聽ス。

年七十已上廿四已下ノ人ハ郡司ニ任ズルコトヲ得ズ。

郡領ノ民ハ主政主帳ニ任ズルコトヲ得ズ。

國司ノ選任

國司ノ選任法ハ詳カナラズ。然レドモ淳和帝天長元年八月廿日ノ官符擇良吏條ニ具ニ清簡ノ美才ヲ簡ンデ諸國ノ守介ニ任ゼン。又其擇國守條ニ任ニ當ル人ハ多ク得ベカラズ。一良守ヲシテ諸國ヲ兼帶セシメ、先ヅ一國ニ試ミテ明ニ治否ヲ知り然ル後ニ之ヲ兼ネシメント云フ事ア

リ、以テ其大要ヲ知ルベシ。

諸國ノ史生ハ當國ノ人ヲ任ズルコトヲ得ズ。

七、地方官吏ヲ監督スルノ方法

此ニ故ラニ地方官吏監督ノ方法ヲ掲ゲタルハ、當時ノ制度タル地方官吏ノ職權頗ル莫大ニシテ、之ガ爲メニ生ズル所ノ弊害亦甚ダ少カラズ。サレバ如何ニシテ此等ノ弊害ヲ豫防シタリシヤ、之ヲ監督シタルノ方法ヲ講究スルハ地方制度ヲ講究スルニ於テ最モ必要ナルベキヲ感ジタルニ由ル。蓋シ其方法タル一ニシテ足ラザルベシト雖モ、先ヅ余輩ノ注目シタルモノヲ左ニ掲グ（其他ハ宜シク地方經濟ヲ監督スルノ方法ト參觀アルベシ）按ズルニ地方官吏ヲ監督スルニハ種々ノ方法アリ、又時ニ隨テ其方法ニ異同アリシナルベシト雖モ、蓋シ時々、中央政府ヨリ特使ヲ派遣シテ之ヲ觀察セシメタルヲ以テ其主モナルモノト謂フベキガ如シ。而シテ其特使ノ名稱ハ令ニ巡察使ト稱シ、養老年間ニ按察使ト稱シ、天平年間ニ巡察使ト稱シ、大同年間ニ觀察使ト稱シ、時ニ隨テ之ヲ異ニシタルモノ、如シト雖モ、其之ヲ置クノ主旨ニ至テハ亦相同キガ如シ。今試ニ其成文一二ヲ左ニ掲グ。

令ニ巡察使ハ諸國ヲ巡察スルコトヲ掌ル、常ニ置カズ、巡察スベキ時ハ權リニ内外ノ官ニ於テ

清正灼然ナル者ヲ取テ之ニ充ツ、巡察ノ事條及使人ノ數ハ臨時之ヲ量定ス。
大寶三年太政官處分ニ巡察使記スル所ノ諸國ノ郡司等治能アル者ハ式部、宜ク令ニ依リ稱擧スベシ、過失アル者ハ刑部、律ニ依リ推斷スベシ。

和銅四年十二月詔ニ自今以後毎年巡察使ヲ遣シテ國內ノ豐儉得失ヲ檢校セシメン。云々
養老三年七月始テ按察使ヲ置ク、其管スル所ノ國司若シ非違及百姓ヲ侵淫スレバ按察使自ラ巡省シ狀ヲ量テ黜陟シ其徒罪以下ハ斷決スベシ。云々

天平十六年九月勅シテ三十二條ヲ巡察使ニ頒ツ、自今以後宜シク頒條ニ依テ四年毎ニ必ズ訪察ヲ加ヘ奏問スベシ。云々

大同元年六月ノ詔ニ今十六條ヲ行ハンガ爲メニ六道ノ觀察使ヲ置ク。云々

大同四年九月官符ニ觀察使ヲシテ諸國ヲ巡察セシムルニ付條目若干ヲ定ム。

天長元年八月官符ニ巡察使ヲ諸國ニ遣ハシテ其國官人ノ治否ヲ考ン。

八、地方ノ事業

地方ノ事業ヲ分テ(甲)土木(乙)警察(丙)教育ノ三事業トス。而シテ當時此等ノ事業ニ關スル方法如何ヲ尋ヌルニ、別ニ確乎トシタル細則モアラザレバ、具サニ之ヲ説明シ難シト雖モ、

其方法ノ綱領ヲ擧グレバ大略左ノ如シ。而シテ此三事業中(乙)警察ノ如キハ半ハ自治ニ屬セラレタルモノ、如シ。

(甲) 土木

道路、橋梁、渡船場、修理ハ其所ニ於テ毎年九月中旬ヨリ起業シ十月マデニ竣功スベシ。其要路破損シテ俄ニ通行ヲ停メタルモノハ時月ニ拘ハラズ人夫ヲ差シテ修理スベシ。若シ國司ニ於テ處辨シ難キ者ハ申請スベシ。(營繕令)

大水ニ近キ堤防ハ國郡司時々檢分シ、若シ修理スベキモノアラバ毎年秋收ノ後、功ノ多少ヲ量テ近キヨリ遠キニ及ボスノ方法ニ依リ人夫ヲ差シテ之ヲ修理スベシ、若シ暴水氾濫シテ堤防ヲ毀壞シ人患ヲ爲セバ即時ニ之ヲ修理スベシ。五百人以上ノ人夫ヲ差スベキ時ハ同時ニ上申スベシ。(同上)

若シ要急ノ場合ニ於テハ軍團當番ノ兵士モ之ヲ役スルコトヲ得但シ五日ヲ過スコトヲ得ズ(令)
堤ノ内外并堤上ニハ多ク榆柳雜樹ヲ植ヘテ堤堰ノ用ニ充ツベシ。(同上)

水ヲ取テ田ニ漑グ事ハ皆下ヨリ始メ次ニ由テ之ヲ用フベシ。(令)

渠ニ縁デ碾磑ヲ造ラント欲スルモノハ國郡司ニ出願シ公私妨ゲナキモノハ之ヲ許スベシ。(令)
渠堰ヲ修理スベキモノハ先ヅ用水ノ家ヲ役スベシ。(令)

(乙) 警察

凡戸ハ皆五家相保チ(五人組ヲ爲スナリ)一人ヲ長ト爲シ、互ニ檢察シテ非違ヲ造スコト勿ラシムベシ。如シ遠客アリテ止宿ヲ乞トキ及保内(組合内)ノ人他行スルトキハ保内ニ告知スベシ。

一家逃走スル者アレバ五保ヲシテ追跡セシム。(戸令)

盜賊アリ及傷毀セラル、者アラバ即チ近傍ノ官司坊里ニ告グベシ。其告ヲ得タルモノハ近傍ノ兵及人夫ヲ率キテ追跡捕縛スベシ。賊若シ隣郷ニ入ラバ隣郷ノ者ト共ニ追捕スベシ。更ニ他國ニ入ラバ其所轄官司ニ照合シ追跡ノ事ヲ計ルベシ。

若シ賊甲界ニ在テ乙界ノ者ヲ傷毀シ、盜品或ハ死屍兩界ニ跨リ居ラバ兩界ノ官司立會ノ上共ニ追捕スベシ。如シ證據物品等無ケレバ拷問スルコトヲ得ズ。

罪人ヲ追捕センガ爲メ發スル所ノ人夫兵士ハ追捕ニ堪ユル程ヲ出スベシ。其當界ニ軍團アラバ隨テ與ニ追捕スベシ。カヲ制スルコト能ハザレバ隣國隣郡ニ告グ隣國隣郡ハ先ヅ兵ヲ發シ其狀ヲ申奏スベシ。(捕亡令)

延曆三年勅比來京中盜賊稍多シ云々、自今以後宜ク隣保ヲ作シ非違ヲ檢察スル一ニ條令ノ如クスベシ。

(丙) 教育

國學 諸國之ヲ置ク

博士 一人

醫師 一人

助教

國郡司ノ經義ヲ解スル者ハ國ノ博士ノ外ニ教授ヲ兼ネシム。

國學生ノ定員ハ國ノ大小ニ依リ制限アリ、即チ左ノ如シ。

大國 五十人 上國 四十人

中國 三十人 下國 二十人

醫生ハ各五分ノ四ヲ減ズ。

國學生タルヲ得ベキ者ハ郡司ノ子弟(子孫弟姪)ニシテ十三年以上十六年以下ノ聽令ナル者ヲ取テ之ヲ爲ス。

國學生ハ國司之ヲ補ス。

國學ノ學期ヲ九年トス。

國司ニ於テ毎年學期ノ終リニ藝業優長ノ者ヲ試驗ス。

在學九年ニシテ貢舉ニ堪ヘザル者ハ之ヲ解退ス。

學生ニ經以上ニ通ジタル者ニシテ出デ、仕ヘンコトヲ願フモノハ試験ノ上太政官ニ送ル。

國學生ニ經ニ通ジ猶修學セント欲スル者ハ式部省ニ申送り試験ニ及第シタル者ハ進メテ大學生ニ補ス。

講説ニ不長ナリト雖モ其才秀才進士ニ堪ユル者ハ亦舉送スルコトヲ聽ルス。

書學生ノ寫書上中ナル者ハ貢スルコトヲ聽ルス。

學生ハ毎年五月ニ田暇九月ニ授衣ノ暇ヲ給ス。

學生ニシテ病氣又ハ父母ノ病患等臨時ニ休暇ヲ請フ者ハ國司ニ陳牒シ國司ニ於テ之ヲ量リ給フモノトス（以上學令、職員令ニ依ル）

九、地方經濟ノ方法即ち地方費用ノ徴収支出

地方經濟ノ方法ハ之ヲ諸書ニ徵スルモ漠トシテ得テ詳カニスベカラズ。然レドモ其大體ニ關スル綱要ヲ舉レバ蓋シ左ノ如クアリシナラン乎。

而シテ當時地方經濟ノ方法ヲ説クニ方テハ先ヅ左ノ一項ヲ記憶セザルベカラズ。

一 各國ノ正稅ハ總テ之ヲ其國ニ貯ヘ置キ國司ヲシテ之ヲ監督セシメタル事。

而シテ此ノ年々收ムル所ノ正稅ハ國司ノ管督ニ屬スト雖モ、國司ハ直接ニ之ヲ其國ノ經費ニ充ツルヲ得ズ。此ノ正稅ハ臨時一大國有ニ供スルガ爲メ貯蓄スルモノナレバ、國司若シ之ヲ支出スベキ必要アルニ方テハ必ズヤ官符ヲ請フテ後ニ支出セザルヲ得ザルモノトセリ。

故ニ地方經濟即ち一國ノ費用ニ關シテハ別ニ左ノ方法ヲ設ケテ之ヲ處辨シタルモノ、如シ。

- (一) 正稅ノ内ヲ割キ之ヲ人民ニ貸出シ其利ヲ收メテ臨時若クハ通常公用ニ充ツル事。
- (二) 正稅ノ内ヲ割クニハ各國一定ノ制限アリ、此制限ヲ超過スベカラザル事。
- (三) 貸付ノ利子ハ總テ十分ノ三即ち十束ニ付三束ノ割合タルベキ事。
- (四) 元利ハ毎年出納スベキ事。

以上ハ徴收方法ノ大要ナリ、而シテ此ニ最モ注意ヲ要スベキ事ハ其ノ費途ノ異ナルニ從テ貸出ノ制限ヲ異ニスベキ事是レナリ。其ノ費途ノ異ナルトハ如何、即ち左ノ如シ。

- (甲) 臨時ノ公用ニ充ツル者。
- (乙) 國衙ノ常用ニ充ツル者。
- (丙) 國內ノ雜用ニ充ツル者。

以上ハ一國費目ノ大綱ナリ。而シテ此ノ(甲)(乙)(丙)三費目ニ對スル貸出ノ制限ハ各相異ナルト雖モ(甲)ト(乙)トハ各國大概其制限ヲ同ウセリ。即ち(甲)ニ對スル貸出制限十五萬束ナレ

バ(乙)ノ制限モ亦十五萬東ナルモノ多シ、唯(丙)ハ(甲)(乙)ニ比スレバ大差異アルモノトス。而シテ今此ニ各國ノ此ノ三費目ニ對スル制限ヲ一々掲記セントセバ頗ル冗長ニ涉ルヲ以テ之ヲ略スト雖モ(甲)臨時ノ公用トハ如何(乙)國衙ノ常用トハ如何(丙)國內ノ雜用トハ如何ト云フノ點ニ就テハ大略之ヲ辯明セザルベカラズ。即其性質左ノ如クアラン乎。

(甲) 臨時ノ公用

右ハ文字ノ如クニシテ後世ノ今日得テ知ルベカラザレバ略ス。但シ多少ノ推測アリト雖モ姑ク贅セズ。

(乙) 國衙ノ常用

右ハ(第一)ニ官物ノ缺負未納ヲ補填スル事(第二)ニ國內ノ儲物ト爲ス事、毎年諸帳簿等ヲ携帶シテ上京スル官吏(之ヲ朝集使又ハ四度使ト云フ。四度使トハ年ニ四度上京スルノ謂ナリ)其他臨時上京ノ官吏又ハ運搬人足等ノ費用ニ充ツル事(第三)ニハ國司ノ役料即長官六分、次官四分、判官三分、主典二分、史生一分等ノ割合ヲ以テ(第一)(第二)ノ費用ヲ引去リタル殘分ヲ其國司ニ割付スル事等ニ充ツ。

而シテ(第二)國儲ト爲スニ付テハ割合ノ制限アリ。即總利十分ノ一ヲ割キテ此ノ(第二)ノ費用ト爲ス。此ノ(第二)ニ制限アル所以ハ(第三)國司ノ役料ヲ割付スルニ至テ國司ノ私食

ヲ防グガ爲メナリ。抑(第一)(第二)(第三)ト支出ノ順序ヲ設ケタルモ國司ノ私食ヲ防グニ外ナラザルナリ。

(丙) 國內ノ雜用

右ハ官舎修理費、道路橋梁費、堤防費、池溝費、牛馬牧畜費、救急費、藥分費、悲田費、施藥院費、俘囚費、驛家及驛子糧費、學生費、諸社寺費、兵卒費等ノ用ニ充ツ。

以上ハ(甲)臨時公用(乙)國衙常用(丙)國內雜用ト稱スル費目ノ性質ヲ大略ニ解釋シタルモノナリ。

サレバ之ヲ要スルニ地方官廳ニ關スル一切ノ費用ハ(乙)國衙常用ヲ以テ處辨シ、地方事業ニ關スル一切ノ費用ハ(丙)國內雜用ヲ以テ處辨シタルモノ、如シ。然レドモ畢竟ハ皆正稅ノ内ヲ貸出シ、其利ヲ以テ處辨シタルモノニシテ、其異ナル所ハ唯其貸出制限ノ多寡各同ジカラザルニ在リ。

而シテ令式ニハ(乙)國衙常用ニ對スル貸出ヲ公廩ノ貸出ト云ヒ(丙)國內雜用ニ對スル貸出ヲ雜稻ノ貸出ト云ヒ(甲)臨時公用ニ對スル貸出ヲ正稅ノ貸出ト云フ。又令式ニハ元ヲ出シテ利ヲ收ムル之ヲ出舉ト云ヘリ。然レドモ此ニ是等ノ文字ヲ用キザルハ直接ニ解シ易カラシメンガ爲メナリ。尙ホ終リニ臨ンデ試ニ左ノ約言ヲ掲グ。

國司ハ地方經濟ヲ處辨センガ爲メニ左ノ方法ニ從ヒ正稅ノ内ヲ貸出シ其利ヲ收メテ左ノ費用ニ供ス。而シテ其貸出ニハ各費用毎ニ其制限アリ、其制限ハ國司自由ニ之ヲ増減スルコトヲ得ズ。

(甲) 臨時公用ノ爲メニ貸出スベキモノ何萬束(令式之ヲ正稅ノ出舉ト云フ) 此利十分ノ三。

(乙) 國衙常用ノ爲メニ貸出スベキモノ何萬束(令式之ヲ公廩ノ出舉ト云フ) 此利同上。

(丙) 國內雜用ノ爲メニ貸出スベキ何萬束(令式之ヲ雜稻ノ出舉ト云フ) 此利同上。

十、地方經濟ヲ監督スルノ方法

地方經濟ヲ監督スルニ付テハ時々嚴重ノ法令ヲ下サレタルナリ。何トナレバ正倉其他ノ官物ヲ國司ニ一任シタルヨリ、其弊害百出殆ンド矯正スベカラザルノ場合ニ至リタレバナリ。故ニ其法令モ亦一ニシテ足ラザルガ如シ。然レドモ多クハ一時規戒ノ訓令ニ止ルモノニシテ、其監督ニ關スル基礎ノ方法ニ至テハ蓋シ左ニ掲グル所ニ過ギザルモノ、如シ。

○倉庫令

倉藏ノ給用ハ皆大政官符ヲ承ケヨ、要速ノ須給竝ニ諸國式ニ依テ給用スベキハ先ヅ用テ後ニ申セ、非理ニ缺損セバ所由ノ人ニ徵セヨ。

在外(國郡)ノ倉庫ハ巡察使出ルノ日即チ按行セシム。

倉藏外文案ノ孔目ハ專當ノ官人交代ノ日竝ニ相分付シ然ル後放還セヨ。

倉藏受納シ後ニ於テ出シ給フニ若シ缺アラバ均ク給納(前後)ノ人ニ徵セヨ。已ニ分付ヲ經バ後人ニ徵セヨ。

○元明帝和銅元年閏八月十日官符。

國郡司等ハ各稅文及倉案ニ其人時定倉ヲ注セヨ(後檢校シ缺レバ連署スル所ノ人ヨリ徵ス)

○聖武帝天平二年四月十日太政官符。

稅帳ヲ進ル日ハ倉別ニ主當官人ノ名ヲ署セヨ。

○桓武帝延曆四年七月廿四日勅。

國司若シ正稅ヲ犯用スルコトアラバ余官モ同ク坐シテ竝ニ見任ヲ解キ永ク叙用セサレ、贓物ハ共ニ填納セシメヨ、死ヲ免ジ赦ニ逢フノ限ニアラズ。遞ニ相檢察シ違犯ヲ爲スコト勿レ。其郡司和シテ許スモ亦國司ニ同セヨ。

○民部式

正稅ヲ用フル者十束以上ハ皆内印ヲ請フベシ。正稅帳ヲ進ル者ハ皆二月二十日以前ヲ限リ官ニ申送スベシ。

○主稅式

諸國貯所ノ正税ハ官ニ申スニ非ザルヨリハ出舉スルコトヲ得ズ（出舉ハ皆類稻ヲ以テスルヲ例トスレバナリ）

右ノ外官物ヲ燒失若クハ漂損セシ等ノ場合ニ關スル規定數多アリト雖モ此ニ贅セズ。

然リ而シテ以上ノ規定ハ大率地方平常ノ出納取締上ニ關スルモノナルガ如シ。因テ更ニ地方官吏交迭ノ場合ニ於テ其經濟ノ當否如何ヲ監察スルノ方法ヲ示セバ大略左ノ如シ。

地方官吏交迭ノ場合ニ於テハ其官物出納ノ當否如何ニ對シテ解由狀ナル者ヲ付與セリ、蓋シ此解由狀ヲ得ザレバ其地方官吏ハ前任ニ對スル責ヲ免レザルモノトス。

故ニ約シテ解由狀ノ性質ヲ云ヘバ、其地方經濟ニ對スル責任ヲ解クノ證據トモ謂フベキ乎。其定例一二ヲ左ニ掲グ。

○桓武帝 遷任ノ國司及新任ノ人分付受領百二十日ヲ過ギハ見任ヲ解任シ、并テ俸料ヲ奪フ。但シ五位以上ノモノハ勅文ニ依リ重テ位祿食封ヲ奪フ。

○平城帝大同二年 交替對檢ノ日情ニ穩カナラザルコトアラバ所執ヲ不與解由ノ狀ニ載セ、前後國司共ニ署シ限内ニ言上シ彼是各申シ請フコトヲ得ズ。

○同四年 交替ノ日未ダ解由ヲ與ヘザル前ニ遺漏ノコトアルヲ發覺シタルトキハ一度之ヲ舉シ追改スルコトヲ得。

解由ヲ與フルノ後尙遺漏ノ雜事アルトキハ即チ署人ヲ罪シ兼テ填償セシム。

○嵯峨帝弘仁七年 解由狀ニハ後司并ニ前司ノ解任遷任ヲ記スベシ。

○仁明帝承和十五年 缺負未納等ニテ解由ヲ得ザル者ハ京ニ入ルコトヲ許サズ。

○宇多帝仁和四年 前司以往ノ雜事未ダ辨濟セザルト雖モ後任ノ人ヲ拘絆スベカラズ。

○同帝寬平七年 交替ノ程限ヲ定メ之ヲ六分トシ、其四分ヲ付領ノ期トシ、一分ヲ所執ノ程トシ、一分ヲ繕寫署印ノ限トス。

○醍醐帝延喜二年 若シ止ムヲ得ザル事アル場合ニ於テハ一度ビ延期スルコトヲ許ス（式）

諸國解由ヲ進ムルノ期限ハ長官ハ百二十日任用六十日ヲ限リトス。

但シ長官任用、同時ニ解任スルモノハ交替了ルノ後長官ト共ニ其與不ノ狀ヲ言上セシム。

交替分付若シ期限ニ過グベキ者ハ狀ヲ具シ官ニ上申スベシ。

要スルニ解由ハ前國司解任ニ因リ新國司交替ノ時事務ヲ對檢シ、前國司執務上ニ付差闕ナキ時新國司ハ前國司ニ解由ヲ與フルコトヲ證明シ、守以下目以上連署ノ上太政官ニ上申スルモノナルガ如シ。

十一、行政處分其他官吏ニ對スル願訴

行政處分其他官吏ニ對スル願訴ノ方法ハ當時明細ニ規定スル所アルヲ見ズ。然レドモ其事ノ官民ノ間ニ係ルト、人民相互ノ間ニ係ルトヲ問ハズ、人民ノ冤枉ヲ免レシメンガ爲メニハ時々一二ノ規定ヲ設ケラレタルコトモ亦往々史上ニ散見スル所ナリ。然レドモ其規定タル多クハ朝廷ノ門前等ニ鐘匱ヲ設ケテ直訴セシメタル等簡單ノ方法ニ過ギズ。即チ後世ノ所謂目安箱ニ類似シタルモノナリシガ如シ。而シテ此等ノ方法タル多クハ令式確定以前ニ止ルモノニシテ、其以後ニ在テハ亦左ニ掲グルモノニ過ギザルガ如シ。因テ其成文一二ヲ舉グ。

(令) 若シ官人ノ害政及抑屈アル者ヲ告言セバ彈正之ヲ受推セヨ。

孝謙帝天平神護二年五月二柱ヲ中ノ壬生門ノ西ニ樹ツ。

一曰、凡ソ官司ニ抑屈セラル、者ハ宜ク此下ニ至リ申請スベシ。

一曰、百姓冤枉セラル、者アラバ宜ク此下ニ至テ申訴スベシ。

并ニ彈正臺ヲシテ其訴狀ヲ受ケシム。

以上ハ其方法ノ大要ナリ。然レドモ尙ホ巡察使等ノ性質ヲ按ズレバ地方官吏若クハ其行政處分ノ爲メ抑屈セラル、人民ノ痛苦ヲ觀察シ、宜キニ隨テ之ガ處分ヲ爲スモノ、如シ。サレバ又巡察使ノ如キモ其行政處分及官吏ニ對スル願訴ヲ受理スル一官吏ニシテ人民ノ冤枉ヲ伸バシムルノ一方法ナル乎、而シテ巡察使ノ事ハ地方官吏監督法ノ條下ニ略記シタレバ此ニ贅セズ。

十二、五保ノ制

五保ハ後世ニ所謂五人組ニシテ、其制ハ載セテ大寶ノ令ニ在リ。今其大要ヲ掲グ。

戶令ニ載スル所ノ全文ヲ舉グレバ凡ソ戸ハ皆五家相保シ、一人ヲ長トセヨ、以テ相檢察シテ非違ヲ造スコト勿カラシメヨ、如シ遠客アリ來リ過ギテ止宿センカ、及ビ保内ノ人行キ詣ル所アラバ茲ニ同保ニ語リテ知ラシメヨ。

凡ソ戸逃走セバ五保ヲシテ追訪セシメヨ、三週マデニ獲ザレバ帳ヲ除ケ其地ハ公ニ還セ、未ダ還ラザルノ間ハ五保及ビ三等以上ノ親、均分シテ佃リ食シメ租調ハ代テ輸セ、戸内ノ口逃ケタラバ同戸代テ輸セ、六年マデニ獲ザレバ亦帳ヲ除ケ地ハ上ノ法ニ准ゼヨ。

又公式令ニ載スル所ヲ舉グレバ、

凡ソ保ニ責フベキ者ハ皆五人ヲ以テ限トセヨ。

以上ハ大寶令中ニ載スル所ナリ。其他別ニ規定スル所アルヲ見ズ。而シテ前記ノ令文中ニ所謂非違トハ如何ナル所業ヲ指セシモノナル乎ヲ尋ヌルニ、其意義固ヨリ廣シト雖モ多クハ戶令中ニ記載セラレタル規定ニ違背シタル所業ヲ謂フモノナラン乎。戶令ニ記載セラレタル規定ハ頗ル廣ケレバ此ニ略ス。

結論

日本中古地方制度ノ如何ヲ按ズルニ諸書錯雜、頗ル多端ニ涉ルヲ以テ一概ニ之ヲ論ズベカラズト雖モ、試ニ其大體ニ就テ之ガ觀察ヲ下セバ左ノ如キ状態ナリシナラン乎。

行政區畫ハ國郡里ノ三段ニ分チ、國ニハ守、介、掾、目四等ノ國司ヲ置キ、郡ニハ大領、少領主政主帳四等ノ郡司ヲ置キ、里ニハ里長ヲ置キ、以テ其行政ニ關スル一切ノ事務ヲ處辨セシメタルモノ、如シ。而シテ行政區畫ノ編制法ハ令文定ムル所アリト雖モ、皆其土地ノ便宜ニ從ヒ其大小ヲ定メラレタルモノニシテ、國郡司里長ノ設置法モ亦其土地ノ大小ニ依テ之ガ多少ヲ定メラレタルモノ、如シ。サレバ當時行政區畫法ト官吏設置法トハ頗ル其宜キヲ得タルモノニシテ、人民ハ別ニ之ガ爲メ不便ヲ感ゼザリシモノ、如シ。

而シテ當時地方行政法ノ上ニ就キ其利害果シテ如何ナリシ乎ヲ觀察スルハ一大必要ノ事項トス。然ルニ今之ガ觀察ヲ下サントセバ、先ヅ國司ノ權限如何ナリシ乎ヲ知ラザルベカラズ。何トナレバ國司ハ當時地方行政官吏ノ最上長官ニシテ、一國人民ノ休戚總テ此レニ依テ消長スベキモノナレバナリ。

蓋シ國司ノ權限ハ令式之ヲ明記スト雖モ、今約シテ之ヲ言ヘバ頗ル廣大ナルモノニシテ、一國

一切ノ事務ハ總テ其職權ヲ以テ之ヲ處辨スルコトヲ得タルモノ、如シ。サレバ當時ノ人民タル是ガ爲メニ受ル所ノ利益ハ固ヨリ少カラザルベシト雖モ、又是ガ爲メニ受ル所ノ損害モ甚少カラザリシ事ハ今更ニ贅言ヲ俟タザル所ナルベシ。而シテ今其受ル所ノ利益如何ハ暫ク之ヲ措キ、其受クル所ノ損害ハ如何ナリシ乎ト云フノ點ニ就キ之ヲ講究センニ、先ヅ地方經濟法如何ノ點ヨリシテ之ヲ講究セザルベカラズ。即チ當時地方ノ經濟ハ如何ナリシ乎、國司ハ地方經濟ニ付テハ如何ナル權限ヲ有セシ乎ノ點ヨリシテ之ヲ講究セザルベカラズ。是レ地方人民休戚ノ繫ル所ハ最モ其經濟如何ノ一點ニ存スルヲ以テナリ。

今之ヲ諸書ニ證徴スルニ、當時地方ノ經濟ハ總テ之ヲ國司ニ一任セラレタリ。而シテ其之ヲ一任セラレタリト云フベキ重ナル點ハ、一切ノ租稅ヲ舉ゲテ之ヲ其國ニ貯積シ、國司ヲシテ之ヲ監督セシメラレタルヲ第一トシ、此租稅ヲ割テ之ヲ貸出シ、其利ヲ收メテ一切ノ國用ヲ支辨センガ爲メ國司ヲシテ其事務一切ヲ處理セシメラレタルヲ第二トスベシ。而シテ此ノ第一第二ノ經濟法ヲ國司ニ一任セラレタルニ付テハ、如何ナル結果ヲ地方人民ニ來セシ乎ト云フニ、第一一切ノ租稅ヲ其國ニ貯積スルノ法ニ付テハ隨分嚴密ノ法ヲ立テラレシモノ、如クナレバ、別ニ是ニ對スル利害モ生ゼザリシナルベシト雖モ、第二此租稅ヲ割テ之ヲ貸出シ、其利ヲ收メテ一切ノ國用ヲ支辨スルノ法ニ至テハ、之ガ爲メ生ズル所ノ弊害ハ實ニ枚舉スルニ遑アラザリシガ如シ。今其弊害

ノ一二ヲ舉グレバ、第一最初ハ言ヲ國用支辨ノ貸出ニ托シテ貯積ノ租稅ヲ濫出セシ事、第二濫リニ貸出ノ法ヲ行フガ爲メニ人民ハ其元利ヲ償フニ苦ミ、往々離散ノ慘況ニ陥リシ事、第三官ノ貸付ヲ名トシテ自己ノ所得ヲ貸付ケ、濫リニ其利ヲ貪リシ事、第四貸付利子ニハ其制限アルニモ拘ラス窃カニ其利ヲ高フシテ之ガ所得ヲ貪リシ事、第五貸出ノ利得ハ之ヲ支出スルニ一定ノ順序アリシニモ拘ラズ先ヅ自己ノ役料ヲ引去テ之ガ爲メ國用ノ支辨ニ缺乏ヲ告ゲタル事等是レニシテ、此等ノ弊害ハ直接ト間接トヲ問ハズ、皆人民ノ頭上ニ苦痛ヲ與ヘタルコト固ヨリ言ヲ待タザル所ナリシナルベシ。サレバ歷代ノ帝王或ハ租稅ヲ割テ貸出ス所ノ元高ヲ定メ、或ハ嚴ニ利子ノ制限ヲ立テ或ハ自己ノ所得ヲ貸付ルヲ禁ジ、或ハ貸付利得支出ノ順序ヲ嚴ニシ、或ハ利得支出ノ割合ヲ定メ、或ハ官物濫用ノ處分法ヲ設クル等種々ノ法令ヲ出シテ以テ此等ノ弊害ヲ豫防セントシタル事歴々諸書ニ載スル所ナリ。然レドモ已ニ國司ニ此等經濟ノ大本ヲ一任シタル上ハ如何ナル法令ヲ發スルモ此等ノ弊害ヲ防遏スルニ足ラズ、國司ハ益々其私慾ヲ逞フシ、人民ハ倍々其苦況ニ陥リシモノノ如シ。蓋シ此等ノ弊害ノ生ゼシ所以ハ他ニモ原因アリシナルベシト雖モ、恐ラク國用支辨ノ爲メ租稅ノ内ヲ貸出シ、其利ヲ收得シタルニ職由セズンバアラズ。當時貸付法ヲ以テ一國ノ經濟ヲ處辨シ得ルハ良法ノ如シト雖モ、亦百千弊ノ泉源ハ此法ニ在リト謂ハザルベカラズ。人民ハ此泉源ニ依リ殆ト漂蕩セラレタルモノト謂ハザルベカラザルナリ。是レ之レヲ當時地方經

濟上ニ現出シタル一大弊害ト謂フ。然リ而シテ當時中央政府ハ此等ノ弊害ヲ防遏センガ爲メ種々ノ法令ヲ出セシコト前已ニ記スルガ如シト雖モ、一體地方官吏即國郡司ヲ監督センニハ如何ナル法ヲ以テセシ乎ト云フニ至テハ又詳ニ之ヲ講究セザルベカラズ。何トナレバ地方官吏ノ屬スル所、即チ直接所屬ノ長上官衙ハ民政部又ハ式部省ニシテ、此等ノ各省ハ地方官吏ノ治績如何ヲ考察シテ之ヲ黜陟スベキ所ニシテ、地方官吏ノ監督ハ一切此等ノ各省ニ在ルガ如シト雖モ、又時々直接ニ此等官吏ノ功過行狀ニ對シテ之ヲ監督スルノ官吏及其方法ナカルベカラザレバナリ。因テ今其監督方法如何ヲ按ズルニ、其方法種々アリシナルベシト雖モ、大體二様ノ方法ヲ以テ之ヲ監督シ來リシモノ、如シ。二様ノ方法トハ何ゾヤ、蓋シ左ノ如シ。

國司郡司ヲ監督スルニ二様ノ方法アリ、一ヲ按察使ノ派遣トシ、一ヲ解由狀ノ付與トス。蓋シ按察使ナルモノハ其時代ニ依テ其名稱ヲ異ニシタリト雖モ、其之ヲ設クルノ主意ハ專ラ國司以下ノ功過行狀即チ其私行上ハ勿論政治上ノ行爲如何ヲ觀察シテ之ヲ中央政府ニ具申シ、中央政府ハ其具申ヲ參考シ以テ之ヲ黜陟スルモノナレバ、國司等ノ地方官吏ニ取テハ最モ恐ヲ抱ク所ノ職權ヲ有スル者ナリ。又解由狀ナルモノハ國司交替ノ時新舊國司立會ノ上、其國ノ經濟上等ニ於テ不正若クハ失錯ノ所行ナケレバ之ヲ付與スルモ、不正若クハ失錯ノ所行アレバ付與セザルモノニシテ、舊國司ハ其解由狀ヲ得ルニアラザレバ其國ニ對スル責任ヲ離ル、コトヲ得ズ。又交替スベキ

日ヨリ百二十日以内ニ解由狀ヲ得ザル國司ハ其官職ヲ免ズルノミナラズ、終身官ニ任ズルコトヲ得ザル杯、解由狀ヲ得ルト得ザルトニ付テハ最モ國司ノ進退ニ關スルモノナリ。サレバ解由狀付與ノ方法モ亦是レ國司ニ取テ一大恐懼ヲ抱カシムルモノニシテ、此ノ二様ノ方法即チ按察使ノ派遣ト解由狀ノ付與トハ共ニ國司ノ頭上ニ一針ヲ與フルモノナリ。夫レ然リ、然ラバ當時國司ノ監督ハ隨分行届キタルモノニシテ、此等ノ方法アレバ亦別ニ弊害ノ生ズル事モ無カルベキニ似タリト雖モ、決シテ然ラズ。此等ノ方法ニテハ未ダ以テ當時國司ノ私貪汚慾ヲ防遏スルニハ足ラザリシト見ヘ、倍コソ前ニ記スルガ如キ弊害ヲ百出シタルモノナルベシ。顧フニ此等ノ方法モ實際ハ其法令ノ如ク嚴ニ實行セラレザリシニ由ルモノナラン乎。或ハ按察使ノ位階輕ク隨テ威嚴薄ク、之ガ爲メ國司ノ輕蔑ヲ免レズ、故ニ之ヲシテ更ニ重カラシメン杯ト云ヘル上奏モ史上ニ散見シ、又解由狀ニ付テハ舊國司ト新國司ト私和シテ其交替ノ諸式ヲ忽ニシ、爲メニ後日ノ紛紜ヲ來スガ故ニ宜ク是等ノ處分ヲ嚴ニスベシ杯云ヘル上奏モ史上ニ散見セリ。サレバ兎ニ角此等二様ノ方法ニテハ地方經濟ノ監督ヲ盡シタルモノトハ言ハレ難キニ似タリ。故ニ以テ考フレバ地方經濟ノ監督モ未ダ十分ニ實行セラレザルモノニシテ、其實行セラレザルノ結果ハ遂ニ人民ノ頭上ニ及ボシ、爲メニ前已ニ記載シタルガ如キ弊害百出セシモ到底之ヲ防遏スルニ由ナカリシ所以ナル乎。是レ又之ヲ當時地方經濟上ニ現出シタル弊害ナリトス。

以上ハ當時地方經濟法ノ如何ト、又其監督法ノ如何トニ付キ其狀態ト利害トヲ略述シ、聊カ付スルニ愚見ヲ以テシタルモノナリ。是ヨリ進ンデ地方行政上一般ノ利害得失ニ付略述スル所アラシ乎。否調査未ダ十分ナラザレバ姑ク此ニ之ヲ省キ、更ニ是ヨリ一步ヲ進メテ當時人民ハ國郡司等ノ行政處分ニ付毫モ願訴權ノ如キモノヲ有セザリシヤ、將タ之ヲ有セシ乎ノ點ニ付キ聊カ之ヲ講究セントス。蓋シ上意下達下情上通ハ當時ニ於テモ歷代ノ帝王最モ焦心苦慮シ給ヒシ所ナレバ、決シテ人民ノ口ヲ塞グ如キ法令ナキハ勿論、務メテ其冤枉ヲ伸バサシメントスルノ法令ヲ發セラレタル事ハ問々史上ニ見ル所ニシテ、一々之ヲ枚舉スルニ苦ムト雖モ、先ヅ其大綱ヲ舉グレバ、彼ノ令ニ彈正臺ヲ置カレ、若シ官人ノ害政及抑屈アル者ハ之ヲ彈正ニ告言スベシト規定セラレタル杯最モ其事ノ主モナルモノニシテ、又孝謙帝天平神護二年ニ至テハ二柱ヲ中ノ壬生門ノ西ニ樹テ、凡ソ官司ニ抑屈セラル、者ハ宜ク此下ニ至テ申訴スベシ、又百姓冤枉セラル、者ハ宜ク此下ニ至テ申訴スベシ杯規定セラレタル事モ其一班ナリ。サレバ當時ノ人民モ其地方官吏等ノ行政處分ニ對シテ願訴スベキ權利ヲ有スルコトハ勿論ニシテ、唯其細目如何ノ如キニ至テハ得テ之ヲ知ルニ由ナキノミト謂フベキ乎。又其各地方人民ノ冤枉ニ付テハ其官吏ニ對スルト人民相互ノ間ニ係ルトヲ問ハズ、總テ之ヲ前ニ記載シタル按察使ニモ告訴スルコトヲ得タルモノ、如クナレバ、先ヅ人民願訴ノ道ハ當時已ニ規定セラレタルモノト謂ハザルベカラズ。然レドモ當時ノ人民

タル果シテ此權ヲ實行シタルモノアリシヤ否ハ知ルベカラズ。然レドモ嵯峨帝弘仁二年九月二十四日ノ太政官符ノ文言中ニ「東海道ノ問民苦使式部大亟正六位上行紀朝臣廣濱等ノ解ヲ得ルニ曰ク、上總國諸郡ノ百姓ノ款ニ云々云々」トテ該地ノ百姓ガ土木工事上ニ付キ其國司ノ非義ヲ巡察使ニ上告シタル事ヲ載セリ。サレバ人民モ亦稀レニハ按察使等ニ對シテ願訴權ヲ實行シタル事モアリシナラン乎。然レドモ國司ノ漸次專横又ハ私慾ヲ逞フシタル事ハ此等ノ方法ヲ以テスルモ亦之ヲ防遏スルニ由ナカリシナラン乎。尙此等ノ方法ニ關シテハ調査ヲ遂ゲテ記載スル所アルベシト雖モ、本書中古地方制度大要ニ對スル總括ノ略論ハ大略此ノ如シ。蓋シ中古地方ノ制度ヲ熟讀深考スレバ純然タル官治ノ姿ニシテ、後世ノ鄉村ノ如キ自治體ヲ備ヘタル制度ニアラザルガ如シ。想フニ源賴朝幕府ヲ鎌倉ニ開キシ以來、庄園ノ制度諸國ニ行ハレ、官治ノ地方漸次鄉村民ノ自治ト變ジ、北條足利ノ時代ヲ經テ德川氏ニ至リ始メテ鄉村自治團體ノ姿ヲ發生シタルガ如シ。此等ノ結論ハ或ハ誤謬ニ出ル見解モ亦少カラザルベシ。幸ニ後世高識ノ匡正アラントコトヲ望ム。

德川氏鄉村制度大要

金子堅太郎 查

- 鄉村ノ構成
- 同ノ役員
- 同 役員ノ職務
- 同 役員ノ選命
- 同 役員ノ給料
- 同 自治ノ事業
- 同ノ經濟
- 同 經濟ノ監督
- 同ノ行政處分其他役員ニ對スル願訴
- 同 所屬ノ上等官廳

五人組ノ制

村方三役ノ性質

郷村ノ構制

郷村ノ構制ハ徳川氏ニ及ンデモ亦大寶令以來ノ慣例等ヲ因襲シ別ニ之ヲ改正セシ所ナキガ如シ。即チ郷村ハ郡ニ屬シタル行政區域ノ最小區域ニシテ人民集結ノ一團體ナリ。

(參考) 考徳帝大化二年凡五十戸爲里云々、聖武帝天平七年士民五十戸爲邑云々、是レ皆地方行政最小區域ノ濫觴ナリ。

郷村ノ役員

郷村ノ役員ニハ當時地方ニ由リテ其名稱ヲ異ニスト雖モ其實大差ナキガ如シ。
關東ニ在テハ

- (甲) 名主
 - (乙) 組頭
 - (丙) 百姓代
- 三人乃至五人
二人乃至三人

以上村方三役又ハ村役人ト稱ス (地方凡例錄)

(參考) 名主ハ所謂名田主ニシテ多ク田地ヲ有スルモノノ遺稱ナリシガ、後遂ニ一村ノ長トシテ村内ノ百事ヲ支配スルニ至レリ。

組頭ハ元來五人組ノ頭分ナリシガ、後遂ニ名主ノ下役トナリテ領主地頭ノ用向并村用ヲモ勤ムルニ至レリ (農政坐右)

上方ニ在リテハ、

- (甲) 庄屋
 - (乙) 年寄又ハ長百姓
- (參考) 庄屋ハ莊司庄官ノ類ニシテ私領庄園ヲ主トリシモノノ遺稱ナリシガ、後遂ニ一村ノ長ヲ指シテ庄屋ト云フ (農政坐右)

此ノ外西國ニ在テハ庄屋ヲ別當ト稱シ奥州邊ニ在テハ慶長元和ノ頃迄ハ之ヲ肝煎ト稱シタリ。(農政坐右)

又曾テ私領ニ在テハ大庄屋又ハ檢斷又總庄屋ナド稱シテ組下ノ庄屋ヲ支配スル世襲ノ村役人アリシガ享保年中之ヲ廢セリ (地方凡例錄)

郷村役員ノ職務

(甲) 名主

名主(庄屋)ハ左ノ職務ヲ掌ル者トス。

- 一、一村ノ取締リヲ以テ自任スル事。
- 一、百姓ヲシテ法度制禁ヲ守ラシムル事。
- 一、農桑ノ事ヲ奨励スル事。
- 一、租税ヲ徴收シ及ビ上納スル事。
- 一、道路堤防ヲ普請スル事。
- 一、諸役人馬ノ割付ヲナス事。
- 一、地所建物質入書入其他一切ノ奥書ヲナス事。
- 一、人別帳宗門帳五人組帳村明細帳村鑑帳取箇帳石高帳其他一切ノ諸帳簿ヲ整頓シテ支配役所へ出ス事。
- 一、檢見立合ノ事。
- 一、一村中ノ利害ヲ申立ツル事。(地方凡例錄、地方落穂集、地方大成)

(乙) 組頭

組頭ハ元來五人組ノ頭分ナリシカドモ後名主ノ下役トナリテ領主地頭ノ用向并ニ村用ヲモ之ヲ勤ムルニ至レリ (地方凡例錄)

(丙) 百姓代

百姓代ハ名主又ハ組頭へ百姓ヨリノ目付ニシテ村入用其他諸割賦物等ノ節ハ立合大高ヲ持タル百姓承知ノ上ハ小高ノ者申分ナキ爲ナリ。(同上)

郷村役員ノ撰命

(甲) 名主(庄屋)

名主(庄屋)ニ左ノ三種アリ。

(一) 世襲名主(庄屋)

此レハ數代連綿トシテ相續スルモノナリ。故ニ其父死シテ子尙ホ幼ナレバ組頭又ハ親戚ノ内ニテ之ガ後見人トナリ、以テ其職ヲ襲ハシメ、他ニ富饒ナル者アルモ決シテ此職ニ當ラシメズ。

(二) 種族名主(庄屋)

徳川氏郷村制度大要

此レハ一代勤又ハ年番勤トテ其家柄ヲ撰ミ此職ニ當ラシムルモノナリ。享保年中ニ始マル。
(二) 公撰名主(庄屋)

此レハ年番勤ヲ除クノ外其村ノ慣例ニ任セ(甲)總百姓相談ノ上先役ノ子ヲ願出ヅルモアリ
(乙)總百姓連印ノ上相當ノ者ヲ願出ヅルモアリ(丙)總百姓入札ノ上高札ノ者ヲ願出ルモ
アリ、専ラ總百姓ノ意向ニ任ズルモノノ如シ。

然レドモ願出ノ上料所ハ代官、私領ハ領主地頭役人篤ト吟味ノ上或ハ之ヲ認可シ、或ハ之ヲ
認可セズシテ第二若ハ第三ノ高札ノ者ニ命ズルコトアリ。又更ニ之ヲ改選セシムルコトア
リ。

其入札撰擧ノ法ハ記名入札ナリ、嚴封調印ヲ要ス。黨ヲ結ンデ入札シタルモノハ無効ナリ。
無印ノ入札モ亦無効ナリ。開札ノ時ハ必ズ組頭百姓代其他重立タル人々ノ立會ヲ要シ、印形
ハ必ズ宗門帳五人組帳ト突合スルモノトス。

撰擧ノ標準ハ人品村高身代相應ノ者トス(地方凡例錄)

郡縣要錄ニ庄屋名主ヲ申付ル事村中入札ヲ取り入札多キモノヲ申付ルコト定法ナリトアリ。

(乙) 組頭

組頭ハ公撰ニシテ病氣又ハ他ノ事故ニ由リ退役スル時ハ更ニ他ノ者ヲ撰ンデ之ヲ繼ガシム。

撰擧ノ法ハ入札又ハ總百姓ノ相談ヲ以テ之ヲ決ス。

撰擧ノ標準ハ筆算ニ達シ、人品宜ク高モ相應ニ持チ用立ツベキモノトス。

組頭ハ村方ニテ取極メ取締役所へ届出ル迄ニテ願出ヅルニハ及バズ。(地方凡例錄)

(丙) 百姓代

百姓代ハ公撰ニシテ撰擧ノ法ハ組頭ト同様ナリ。(同上)

郷村役員ノ給料

(甲) 名主

名主(庄屋)ノ給米ハ其割合左ノ如シ

村高百石以上三百石迄 二俵

同 三百石以上四百石迄 四俵

同 四百石以上六百石迄 五俵

同 六百石以上千石迄 八俵

千石以上之ニ準ジテ増加シ、小前ヨリ別段ニ取立テ之ヲ渡ス。

名主ノ引高ハ(引高トハ郷村費用ノ賦課ヲ免ル、モノ)廿石ニ限り、其他一切百姓同様ノ賦役

ヲ負擔ス。(同上)

(乙) 組頭

組頭給米ナキ村多シ、引高アリト雖モ定例ナシ。(同上)

(丙) 百姓代

百姓代ハ給米引高共ニ之レナシ。(同上)

郷村自治ノ事業

郷村ノ自治ニ屬スル事業ノ大綱ヲ舉グレバ蓋シ左ノ如シ。

(甲) 土木

(乙) 警察

而シテ當時ノ形跡ヲ察スルニ(甲)土木ト(乙)警察トノ二事業ハ其慣例法則等或ハ今少シク尋ヌベキモノアリ。

因テ(甲)土木(乙)警察ニ關スル法則慣例ノ大要ヲ左ニ掲グ。

(甲) 土木

道路橋梁其他用水水路等ノ普請方法ニ二種アリ、一ヲ公費トシ一ヲ民費トス。民費ニ係ルモノ

ハ所謂村方請持ナリ。

村方請持ノ道路橋梁ハ假令其都度支配所ヨリノ諭達ナキモ、村方ニテ丁寧ニ營造シ、若シ粗造ノ個所アレバ支配所ニ於テ其所ノ名主百姓ヲ科罰スルモノトス。(農政坐右、五人組帳)

落込縣込ハ請持ノ村方ニテ常ニ萱芝土俵等ヲ寄セ置キ出水ノ節戸前ノ開閉ニ注意スベキモノトス。(同上)

然シテ凡ソ堤塘川除用水道橋等ノ普請ニ關シテハ其年夏秋出水ノ形況ニ依リ秋末ニ至リテ其場所破損ノ輕重ヲ見合セ、村々ヨリ關所付ヲ以テ願出ル者トシ、此場合ニ於テハ村役人ヲ差出シ、巨細ニ檢分ヲ爲シ吟味ノ上之ヲ目論ムモノトス。(地方凡例係)

川筋ノ村々大水ノ時ハ名主以下惣百姓立出デ水防ニ從事シ、小破ナレバ村方ニテ普請シ、大破ナレバ支配役所へ申出ヅベキモノトス。(同上)

用水普請ニ係ル人足ノ出シ方ハ、古來高百石ニ付十人充其村方ヨリ差出シ其餘ハ扶持米ヲ渡シタル處、中古ニ至リ田畑培養ノ爲ニ起ル普請ナレバトテ百石ニ付人足百人ヲ出ス事トナリ、又普請ノ品ニ依テハ百人餘モ出ス事モアリタリ。其餘ハ扶持方ヲ渡シタル由、近來用水ノ分ハ村方普請多シ、然レドモ川除ノ分ニ至テハ古來官ノ費用タリシ由。(同上)

享保年中普請ノ事ヲ改正セラル。其大要左ノ如シ。

村方百石 五十人村役人足

同 五十人扶持米人足(但シ一日一人玄米七合五勺)

右百石百人ノ外ニ悉皆賃錢人足(但シ一日一人玄米一升七合)

右米ハ其國其所ノ下米値段ヲ以テ代金ニテ相渡セリ。(同上)

坑木ノ長サ九尺末口三寸以下ハ何本ニテモ其村方ヨリ差出セリ、尤九尺以下タルトモ末口三寸

五分以上ハ代永ヲ渡シ、又末口三寸以下ニテモ長サ九尺以上ハ代永ヲ渡シ、又竹繩空俵鹿朶ノ類

ハ總テ代永ヲ渡サル、モノノ定法ナリ。

此外國役普請ナルモノアリ、此費ニ對シテハ普請出願ノ村方ニテハ其半數ヲ負擔シ、殘數ノ一分

ヲ私領シ、九分ヲ國役割トスルモノノ如シ。然レドモ其文意詳カナラズ。因テ試ニ之ヲ左ニ掲グ。

國役普請出金ノ割方ハ目論見金高ノ内普請願ノ村方ハ高百石十兩ノ當リハ私領出金殘金ノ内一

分通り村方五百石官費九分國役割ニ成ル、假令バ

私領普請願ノ村方

一普請金百兩此譯

(村高百石十兩當リ)五十兩私領出金(殘金廿兩ノ三分通り)五兩官入用(同上九分通り)

四十五兩國役割(同上)

此書編成ノ後國役割ニ付地方叢書中ヨリ左ノ令文ヲ得タレバ此ニ追加ス

國役割普請ノ事諸國ハ統私領ノ名

ノニ割付テ宛私領出金一引キ御入用九通リニ國役割外ニ成ルナシ

(乙) 警察

凡ソ違法ノ者アレバ五人組ヨリ之ヲ告訴スルモノトス。

惡徒若クハ不審ノ者アルトキハ一村出合ヒ逮捕ノ上支配所ニ告訴スルモノトス。

盜品ハ速ニ之ヲ届出テ嫌疑ノ者アラバ又之ヲ密告スルモノトス。

盜品ヲ發見セバ名主五人組立會ヒ嚴重ニ詮議シ、輕忽ニ付シテ盜品及盜人ノ踪跡ヲ失フベカラ

ザルモノトス。

逃亡人入來ルトキハ取押ノ上告訴スベキモノトス。

不審ノ者ハ勿論一人ノ者ニ宿泊セシムベカラズ、不得已者ハ名主等立會ヒ詮議ノ上證人ノ手形

ヲ取ルモノトス。

負傷人入り來リ又ハ村内ニ之アルトキハ告訴スルモノトス。

行倒人アラバ乞食非人ヲ問ハズ其姓名國籍及親戚等ヲ取糺シ、看護ノ上速ニ之ヲ告訴スルモノ

トス。死亡スルトキ亦同ジ。

人ヲ殺シテ逃亡スル者アラバ隣村共ニ立會ヒ逮捕ノ上速ニ告訴スベキモノトス。

凡惡徒ハ何方マデモ之ヲ追跡シ逮捕ノ場所ニ告訴スベキモノトス。

失火アルトキハ男女ヲ論ゼズ一村出會ヒ消防ニ從事スベキモノトス。

鷹場ニテ鷹ヲ遣ヒ又制禁ノ鳥ヲ捕ル者アルトキハ追跡ノ上之ヲ告訴スベキモノトス。
宗門ノ制禁ヲ破ル者アラバ捕ヘ置キ直ニ告訴スベキモノトス。
世間騷擾ノ節ハ非常番屋ヲ置キ惡徒之レアルニ於テハ一村出會ヒ之ヲ逮捕スルモノトス。
濫リニ銃砲ヲ有シ恣ニ畜産ヲ害スル者アラバ告訴スベキモノトス。
馬盜ハ嚴重ニ監査シ追跡ノ上告訴スベキモノトス。
僞役人ノ類アルトキハ逮捕ノ上告訴スベキモノトス。(農政坐右、五人組帳)

郷村ノ經濟

- (甲) 各主役場筆墨紙代其他年中一切ノ費用。
 - (乙) 村方役人他所へ出張ノ費用。
 - (丙) 臨時ノ費用及莫大ノ費用。
- 以上記スル所ノ費用(甲)ハ白紙帳二冊ヲ製シ、此レニ當坐其品々ヲ明細記載シ、盆暮兩度ニ至リテ之ヲ計算シ一村ニ割付スルモノトス。
常用些細ノ費用ハ總テ役人ノ立替トス。
臨時及莫大ノ費用ハ其時々長百姓ノ相談ヲ要スルモノトス。

白紙帳ハ前書ニ名主以下總百姓ノ連印ヲ爲シ、毎年正月ヲ以テ支配役所へ差出シ、其押切印判ヲ受ケ後之ヲ使用スルモノトス。
費用記載ノ法ハ二冊同様タルベシ。
費用割付ノ法ハ石高二應ズルモノトス。
割付ノ時ハ長百姓等相會シ逐一検査ノ上百姓ノ得心ヲ要スルモノトス。
此帳ハ一冊共ニ翌春ヲ以テ支配役所へ差出シ其検査ヲ受ケ押切印刷ノ上一冊ヲ村方一冊ヲ役所へ留置クモノトス。

此ノ外費用ニ關スル帳簿ヲ造ルコトヲ得ズ。
又年貢ト村費用トハ混合シテ賦課スルコトヲ得ズ。總テ費用ニ關スル事ハ總百姓ノ得心ヲ要シ村役人ニ於テ我意ニ任ゼザルヲ定法トス。(農政坐石、地方凡例錄、五人組帳、地方大成)

郷村經濟ノ監督

郷村經濟ノ監督役ヲ百姓代トス。即チ百姓代ハ名主組頭ニ對シテ百姓ヨリ差出ス所ノ目附役ニシテ、村入用其他割賦物ノ節ハ其席ニ立會ヒ、名主組頭ニ私曲ナキヤヲ監督シ、若シ之レナケレバ其費用ヲ負擔スルコトヲ承認スル者ナリ。而シテ百姓代之ヲ承認シタル以上ハ他ノ百姓ニ於テ

申分之レナキモノトス (地方凡例録、郷村考)

郷村ノ行政處分其他役員ニ對スル願訴

郷村ノ名主及百姓ハ支配人其他添役人等ノ非分ヲ申立ルコトヲ得。

參照

支配人添役人等名主百姓ニ對シテ依怙最賈若クハ非分ノ所業アラバ名主百姓ハ之ヲ申立ルコトヲ得。

郷村ノ百姓ハ名主ノ專横壓制ヲ申立ルコトヲ得。

參照

年貢其他ノ割付ニ關シテハ名主一人ニテ之ヲ爲スコトヲ得ズ、若シ然ル時ハ直ニ之ヲ申立ルコトヲ得。

支配人添役人等ニ賄賂センガ爲メ名主ヨリ迫リテ百姓ニ金穀ヲ出サシメントスルトキハ百姓ハ之ヲ申立ルコトヲ得。

役人ヨリ貸借賣買ニ付キ強迫ノ所業アラバ之ヲ申立ルコトヲ得。

郷村ノ百姓ハ名主及五人組ノ私曲ヲ申立ルコトヲ得。

參照

名主若クハ五人組、私曲ヲ構ヘテ田畑質入書入ノ公證ヲ澁滯スル時ハ之ヲ申立ルコトヲ得。(右農政坐右、五人組帳摘要)

郷村所屬ノ上等官廳

郷村所屬ノ上等官廳ヲ代官役所トス。

(此ハ料所ニ就テノミ云フ、私領ハ即チ領主地頭ニシテ又領主ノ下ニハ所謂郡奉行若クハ郡代ナルモノアリ、此分、別ニ調査スル所アルベシ)

代官役所ノ役員小者及其給料

元縮手代 二人

各給料 切米三十俵五人扶持

平手代 八人

同 廿兩四人扶持ヨリ十五兩三人扶持迄

書役 三人

同 六兩三人扶持

徳川氏郷村制度大要

用人 一人

同 七兩二人扶持

侍 三人

同 四兩三人扶持

中間 七人

此レハ右ニ準ジ相渡スモノナリ

代官役所ノ經濟

役員給料

筆墨紙料

雜費

右等ノ費用ハ百姓ヨリ石高割ニテ之ヲ徵收スルモノトス。

其賦課方法ハ一定ノモノニシテ毎年之ヲ變換スルモノニアラズ。

又其賦課方法ハ國々ニ於テ異同アリト雖モ、凡高一石ニ付二升八合以上六升以下トス。

此納方ニ米納金納ノ別アリ之ヲ口米口永ト云フ。

而シテ此口米口永ハ鎌倉時代ヨリ徳川時代ニ至ルマデ諸代官直接ノ收納ナリシガ、享保年中ヨ

リ官ニ收納セシメ、而シテ代官役所ノ費用ハ皆其支配高ニ應ジ定額ヲ極メテ相渡スモノトセリ。
其定額ノ標準ハ左ノ如シ。

支配高五萬石

此定額費

金五百五十兩

内五十兩ハ檢實入用見積高

但一萬石ニ付百五十兩宛

米七十人扶持

但一萬石ニ付キ十四人扶持

此例ハ播磨以東諸國ノ代官役所ニ依ルモノニシテ、中國四國ハ一萬石ニ付百廿四兩米十四人扶持、九州ハ一萬石ニ付百四十兩米十四人扶持。

又支配高一萬石以下ハ三萬石分ノ定額ヲ渡シ、其他支配高端數五千石以上ハ一萬石ノ定額ヲ渡シ五千石以下ハ之ヲ渡サルモノトス。

高五萬石以上ハ一萬石ニ付金五十兩米十人扶持ノ割ヲ以テ其高ニ應ジ之ヲ渡ス。
一ケ年ノ定額金ハ二月七月十一月ノ三度ニ渡スモノトス。(地方凡例錄)

五人組ノ制

五人組ノ制ハ其源ヲ孝德帝ノ時代ニ行ハレシ五家相保ノ制ニ發セシナルベシト雖モ、其更定ハ果シテ何レノ時ニ在リシヤ之ヲ詳カニセズ。

其法ハ土方、關東、遠國、料所、私領ヲ問ハズ、凡テ一村ヲ五家宛ニ組合セ、其内一家ヲ長トシ、之ヲ判頭ト唱ヘ、以テ互ニ非違ヲ警戒セシメ、若シ組合ノ内法ニ背クモノアレバ他ヲシテ皆其責ニ任ゼシムルモノトス。是レ右五保ノ制ト大差ナキモノナリ。

組合ニハ必ず五人組帳ナル者アリ、是レ官私約束ノ條目ヲ記載シ各自調印シタルモノニシテ、毎年之ヲ支配所ニ差出スモノナリ。

村方三役ノ性質

徳川幕府時代ノ鄉村制度ヲ案ズルニ、鄉村ノ構制ハ古來ノ慣例ニ依リ別ニ之ヲ改定セシ所ナキガ如シ。即チ鄉村ハ郡ニ屬シテ行政區域ノ最小區域タルニ外ナラザル也。而シテ此鄉村ヲ支配スル者、即チ鄉村役民ノ組織ヲ尋ヌレバ曰ク三役アリ、之ヲ名主組頭百姓代ト云フ。今此等三役ノ性質ヲ察スルニ、名主ハ純然タル一鄉村ノ長ニシテ（所謂古ノ里長）組頭ハ之ガ補助役タル者ノ

如シト雖モ、百姓代ニ至リテハ然ラズ、全ク其性質ヲ異ニシテ名主及組頭ノ監督役タル者ノ如シ。而シテ尙ホ一步ヲ進メ組頭ノ性質ヲ案ズレバ、其外面ハ即チ名主ノ補助役ニシテ猶ホ一鄉村ノ次長タルガ如シト雖モ、其實體ニ至リテハ亦五人組ノ頭分タル者（所謂古ノ保長）ニ過ギザルコトハ其名稱ヲ以テ見ルモ知ルベキナリ。去レバ當時名主組頭及百姓代ノ三者ヲ以テ鄉村ノ三役ト稱スルニモセヨ、純然鄉村役員ノ名稱ヲ附ス可キ者ハ名主ノ一役アルノミトス。是レ蓋シ其給料ノ制ニ就テモ諒知スルコトヲ得ベキナリ。即チ名主ハ其高ニ應ジテ給米ノ制アリ、又其持高ニ準ジテ引高ノ制アリト雖モ、組頭ハ給米ナキ村多ク引高アリト雖モ定制ナク、百姓代ニ至テハ給米ナケレバ引高モ之レナキ者トス。是レ組頭及百姓代ノ名主ト其性質ヲ異ニスル所以ニシテ特ニ百姓代ハ其名ノ如ク全ク總百姓ノ代理者タルモノナレバナリ。又其撰擧ノ法ニ就テ視ルモ之ト同一ノ理ヲ發見スルコトヲ得ベシ。即チ名主ハ假令入札ヲ以テ之ヲ選舉スルニモセヨ、若シ其撰擧ニシテ當ヲ得ザルトキハ或ハ之ヲ改撰セシムルコトアリ、又ハ之ヲ撰擧セシメテ然ル後之ヲ命ズルコトアリト雖モ、組頭及百姓代ニ至テハ然ラズ、人民隨意ニ之ヲ撰擧シテ之ヲ依頼スルコトヲ得ルモノトス。サレバ鄉村役員ハ名主組頭及百姓代ヲ併セテ之ヲ三役ト稱スルトモ其實純然タルモノハ名主ノ一役ニシテ、他ハ何等ノ名稱ヲ以テスルニ係ラズ皆是レ百姓即チ人民ノ代理者トモ稱スベキ者ナルガ如シ。

然リ而シテ尙之ヲ實際上ニ要スルニ、名主庄屋モ半官半民ナレバ、組頭モ亦半官半民ニシテ、此二者共ニ大差ナシ。即チ半ハ行政官ノ手先ニ屬シ半ハ鄉村ノ理事者タリシガ如シ。何トナレバ收税等ハ全ク官吏ノ如クニシテ檢見立合ノ如キハ全ク人民ノ總代タリシ如クナレバナリ。

町村公債ニ關スル答議

普、墾、獨逸各邦其他歐洲各國ノ町村制ニ於テ、町村ニ公債ヲ起スノ權ヲ附與シ、其郡州ニモ亦此權ヲ附與セリ。然リ而テ之ヲ起スニハ自ラ制限アリ、通常監督官廳ニ於テ之ヲ許可スルノ權ヲ有ス。又他ノ町村制ニ於テハ公債ヲ起スベキ事項ヲ一定セリ。今其一例ヲ舉グレバ墾地利ノ町村制ニ於テハ租税ヲ以テ支辨スルノ不當ナルモノニ限り公債ヲ起シテ事業ヲ爲スヲ得ルトアリ。抑モ公債ヲ起スト起サルトハ通常町村會、郡會、州會ニ於テ議決ス。監督官廳(縣令内務卿)ハ町村ニ於テ契約ヲ履行セズ又ハ法律上ノ義務ヲ遵守セザル時ニ當リ權制執行權ヲ行ヒ其他町村ニ於テ公債ヲ起スノ際約束シタル利子ヲ拂ハズ、或ハ元金ヲ返却セズ又ハ之ヲ延引スル時ニ於テモ亦此權ヲ行フ。此權ヲ執行センニ義務者ナル町村ヲ強迫シテ其歲入出計算書ニ辨償スベキ金額ヲ記入セシメ、之ニ準ジ町村税額ヲ増課セシム。然ドモ條約上義務ヲ行フコトニ付爭訟アル時ハ固ヨリ通常裁判所ニ於テ之ヲ裁判シ、而シテ其執行ハ監督官廳ニ於テ之ヲ行フヲ常トス。若又町村ニシテ其義務ヲ履行スル能ハザルコトアルトキハ、監督官廳ニ於テ其辨償方法ヲ改定スルナリ。此場合ニ於テ町村租税、又ハ其他ノ金額ヲ以テ即時ニ辨償シ能ハザレバ、官廳ハ更ニ支拂フベキ

金額ト期日トヲ定メザルベカラズ。而テ公債持主ハ此延期ヲ承諾セザルベカラズ。抑モ裁判ノ執行ヲ通常裁判所ニ屬セズ、監督官廳ニ屬セシムル所以ノモノハ、公債ハ素ト町村ノ公共目的ニ必然缺クベカラザルヨリ起シタルモノナレバ、此金額ヲ以テ公債所有者ノ請求ニ供スベキ理由ナク、又裁判所ハ監督官廳ノ如ク如何ナル金額ノ町村ニ向テ缺クベカラザルモノナルヤ、如何ナル金額ノ辨償ニ供シテ可ナルヤヲ制定スルヲ得ズ。又自治體ノ租稅ハ如何程増課シ得ルモノナルヤ、又其滿期ノ請求額ハ一時ニ辨償スルヲ得ルヤ、又ハ數年ノ稅金ヲ以テ辨償スベキヤ等ヲ制定スルヲ得ザレバナリ。

抑モ自治體ナルモノニ此ノ如キ起債權ヲ附與スルノ必要アルヤ否ノ問題ニ付テハ、歐洲各國ニ於テハ自治體ニ此權利ヲ附與シ、又歐米各國ノ自治體ニ於テ此權利ヲ使用シタルノ事實ヲ以テ其必要ナル所以ヲ證センノミ。然リ而テ右ニ關スル法律ニ於テ公債ヲ起スニハ必ず監督官廳ノ許可ヲ要スルコトヲ定メタルハ、此權利ヲ濫用スルトキハ危害ヲ醸スノ恐レアルヲ豫防スルニ出デタルナラン。

今歐米自治體ノ公債ヲ起シタル理由ヲ明ニセン爲メ一二ノ場合ヲ舉示セントス。抑モ町村通常ノ支出ハ其收入及租稅ヲ以テ支辨スベキモノナレバ、之ガ爲メ公債ヲ募集スルヲ要セズ、公債ヲ起スハ特別ノ理由アリテ然ルナリ。例ヘバ爰ニ大都會アリ、中央ニ二大河アリ、渡船ヲ以テ交通

セシト雖モ、船賃ヲ徵收シ時間ヲ消費シ人畜物品ノ輸送ニ不便ナルヲ以テ、一大橋ヲ架設センニ巨額ノ費用ニシテ到底一ケ年ノ收稅ヲ以テ之ニ充ツベカラズ、漸ク十五年乃至二十年間ノ租稅ヲ以テ之ニ充ルヲ得ベシ。此時ニ當リ架橋ノ必要ナルコトハ衆人ノ認ル所トナリ、又經濟上ニ於テモ船賃ヲ出スニ比スレバ幾層ノ利益アルコト明瞭トナリ、又人民ノ安寧ヲ増進スル點ニ於テモ亦頗ル有益ナルトキハ町會ハ架設スルコトニ決議セザルベカラザルベシ。此場合ニ於テ此都府ニ別段ノ資財ヲ有セズ、又官府ノ補助ヲ受ケザルモノトセバ、架設費ヲ集ムルニ十五年乃至二十年間町村稅ヲ増課シ、以テ其費用ニ供スベキ金額ヲ積ムカ、又ハ公債ヲ起シ増稅法ヲ以テ之ヲ十五年乃至二十年間ニ辨償スルノ二途ニ出ザルベシ。然ルニ第一ノ方法ニ據ルトキハ十五年乃至二十年ノ後ニ架橋セラルレバ都府ハ其間空ク經濟上發達ノ妨ゲヲ受ケ、且架橋費ニ倍蓰スル所ノ船賃ヲ徒費セザルベカラズ。又今日納稅シテ架橋費ニ充タル者モ架橋落成ノ後ニ至ラザレバ其便利ヲ受ル能ハザルヲ以テ、之ニ對シ異說ヲ唱ヘ架橋ノ計畫モ無効ニ歸スルコトナシト謂フベカラズ。之ニ反シ第二ノ方法ヲ以テ架橋スルトキハ立ロニ其成效ヲ見ルヲ得ベク、又架橋ノ便利少ナカラズ。隨テ人民ノ納稅力ヲ増スヲ得、故ニ又人速ニ之ヲ同意スベシ。此場合ニ於テ自治體起債ノ權ヲ有セザルトキハ都民及一般ノ人民ニ必要ナル橋梁ヲ架設セラル、ニ至ラザルベシ。此ノ如キ公有物ハ素ト現在人民ノミノ便益ニ供スルニアラズ、却テ將來ノ人民ニ益スルコト居多ナレバ、公

債ヲ起シ其辨償ノ義務ヲ將來ノ人民ニモ負擔セシムルハ最モ至當ナルコトナリ。

其他一都府ニ於テ衛生上ノ點ヨリ水道ヲ建設シ、又築港ノ工業ヲ起シ、村廳ニ於テ其所屬未開墾地ヲ開拓スル等ノ時モ右ノ如ク公債法ヲ以テ事業ヲ起スヲ上策トス。

又茲ニ縣若クハ郡アリ、毎年四十萬石ノ米ヲ輸出スルトセンニ、道路ノ粗惡ナルガ爲メ最近ノ海港若クハ停車場マデ運搬スルニ一石ニ付一圓半ノ運賃ヲ拂ハザルベカラザレドモ、新道開鑿アル時ハ運賃一石ニ付僅ニ半圓トナルベキ時ハ、其地方人民ニ四十萬圓ノ利潤ヲ來スベシ。然ルトキハ隨テ土地ノ價ヲ高クシ、人民ノ興業ヲ促シ、其他萬貨運輸ノ便ヲ増スベシ。此時ニ當リ新道開鑿費巨額ニシテ通常ノ租稅ヲ以テ之ニ充ツベカラズトセバ、公債ヲ起シ以テ其事業ヲ大成スル可ナリ。

其他瓦斯燈ノ設置、排水、運河ノ工事、病院瘋癲病院、聾啞院、眼科院、學校、會議院、博物館、書籍館等ノ建築、道路ノ築造、唧筒ノ買入、土地ノ改良山林ノ培養、工場ノ設置等ニ付テモ公債ヲ起スノ必要ヲ生ズベシ。此ノ如キ必要ノ場合ニハ一豫定スベカラズ。若シ歐米各國ニ於テ自治體ニ公債ヲ起スノ權ヲ附與セザリシナラバ、決シテ今日ノ旺盛ニ至ラザリシナラン。若シ然ラザルトキハ慈善ニ關スル公舎、水道、學校、公ケノ建物等モ存セズ、又運輸ノ便ヲ缺キシナラン。或ハ此ノ如キモノヲ建設セザリシトキハ之ガ爲メ費シタル所ノ金額ヲ貯蓄スルヲ得ルモ

知ルベカラズト雖モ、却テ格別緊要ナラザル事業ノ爲メ金ヲ費シ以テ一般ノ安寧、衛生、教育等ノ進歩ヲ妨グル疑ヒナカルベシ。

凡ソ町村及其他ノ自治體ヲ問ハズ、公債ヲ起スノ必要ヲ生ズルハ理ノ當ニ然ルベキ所ナレバ、之ニ起債ノ權ヲ附與スルハ固ヨリ當然ナリ。然レドモ公債ハ非常ノ事アル時ニノミ當リ起スベシ。決シテ通常ノ事務ニ使用スベカラズ。各自治體ノ經費支出ハ其收入又ハ租稅ヲ以テ支辨スベシ。若シ年々循環スル所ノ支出、例ヘバ吏員ノ給料、筆墨料又ハ道路、水道、學校、公園、瘋癲病院等ノ修繕費ヲ支辨スルニ公債ヲ以テスルトキハ、其負債嵩ミテ爲ニ自治體ノ倒産ヲ來スベシ。然ルトキハ現在人民ノ便益ヲ計ルガ爲メ責任ヲ將來ノ人民ニ殘スニ至ルベシ。故ニ公債ハ現時殊ニ將來ノ人民ノ便益トナル事業ニ限リ募集スルコソ正當ニシテ又經濟主義ニ適合スルモノト云フベシ。抑モ公債ヲ起ストキハ利子ヲ拂ヒ元金ヲ償却セザルベカラザレバ、其皆濟ニ至ルマデ將來ノ人民ニ租稅ヲ課シタルト同一ノ理ナリ。果シテ然ラバ將來ノ人民此起債ニ付利益ヲ受ルニ至ラザレバ、彼ノ租稅ハ不當ノ租稅ナリト云ハザルベカラズ。若シ公債ヲ起スニ此點ニ注意セザルトキハ將來ノ安寧ハ現世利欲ノ爲メ妨害セラル、ニ至ルベシ。是ヲ以テ國家ハ此危險ヲ避ル爲メ公債ヲ起スニハ必ず監督官廳ノ許可ヲ受クベシトノ法律ヲ設ケタリ。監督官廳ハ當ニ之ヲ許否スルノ權ヲ有スルノミナラズ、又其使用法ヲ監督シ、必ず公債ヲ起シタル事業ニ向テノミ之ヲ使

用セシメ、決シテ他ニ流用スルヲ許サザルナリ。

以上自治體ニ起債權ヲ附與スルノ理由ハ亦日本ニモ適當スベシ。唯日本ノ事業ハ容易ニ落成シ、其時日ノ費モ鮮少ナレバ隨テ公債償却期限モ短縮スル方相當ナラン。又日本ノ人民ハ公事ニ關シ未ダ自治ノ精神ニ乏シケレバ、監督官廳ノ監督權ヲ廣クシ以テ格別必要ナラザル事業ノ爲メ公債ヲ起スコトヲ防ガシムルコト肝要ナリ。日本ニ於テハ自治體ノ公債ヲ起スニ當リ、其他ニ一ノ注意スベキ原由アリ、是レ他ニアラズ、目今日本金利ハ貴ク、金融ハ逼迫スルノ時ニ際シ、各地ノ町村ニ起債ノ權ヲ許スヲ好機トシ、一時ニ公債ヲ起スニ至ルトキハ益金融ヲ閉塞シ、彌ヨ利子ヲ騰貴スベシ。今日ニ於テスラ金利ハ高ク金錢ハ少ク爲ニ小殖産者ノ倒産ヲ來シ、又農民ハ米價ノ低下ト地租ノ高貴トニ困苦スルニ、尙利子騰貴シ金融逼迫スルトキハ一國ノ困窮ヲ來シ其不幸甚シキニ至ルモ知ルベカラズ。

前世紀及本世紀初代ノ經濟學者ハ、國家及自治體ノ公債ヲ非難シ、其證據トシテ公債ヲ起シタルガ爲メ損害ヲ受ケタル所ノ國家及自治體ヲ引用セリ。實ニ埃及土兒格及一二ノ自治體ノ如キハ公債ヲ起シ爲ニ經濟上ノ困難ヲ來セリ。然レドモ此諸國ハ國ノ富饒ヲ生ズベキ事業ニ付公債ヲ起サズ、專ラ宮殿ノ築造等奢侈ノ用ニ供セリ。若シ之ヲ鐵道ノ建築、道路ノ新開、土地ノ改良其他緊要ノ事業ニ供セシナラバ、其負債アルニモ係ラズ、善良ノ地位ヲ保チシナラン。凡ソ邦國自

治體若クハ一家ノ經濟ハ負債ノ有無又ハ其多少ヲ以テ其貧富ヲ判ズベカラズ。今爰ニ人アリ十萬圓ノ債ヲ負フト雖モ、地所家屋等ニ於テ一萬五千圓ノ實價ヲ有スルトセンニ、之ヲ財產及負債ヲ共ニ有セザル所ノ者ニ比スレバ遙ニ善キ地位ニ立チ且富饒ナリト云フベシ。又爰ニ一人アリ其父ヨリ二萬圓ノ遺産ヲ受ケタリトセンニ、之ヲ其子ニ讓ル時二十萬圓ノ負債ト十八萬圓ノ地所家屋ヲ遺シタリトセバ、其子ハ大ナル債ヲ負フニモ係ハラズ、其父ノ曾父ニ遺物ヲ受ケタル時ヨリ四倍ノ遺産ヲ受ケタリト云フベシ。其他自治體及邦國ニ於ケルモ亦然ラザルナシ。

普國自治體ノ負債ニ付テハ其統計表ヲ有セザルヲ以テ今佛國町村債ノ金高ヲ「カラフマン」氏ノ著書中ヨリ抄出シ、以テ歐洲町村公債ノ一斑ヲ揭示セリ。

佛國町村公債ノ金額ハ一千八百七十七年ノ調査ニ依レバ七億五千七百四十七萬八千三百法（巴里府ヲ除ク）ナリトス。又佛國町村ノ歲入ハ一ケ年四億零七百三十四萬九千九百十二法ナリトス。故ニ町村公債金額ハ凡ソ町村歲入ノ二倍ニ當ルナリ。又一千八百七十二年乃至一千八百七十七年間町村ニ於テ建築ノ爲メ起シタル公債金額ヲ見ルニ、實ニ四億五千百萬法ナリ。其中一千六百萬法ハ戶長役場、七千三百萬法ハ寺院及說教所、八千二百五十萬法ハ學校、九千九百五十萬法ハ道路瓦斯局及運河、一億一千萬法ハ里道、七千萬法ハ其他ノ建築ニ供シタリ。然リ而テ町村ノ建築ニ屬スベキモノハ未ダ完成ノ域ニ至リタリト云フベカラズ。一千八百七十七年ノ調査ニ依レバ、

佛國二萬六千有餘ノ町村ニ於テ戸長役場ノ數二萬七千七百六十二アリ。寺院ノ數三萬九千三百十四アリ。説教所ノ數三萬一千九百零五アリ。少年學校ノ數三萬千七百零四アリ。女學校ノ數一萬六千四百八十二アリ。中學校及高等學校ノ數四百零九アリ。書籍館ノ數一萬四千零八十三アリ。屠獸場ノ數八百零二アリ。屋内市場ノ數二千九百九十七アリ。墓地ノ數三萬八千零四十一アリ。病院ノ數一千六百零三アリ。又水道架設セル所ノ町村二千四百四十六、溝渠ヲ築キタル町一千五百三十九、街頭ノ設ケアル町二千五百零五アリ。其中七百二十六町ハ瓦斯燈ナリト云フ。

一千八百八十五年十月一日

カ、ルードルフ

自治施行ニ付テノ意見

自治制ヲ府縣及ビ郡ニ施行スルノ當否ヲ論究セントスルヤ、先其自治制ノ何タル所以ヲ論ゼザルベカラズ。抑自治トハ人民ヲシテ國ノ事務中ニ就キ、地方ニ於テ能ク爲ス事ハ之ヲ委任スルヲ以テ便利且適當トスルニ由ル者ニシテ、或論者ノ自治行政ノ區ハ政府ノ命令ヲ須タズシテ自治ニ其區ノ事務ヲ處理スルヲ得ルナリト云ヘルハ誤解ノ甚シキ者ナリ。然レバ自治ノ制ハ中央政府ノ親シク處理スルヲ要セザル事務ヲ地方人民ニ委シテ代辨セシムルニ在リト謂フ可シ。故ニ自治行政ノ事務ヲ擔當處理スル者ハ地方人民ノ公選ヲ以テ定メザルベカラズト雖モ、其擔任者ヲ認可スルノ權ハ政府之ヲ專有スルコト勿論ノコトナリ。是地方ノ自治ハ政府ノ命ヲ以テ地方人民ニ代辨セシムルガ故ナリ。然レバ市長ノ候補者ヲ推薦シ、上奏裁可ヲ請フノ制トナシタルハ此意ヲ貫徹セシムル者ナリ。仍テ郡制ニ於テ郡長ノ郡會議長ヲ擔任シ、一方ニハ政府ノ行政ヲ施行シ、一方ニハ自治ノ行政ヲ施行スルガ如キハ尤便利且適當ノ事ト云フ可シ。然ルニ府縣ニ於テ知事ノ府縣會議長ヲ擔任スルニ至テハ、歐洲各國其例ヲ見ザル所タルノミナラズ、其理ニ於テモ決シテアルベカラザル事ナリ。是郡ハ町村ノ自治ト府縣ノ行政トノ聯絡ヲ保維スル須要ノ地位ニ立ツ者ナ

ルガ故ニ、獨逸ニ於テモ郡長ハ郡會ノ議長ヲ兼テ政府ノ行政ト自治トヲ兩ナガラ擔當スルハ實際ニ徴シテ宜シキヲ得タル者ナリ。之ニ反シテ府縣ハ町村ノ自治ヲ專ラニスルガ如ク、國ノ行政ヲ專ラニスルヲ便利且適當トスベキ者ナレバ、知事ノ府縣會議長タルハ甚不可ナリ。何トナレバ知事ハ其府縣ニ於テ中央政府ノ代表者タル地ニ立ツ者ニシテ、猶國會ニ於テ各省大臣其主管ニ對シテ政府ノ代表者タルガ如クナレバナリ。若シ知事ヲシテ議長タラシムトキハ、國會ニ於テ大臣ヲ以テ其議長トナスト何ゾ異ナラン。甚不適當ノコトナラズヤ。然レバ知事ハ議長ヲ擔任セシムベカラズト雖モ、名譽職參事會員ノ如キハ中央政府ノ地方ニ付スル國ノ事務ヲ代辦スル任ニアルモノナレバ、之ヲ府縣會ノ選舉ノミニ放任スベカラズ。市長ノ候補者ヲ推薦スルノ例ニ倣ヒ、府縣會ヲシテ其候補者ヲ推薦セシメ、上奏裁可ヲ請フ者トスベシ。何トナレバ名譽職參事會員ハ府縣ノ自治行政ニ對シテハ其權重ク其責モ亦輕カラザル者ニシテ、知事又ハ高等會員ト共ニ參事會ノ事務ヲ擔任スル者ナレバナリ。獨逸ノ例ニ依レバ州長郡府縣知事ハ國ノ行政ノミヲ擔任シ、州ノ自治上ニ於テハ監督ノ權ヲ有スルニ止マリテ、州ノ自治行政ノ施行權ハ州部長ナル者アリテ專擔スト雖モ、猶其州部長ハ國王ノ認可ヲ受ル者トナセリ。況ンヤ府縣制ノ如ク知事又ハ高等參事會員會ト共ニ府縣參事會ノ事務ヲ擔任スル名譽職參事會員ニ於テヤ。現今ノ府縣會常置委員ノ知事ノ諮問ニ答フルガ如キ類ナレバ、名譽職參事會員ノ選舉ハ府縣會ニ放任シテ可ナリト

雖モ、府縣公共ノ事務ヲ施行スルノ權ヲ得セシメタル名譽職參事會員ハ中央政府ノ命ヲ受ケテ地方ノ事務ヲ代辦スルノ主旨ヲ明カニシ、必候補者ヲ推薦シ、上奏裁可ヲ請フ者トセザルベカラザルナリ。然ラザレバ府縣ノ自治ハ自治制ノ本義ヲ誤リ、地方分權ハ尾大不振ノ憂ヲ生ズルニ至ランモ亦測知スベカラズ。名譽職參事會員ノ選舉法ハ實ニ其關係スル所大ナルモノナレバ、忽諸ニスベカラザルナリ。郡制府縣制草案理由書第六ニ、今後自治制ノ益發達スルニ從ヒ更ニ其範圍ヲ皇張シ名譽職ヲ利用シテ諸般ノ官政事務ヲ擔任セシムルニ至ル可シト明辨セラレタルヲ以テ見レバ、終ニ府縣ノ自治行政ハ知事ノ外ニ其專擔者ヲ置キテ施行權ヲ與ヘラルルノ期必アルモノナラン。果シテ然リトセバ其專擔者ハ候補者ヲ推薦スルノ法ヲ以テ裁可スルコト獨逸ノ如クナルベキハ勿論ナルベケレバ、今日ニ於テ名譽職參事會員ノ選舉法ヲ彼ト同ジカラシメ、參事會員ハ中央政府ノ代辦者タルノ主旨ヲ豫メ明示スルノ益必要ナルヲ感ズ。若シ自治ノ制ハ中央政府ノ代辦者ノ施行スベキ者タル本義ヲ誤ルトキハ、自治制ハ即共和制ト其性質ヲ變ズルニ至ルト云ハザルベカラズ。是本官ノ深ク憂フル所ナリ。

府縣制郡制施行ノ時期ハ、府縣制第九十九條ニ此法律ハ郡制市制ヲ施行シタル各府縣ニ施行スルモノトス。其施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ内務大臣之ヲ定ムトアリ。郡制第九十八條ニ

モ郡制ハ町村制ヲ施行シタル各府縣ニ施行スル者トスルノ明文アリ。然レバ政府ノ意ハ市制町村制ヲ施行シ、實際ノ情況ヲ見タル後ニ於テ之ヲ施行スルニ在リテ、急遽ニ施行セントスルニアラザルヤ明カナリ。果シテ然ラバ之ヲ今日ニ發布スルハ向來ニ施行セントスル地方自治ノ方向ヲ豫メ示スニ過ギザル者ニシテ、即ち地方人民ニ其準備ヲナサシムルノ好意ニ出ルト云フ外ナシ。市町村制ヲ施行スレバ市町村ノ府縣郡ニ對スル方向ヲ示スハ實ニ必要ナリト雖ドモ、退キテ熟考スレバ市町村ニ於テ自治制ヲ施行シ、其情況ヲ見タル後漸次施行スルノ意アル府縣制郡制上ハ之ヲ發布スルコトヲ急グハ得策ニアラズ。何トナレバ市町村制ノ施行上ニ就キ府縣制郡制ノ更正ヲ要スルモノ無キニアラザルベケレバナリ。況ンヤ府縣制郡制ヲ施行セザルモ市町村ノ自治既ニ行ハル、トキハ全國執レノ地方カ自治制ノ行ハレザル所アラン。三千八百萬人ノ多キ誰カ自治ノ人民タラザル者アラン。又市町村ニ自治行ハル、上ハ國家獨立ノ基礎ハ既ニ成立スル者ニシテ、之ヲ府縣郡ニ及ボサザルモ二十三年ニ至リ國會ヲ開クニ何ノ障礙アルヲ感ゼザルナリ。但既ニ市町村ニ自治ヲ施行スルヲ以テ町村ノ自治ト府縣ノ行政トノ聯絡ヲ保維スルノ機關ナカルベカラズトセバ、先ヅ郡制ノミヲ發布シ、町村ト郡トノ關係如何ヲ豫メ示シテ可ナリ。府縣制ノ如キハ暫ク之ヲ發布セズ、市町村自治ノ情況ヲ視察シ、然ル後其利害得失ヲ研究シ元老院モ亦其情況ニヨリ論究センコト實ニ肝要ノ事ナリ。仍テ府縣制郡制ハ議事ヲ猶豫スベシ。若シ止ムヲ得ザレバ先郡

制ノミヲ議スベシ。

本官ハ曩ニ委員會ニ修正說ヲ生ジタリト雖モ、當時研究足ラズシテ其說ノ適實ナラザリシガ故ニ、一ノ取ルベキモノ無カリシナラント今日ニ於テハ輕々意見ヲ述ベタルコトヲ慚愧セリ。

爾來熟考スルニ地方自治ハ立憲政體ヲ立ツル基礎ニシテ、地方分權ハ國會ノ準備ナル上ハ、國會開設ノ前ニ於テ地方自治ハ施行セザルベカラザル者ナラン。故ニ本官モ我國體ノ許ス限リ我憲法ニ牴觸セザル限リハ地方自治ノ制ヲ施行センコトヲ希望スル論者ノ一人ナリ。

然ルニ本案ノ精神タル中央政府ノ代表者タル府縣知事ノ監督權強クシテ府縣會ノ議長モ知事之ヲ擔當シ、郡會ニ於テハ郡長之ヲ擔當シ、而シテ知事郡長ハ官政ノ擔任者ニシテ自治ノ機關タル參事會ノ議長ヲモ兼擔スルコト、ナシタリ。之ヲ獨逸ノ州ニ於テハ州長ハ官政事務ノミヲ擔當シ、自治ノ事務ハ州郡長ノ專任スルニ比スレバ官政上ノ監督權ハ甚強クシテ本案ノ自治制ハ獨立ノ力弱キコト佛國ノ自治制ノ官ノ後見者アルガ如キニ類似セリ。是內閣ニ於テ深ク彼我ノ國體ト政體トヲ斟酌セラレタルニ因ルモノナラン。然ルニ自治ノ本態上ヨリ論ズレバ官政ト自治トノ區域ヲ判然ナラシムルハ必要ノコトナルニ拘ハラズ、草案理由書第六章ニ、

抑自治ノ本態ハ共同體ヲシテ其共同事務ヲ處理セシムルニ在ルノミナラズ、猶人民ヲシテ官政

事務ニ參與セシムルニ在ルナリ。此點ニ關シテハ町村制ニ依テ大ニ進歩ヲ爲シタリト雖モ、今後自治制ノ益發達スルニ從ヒ更ニ其範圍ヲ皇張シ、名譽職ヲ利用シテ諸般ノ官政事務ヲ擔任セシムルニ至ル可シ。然ルニ府縣ノ機關ハ多ク訴願ノ裁決ニ從事スルモノナレバ、此ノ如キモノニ適セズ、郡ノ機關最其任ニ適セリ。就中郡參事會及郡委員是ナリ。

是ヲ以テ見レバ政府ノ向來ニ施行セントスルノ意見ハ實ニ官政ノ權力ヲ殺ギテ地方自治ノ力ヲ強大ニセントスルニ在ルガ如シ。此理由書ハ本案ノ法律トナリテ發布アルト共ニ發布アル者ナランニ、如此ニ行過ギタル主意ヲ世上ニ發スルハ實ニ急躁ナル論者ヲシテ地方自治ノ權力ヲ妄ニ強大ナラシメントスルノ口實ヲ與フル者ニシテ、不都合ヲ極ムト云ハザルベカラズ。但此ハ餘計ナル論ナレバ暫ク措キテ論ゼズ。

本案ノ可否ヲ論ゼンニ、三十番ハ本案ハ可ナレドモ之ヲ發布スルハ尙早ケレバ廢止スベシト云フニ在リ。本官モ今日ニ發布スルハ尙早シト思ヘドモ、元來施行ノ時期ハ府縣九十九條、郡制九十八條ニアルガ如ク、郡市町村制ヲ施行シタル實地ノ情況ヲ見タル上定メラル、者ナレバ、三十番ノ論ノ如ク本案ヲ可トスル上ハ尙早シト云フ心配ニハ及ベカラズ。唯本官ハ自治ハ立憲政體ノ基礎ヲナスモノニシテ、國家ノ制度憲法ニ大關係アル者ナレバ、自治制ノ精神組織ハ國ノ大憲タル憲法ノ精神組織ニ基キテ制定スベキモノナリト確信セリ。而シテ憲法ハ欽定ニシテ未ダ其精

神組織ノ如何ナルカヲ知ルヨシ無シ。道路ノ說ニヨレバ來春ハ憲法ノ發布アラント。果シテ此說ヲ信ナラシムレバ、本案ヲ議スルノ時期ハ暫ク延引シ、憲法發布ノ後ニ於テセンコトヲ希望ス。國會ヲ開設スルハ明後年ニシテ、今本案ヲ可決シ發布スルモ其施行ノ時期ハ早クモ明後年ニ至ルベケレバ、本案ハ必本年中ニ發布ヲ要スル程ノ急ナルモノニアラズ。

如此論ジ來タレバ本官モ本案ノ發布ハ尙早シト云フ論者ノ贊成者タラザルベカラズ。而シテ修正案中ニ就キテ一二ヲ論ズレバ、法人ノ資格ヲ有スルノ數字ヲ刪除シタルハ唯其名ヲ嫌ヒテ其實ヲ顧ミザル者ニシテ、既ニ法人タル資格ヲ府縣郡ニ有スルヲ不可トスルノ精神アレバ、自治制ハ不可ト云ハザルベカラザル者ナリ。然ルニ知事郡長ヲ以テ議長トナスコトヲ修正シタルハ實ニ解スベカラザル前後撞着ノ事ト云ハザルベカラザルナリ。故ニ法人ノ資格ヲ有セシムルト否トハ自治制ヲ可否スルノ區別論ト同ジケレバ、本官ニ於テハ修正委員諸君ハ自治制ノ不可論者ト見做サザルヲ得ズト思ヘリ。是本官ノ原案ヲ贊成シテ修正案ヲ不可トスル所以ナリ。本官ノ意見ヲ總括スレバ本案ハ憲法發布ノ後ニ議スベキ者ト信ジタルヲ以テ、三十番ノ尙早シノ問題ニ起立ヲ問ハル、トキハ其主旨ハ異ナルモ一步ヲ讓リテ贊成セント思ヘリ。

府縣制郡制ノ原案一應返上スベキ命アルヲ
聞キテ聊意見ヲ陳述ス

府町村制ヲ發布スルニ當リテ其草案理由書ニ記スル所ヲ見レバ府縣郡市町村ヲ以テ三階級ノ自治體トナシ、斯階級ヲ立ルハ緊要ナリトセリ。而シテ其階級ナルモノハ市町村ニ施行スルト同一ナルモノヲ府縣又ハ郡ニ施行スルニアラズシテ、地方制度中ニ於テモ市町村ニ施行スルト府縣又ハ郡ニ施行スルトハ其趣ヲ異ニスルノ緊要ナリト云フモノナルベシ。是秩序ヲ重ンズル君主國ノ制度ニ於テ必如此ナラザルベカラザルモノナリ。

然ルニ曩ニ下付ノ原案即府縣制度及ビ郡制市町村制トヲ對照比較スルニ、區域ノ廣狹ト事務ノ繁閑トニ因テ其組織ニ於テハ異ナル所アリト雖モ、其精神ハ均シク人民ニ自治ノ權ヲ與フルニ在リテ府縣又ハ郡ノ公共事務ヲ視ルコト猶市町村公共ノ事務ノ如シ、故ニ府縣及ビ郡ハ國ノ行政區劃タルニ拘ラズ、自治行政ヲ施行スルモノトシ、自治制ノ職員ハ自治體ノ權力ヲ以テ進退シ、參事會ノ名譽會員ノ選任ニ於ル府縣廳又ハ郡衙ノ吏員ノ進退ニ於ケル一モ官府ノ命ニ出デザルノミナラズ、認可ヲ受クベキモノニアラザルモノトナシタリ。是國ノ主權即統御權ノ強弱ニ關係スル所ナキモノナルカ、深ク論究セザルベカラザルナリ。

我國ハ皇統一系萬世ニ統御シタマフ國體ニシテ、國ノ統御權ハ君主ノ專有シタマフモノナルハ贅言ヲ俟タズ、然レバ府縣又ハ郡ノ公共事務ノ如キモ素ヨリ國家ノ事務ノ地方ニ關スル部分ニシテ、其事務ノ處辨即執行權ヲ人民ニ與ヘテ自治セシムルトキハ君主權ノ一地方ニ關スル部分ヲ殺ギテ人民ニ與フルト云フモ誣言ニアラズ。故ニ府縣又ハ郡ニ自治制ヲ執行スルハ我國體ノ許サ、ル所ニシテ、我國古來ノ政治上ニ其慣例無キ大變革ナル上ハ、向來必如此ノ制ヲ布カザレバ國體ヲ鞏固ニスルコト能ハズ、君主權ヲ堅牢ナラシムルコト能ハザランモ、之ヲ今日俄然施行スルハ急進ニ過ルモノト云ハザルベカラズ。況ンヤ英佛獨等ノ各國ノ如キハ國ノ組織上我國ト大ニ異ニシテ、彼ニ適スルモ我ニ不可ナルモノ少カラズ、而シテ彼國ノ自治體ニ於テモ數十年ノ久シキヲ經テ漸ク今日アルニ至レルモノナレバ、宜シク彼我ノ國體ノ異同ヲ精査シ、急進ニ過ツコト無カラシコトヲ期セザルベカラズ。

然ラバ地方分權ハナスベカラザルモノナルカ、自治ノ制ハ施行セザルベカラザルモノナルカト云ハ、決シテ然ラズ、何トナレバ國ノ強弱ハ人民ノ強弱ニアリテ、下人民ノ權力強キトキハ上君主ノ威權ヲ増加スベキモノニシテ、譬バ君主ハ家宅ノ如ク、人民ハ地盤ノ如シ。家宅ノ永遠ニ鞏固ナルヲ欲スレバ必地盤惣體ノ力ヲ鞏固ナルニ因ラザルベカラズ。故ニ君主權ハ之ニ服從スル人民ノ權力ノ強弱ニ因テ其強弱ヲナスモノナルヲ以テ、立憲政體ヲ立テラレテ人民ニ參政權ヲ與